

メキシコ合衆国
国別重点分野に対する JICA の
取り組み方針策定に係る基礎調査
(プロジェクト形成調査)(貧困)
報告書

平成 14 年 3 月

国際協力事業団

序 文

現在、国際協力事業団では担当 ODA 事業の一層の質的改善を目指し、国別事業実施計画の作成、課題別要望調査の実施、課題別指針の策定など、国別・課題別アプローチ強化の取り組みを実施しています。

その流れの中で国別事業実施計画は平成 11 年度より作成を開始しておりますが、内容の更なる充実を図ることが必要です。

このため既存の国別事業実施計画の中でこれまで分析が不足していた開発課題について、本調査を実施することとしました。

本調査は、日本国内において、入手可能な図書・資料、インターネットを通じて得られる情報の分析、関係者へのヒヤリングを通じて実施したもので、調査対象国の現地調査は含まれておりません。

そのため本報告書内容に不足が見いだされるかも知れませんが、本報告書はあくまで日本国内にて入手可能な情報に基づき作成したものの制約があることを踏まえつつ、今後の国別事業実施計画の充実化のための基礎情報として活用するとともに、案件形成のための基礎情報として活用することを狙いとしております。

本報告書が、国別・課題別アプローチの強化の一助となれば幸いです。

平成 14 年 3 月

国際協力事業団

中南米部長

川路 賢一郎



- 1. AGUASCALIENTES
- 2. CUANAJUATO
- 3. QUERETARO DE ARTEAGA
- 4. HIDALGO
- 5. TLAXCALA
- 6. MORELOS
- 7. DISTRITO FEDERAL
- 8. MEXICO

目 次

序 文

地 図

第1章 社会経済状況	1
1 - 1 経済状況	1
1 - 2 人 口	1
第2章 地域間格差及び貧富の格差の現状	3
2 - 1 貧富の格差	3
2 - 2 マージナリティ (marginación)	8
2 - 3 先住民族にかかわる地域・貧富の格差	15
2 - 4 農村部の現状	21
2 - 5 都市部の貧困	22
2 - 6 ジェンダーにおける格差	23
2 - 7 貧困の形成と拡大	24
2 - 8 メキシコ政府の開発計画	36
2 - 8 - 1 開発計画	36
2 - 8 - 2 貧困問題についての担当官庁	40
2 - 9 開発ポテンシャル(可能性)	44
第3章 援助動向	46
3 - 1 国際機関・援助国の援助動向	46
3 - 2 NGO による援助動向	48
第4章 対象分野における JICA の協力の方向性	50
第5章 開発課題の設定	53
第6章 開発課題の下に実施されるべき協力プログラム概要	56

付属資料

資料1 .最低賃金(州別、カテゴリー別、2000年2月).....	63
資料2 .最低賃金(ペソ/日)	66
資料3 .マイクロリージョン(2002年).....	67
資料4 .貧困削減に対する主な援助(1990年以降、国際機関、二国間)	87
資料5 .参考文献	89

図表リスト

表1 - 1 産業別雇用状況の変遷(1970 ~ 2000年)	2
表2 - 1 5歳以下の子供の健康状態(地方・都市、所得分位別、1999年)	6
表2 - 2 所得別住宅状況(2000年).....	7
表2 - 3 所得別の金融へのアクセス状況	8
表2 - 4 州別マージナリティ(2000年).....	9
表2 - 5 州別マージナリティ(1995年).....	9
表2 - 6 主要人口関連指標(2000年).....	12
表2 - 7 ムニシピオ別マージナリティ(ゲレロ州、2000年)	14
表2 - 8 先住民族人口の推移.....	15
表2 - 9 5歳以上の先住民族人口(州別、2000年).....	16
表2 - 10 先住民族居住地(ムニシピオ別)のマージナリティ(2000年).....	17
表2 - 11 先住民族の保健医療指標	18
表2 - 12 先住民族への基礎インフラの普及状況	19
表2 - 13 教育指標の比較	20
表2 - 14 先住民族の収入状況(1995年).....	21
表2 - 15 4戦略とライフ・サイクルの対応表	36
表3 - 1 現在実施中の貧困削減に関連があるプロジェクト(世銀).....	46
表3 - 2 現在実施中の貧困削減に関連があるプロジェクト(米州開発銀行)	47
図1 - 1 人口グループ別推移(1995 ~ 2015年)	2
図2 - 1 所得配分(分位・地域別、2000年).....	3
図2 - 2 義務教育の就学状況.....	5
図2 - 3 所得別世帯の経済的依存度	7
図2 - 4 州別マージナリティ(2000年).....	10
図2 - 5 ムニシピオ別マージナリティ(全国、2000年)	11

図 2 - 6	ムニシピオ別マージナリティ(ゲレロ州、1995年)	13
図 2 - 7	先住民族の居住地域(1993年).....	17
図 2 - 8	都市・地方の人口の推移(1930～2000年)	22
図 2 - 9	1人当たりのGNPの推移(1960～2000年)	25
図 2 - 10	メキシコの人口と死亡率の推移(1930～2000年).....	25
図 2 - 11	メキシコの人口及び先住民族人口の推移(1930～2000年).....	26
図 2 - 12	州別1人当たりの年平均GDP成長率(1995～2000年)	30
図 2 - 13	社会開発省組織図(抜粋)	41
図 5 - 1	開発課題体系図	54
図 5 - 2	開発課題ごとの相関図(試案)	55

第1章 社会経済状況

1 - 1 経済状況

メキシコは1980年代の債務危機を発端とする「失われた10年」、1980年代後半から1990年代前半にかけての改革の時代を経て、1996年から2000年までの5年間は平均5.5%と高い経済成長率を記録してきた。これは同国の最大の貿易相手国である米国経済の好景気、原油価格の高騰、内需の拡大に支えられたものである。また1980年以降現在までの約20年間で、出生児平均余命は66.2%(1980年)から73.8%(1998年)へ、乳児死亡率は33.9%(1980年)から14.5%(1999年)へ、妊産婦死亡率は9.5%(1980年)から5.1%(1999年)へ、さらに成人の識字率は86%(1980年)から91%(1999年)へと社会指標の状況は著しく改善されてきた。

しかしながら、この20年間を通しての1人当たりの年平均GDP成長率は0.1%に過ぎず、依然としてメキシコには約840万世帯、約3,800万人(全人口の約4割)もの国民が貧困状態にある。そしてこれらの貧困世帯の75%には栄養失調に陥っている5歳以下の乳幼児がいるとされている。また所得の偏在を示すジニ係数も0.57(2000年)と非常に高く所得格差が大きい。さらに2000年までは好調であった経済状況も、最近の米国経済の後退の影響を受けて2001年の経済成長率は1%程度であろうと推定されており、更なる貧困の拡大が予想される。

1 - 2 人口

メキシコは1970年代初頭から出生率が次第に低下するようになった。1970年には44.2‰(対人口千人)であった出生率は、1988年には30‰、そして2000年には22‰へ減少した。これは主に合計特殊出生率(女性1人当たりの子供の数)の減少、特に都市部における減少によるもので、1974年から1999年までの間にその数値は6.1から2.5へと減少した。しかしながら、1970年代までの高い出生率の影響で現在も人口が増加し続けており、2001年には既に1億人を越えたと推定されている。国立人口評議会(Consejo Nacional de Población: CONAPO)によると、メキシコの人口は少なくとも2040年代まで、1億3,200万人ぐらいまでは増加し続け、2050年代になって初めて減少に転じると推定している。また労働人口¹⁾は1995年から2015年の間では年平均1.9%の増加率を予想しており、これによると2000年から2005年までで平均約120万人、2005年から2010年までに110万人が、2010年から2015年までに約100万人が労働市場に新規の労働力として参入していくこととなる。

1)12歳以上で職業に就いている人。

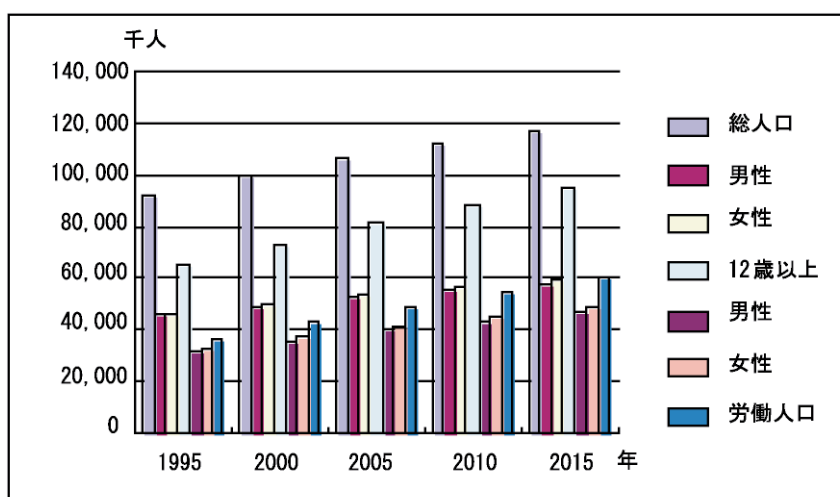


図 1 - 1 人口グループ別推移 (1995 2015 年)

出所：Prospectiva demográfica y económica de México y sus efectos sobre la pobreza, CONAPO

1970年から1996年までの年平均の雇用創出数は83万9,000人、最も多かった時期は1988年から1996年までで年平均94万3,000人であった。1997年以降現在までは年平均約85万人である(表1-1)。したがって現在の規模で雇用が創出されたとしても、毎年約100万人もの新規労働人口をすべて吸収することは困難である。非常に単純な計算であるが、毎年約25万人もの失業者(就労できない者)を生み出すことになる。メキシコの失業率が経済状況と比較して相対的に低く押さえられているのはインフォーマル・セクターの存在が大きく、正規雇用と失業の間で緩衝材の役割を果たしている。したがって毎年創出される労働人口の余剰分はインフォーマル・セクターに吸収され、ある種のワークシェアリングの形態をとると予想されるが、実際は仕事の共有というよりは貧困の共有(Poverty Sharing)である。

表 1 - 1 産業別雇用状況の変遷 (1970 ~ 2000 年)

	1970	1979	1988	1996	2000
農林水産業	41.4	28.9	23.5	22.2	18.1
鉱業	2.0	1.0	0.9	0.4	20.4
製造業	19.3	19.5	19.7	16.2	N.D
建設業	4.7	6.4	5.4	5.0	6.4
電気、ガス、水道	N.D	N.D	0.5	0.6	N.D
商業、飲食業、ホテル	9.9	13.8	19.3	21.6	17.5
輸送、倉庫、通信	3.1	3.3	3.8	4.1	4.4
サービス業	19.6	27.1	26.9	29.9	32.7
計	100.0	100.0	100.0	100.0	
従事者数(千人)	13,873	19,177	28,128	35,682	38,983

出所：Prospectiva demográfica y económica de México y sus efectos sobre la pobreza, CONAPO

第2章 地域間格差及び貧富の格差の現状

2000年3月18日から22日にかけて、開発金融国際会議がメキシコのモンテレー市で開催された。会議に先立ちメキシコ政府は「メキシコは途上国と先進国の架け橋となる」との声明を出した。またフォックス大統領は地元の新聞記者のインタビューに対し「メキシコは途上国と先進国の架け橋となることができる。なぜならばメキシコには豊かさと貧困が同居しているからである」と答えている。実際、メキシコはOECD加盟国であると同時に、域内では最大の貧困人口を抱えている。

2 - 1 貧富の格差²⁾

(1) 所得配分

図2 - 1³⁾の表の部分は、全世帯を所得の低い順から並べ同じ人口で4分割し、最も所得の低いグループを第1分位とし次に所得の高いグループを第2分位とし以下順に割り振っていき、さらに各分位に属する人口の都市/農村人口の割合を示したものである。円グラフは農村、都市人口をそれぞれ100として先の各分位に属する人口の割合を示したものである。

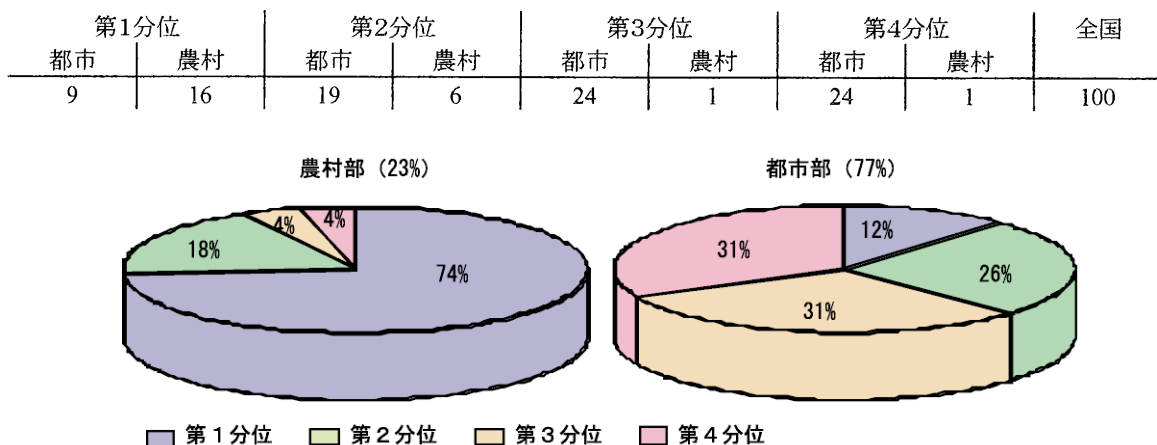


図2 - 1 所得配分(分位・地域別、2000年)

出所: Programa Nacional de Desarrollo Social 2001-2006, SEDESOL

メキシコでは全世帯(2,348万4,752世帯、2000年)の約4分の1は人口2,500人以下の地区に居住しており、そのうち約4分の3は所得が最も低いグループ(第1分位)に属する。ま

2)「2 - 1 貧富の格差」は国家社会開発プログラム2001～2006年(Programa Nacional de Desarrollo social 2001 - 2006)の貧困の現状(“En dónde estamos”)によっている。

3)この表及びグラフは、全国家計調査(2000年)を基に作成されている。本調査では使用されたデータが特定できなかったため、各分位の所得額については他のデータ(図2 - 1と同じ1次データを使用していると思われる)使って推定した。第1分位から第4分位の1人当たりの月平均所得の推定額は、それぞれ、30ペソ、100ペソ、300ペソ、1,050ペソである。

た所得が最も低いグループに属する世帯のうち約3分の2は人口2,500人以下の地区に居住している。

貧困世帯の平均構成員数は全国平均の4.3人よりも1人以上多く、これは貧困世帯の方が多くの子供を抱えていることを反映している。最も所得の高いグループ(第4分位)では10世帯当たりの5歳以下の子供の数はわずか2人であるのに対して、所得が最も低いグループ(第1分位)では9人であり、5歳以下の子供の4割以上が最貧困世帯に属している。

...子供達にどうしたら貧困に歯止めがかかるかと尋ねた。すると子供達は、「遺産をもらおう」、「アメリカで暮らしている親戚からお金をもらおう」、「信仰をもって、毎日お祈りをする」と回答した。また、なぜ金持ちと貧しい人々がいるのかと質問すると、「運命」、「このように、神様がこの世を創ったから」、「金持ちは悪魔が作り、貧しい人は神様が作る」と彼らは答えた。これらの回答は、自らのコントロール、個人の努力、勉強、労働の範疇外の要因を挙げており、自らの社会的、経済的地位を向上できるとは思ってもいない(貧しい人々の声、世界銀行)。

(2)教育格差

全国の15歳以上の非識字率は約10%である。しかしながら最貧困世帯(第1分位)での非識字率は約30%にもものぼる。特に深刻な問題は、15歳から18歳までの年齢層での非識字率で、最も所得の高いグループでは非識字率が0%であることに対して、最貧困世帯層では同年代の非識字率が約8%にも達していることである。

(3)小学校

全国平均では小学校の就学率は98%であるが、最貧困世帯(第1分位)では90%となる。小学校への未就学児童は農村と都市、男女の間に差はない。初等教育網(家から5km以内)は全国の約98%をカバーしており、最貧困世帯における未就学の主要因が学校へのアクセスの欠如によるものではないことを示している。しかしながら貧困の度合いが高い地域では初等教育網のカバー率は85%に下がり、依然としてそこでの小学校へのアクセスの欠如は重要な課題である。

(4)中学校

中学校へ進学した子供のうち全国平均で約20%が途中で通学を放棄している。富裕層(第3、4分位)ではわずか3%であるが、貧困世帯(第1、2分位)ではこの数値は平均値の2倍となる。学校へ行かなくなる主な理由は家計を助けるために働くためで、実際に全国の12歳から14歳の子供のうち約8%は働いており、そのうちの約80%は貧困世帯に属する子供である。

貧困世帯(第1、2分位)に属する子供たちの中学校進学率は約60%である。残りの約40%

の子供たちは「お金がない」「働かなければならない」を中学校に進学しない直接的な理由としてあげている。

図2 - 2 は最貧困世帯(第1分位)と最富裕世帯(第4分位)それぞれに属する子供たちの義務教育(小学校、中学校)の就学状況を示したものである。これによると100人の富裕世帯の子供たちは、100人が小学校に入学し、97人が卒業する。そして93人が中学校に進学し、83人が卒業している。また100人の最貧困世帯の子供たちは、92人が小学校に入学し、76人が卒業する。そして47人が中学校へ進学し、29人が卒業していることが分かる。

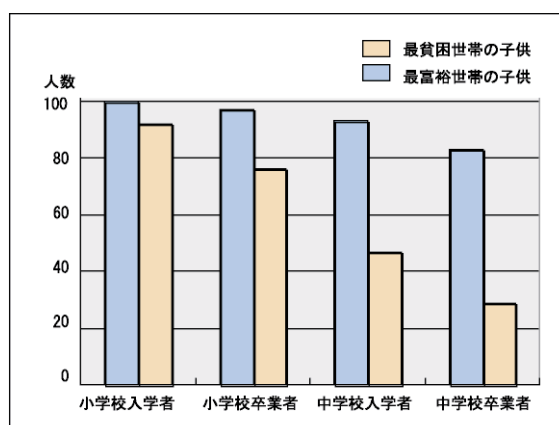


図2 - 2 義務教育の就学状況

出所：Programa Nacional de Desarrollo Social 2001-2006, SEDESOL

(5) 医療サービスへのアクセス

保健医療サービスへのアクセスの状況は適切な健康状態を維持するための機会の状況を知るための指標である。現在の保健医療サービスへのアクセスは都市と農村では大きな違いがある。農村では家庭から保健医療サービスへのアクセスは一般的に困難である。農村の約30%の住民は保健センターまで30分以上かかる一方、都市部では保健センターまで30分以上かかる住民はわずか15%である。さらにマージナリティ⁴⁾の違いによっても大きな差がある。現在では徐々に縮まってきているが、マージナリティの高い地域に住んでいる住民の約25%は家から保健センターまでの距離が5km以上ある。しかしマージナリティが低い地域では約16%である。

メキシコシティでのインタビューに答えた人の3分の2は、医療診療所の質の低さと交通手段の不足に不満を持っている。この比率は農村部ではさらに高い。サカテカスの農村部では、最も近い診療所までの交通費は平均41米ドルであり、これは麻織りというこの地で唯一の賃金労働の1か月分の収入に相当する。「サカテカスでは家族の病気のために全ての家畜を失ったり、2,000~5,000ペソ(365~900ドル)の債務を負っ

4)メキシコではある一定の地域(地区 = Localidad、ムニシピオ = Municipio、州 = Estado)の貧困の度合いを示す指標としてマージナリティという合成指標を作成している。マージナリティについては次項で述べる。

たという話しは珍しくない」(貧しい人々の声、世界銀行)

(6) 栄 養

食糧の供給状況も健康を計るうえで重要な要素である。農村で点在、孤立している地区では食糧の供給は不足がちであり、都市部に比べて輸送コスト、販売量、価格競争が無いなどの理由により食糧の価格は高くなる傾向にある。

表 2 - 1 5 歳以下の子供の健康状態 (農村・都市、所得分位別、1999 年)

	地域	第1分位	第2分位	第3分位	第4分位
栄養失調 (%)	都市	24	9	6	5
	農村	34	9	7	-
下痢症 (%)	都市	15	10	10	6
	農村	14	11	8	-
重度の呼吸器疾患 (%)	都市	21	19	16	13
	農村	24	22	10	-

出所 : Programa Nacional de Desarrollo Social 2001-2006, SEDESOL

低所得世帯の 5 歳以下の子供 (男女ともに) の約 30 % が中度及び重度の栄養失調に陥っている。栄養失調の発生率は最低所得世帯 (第 1 分位) とそれ以外のグループとでは約 3 倍以上もの差があり、また第 1 分位においても農村部と都市部では格差があり、農村部の方が都市部よりも 10 % 高くなっている。しかしながら第 2 ~ 第 4 分位では都市と農村の差はなく、これは食糧供給事情を反映していると思われる。

下痢症や呼吸器疾患の発生率も低所得世帯は都市、農村ともに他のグループより高い。最低所得世帯 (第 1 分位) と最高所得世帯 (第 4 分位) との発生率を比較すると下痢症及び呼吸器疾患ではともに約 2 倍の差がある。

所得が高い世帯の妊産婦はほぼ全員が妊産婦検診を受けている一方、低所得世帯の妊産婦では検診を受ける割合が 80 % に下がる。また低所得世帯で妊産婦検診を受けている人の平均受診回数は 5 回であるが、高所得世帯でのそれは平均 8 回である。つまり子供にとっては生まれる前からその健康について格差がある。

(7) 住 宅

表 2 - 2 は所得別に住宅の状況を示したものである。4 つの項目すべてにおいて最低所得世帯のみが全国平均を超えており、他のグループは平均以下である。

全国平均で約 14 % の家屋には上水設備がない。これが最低所得世帯では約 37 % となり全国平均の 2 倍以上であり、他のグループと比較すると著しく高い割合となっている。多くの場合第 1 分位に属する世帯は人口が非常に少ない集落や都市から離れた地区に居住しており、それらの地域の基礎インフラが未整備であることを示している。上水へのアクセスの欠如は、飲

料水、入浴、食事等に影響を与え世帯の衛生状況の悪化、疾病の発生に拍車をかけることとなる。

表 2 - 2 所得別住宅状況(2000年)

	第1分位	第2分位	第3分位	第4分位	全国
上水設備がない家屋(%)	37	11	5	2	14
入浴設備がない家屋(%)	30	5	1	0	10
土床の家屋(%)	42	5	1	0	13
脆弱な材料で作られた屋根(%)*	23	10	7	5	12

出所：Programa Nacional de Desarrollo Social 2001-2006, SEDESOL

*：段ボール、椰子、廃材等

電気の供給については農村、特に低所得世帯が多い地区では依然として整備されていない所がある。全国平均での各世帯への電気の供給率は95%であるが、低所得世帯については85%となる。情報の取得、余暇を楽しむための機器、生産活動に必要な工具、食糧保存や調理機器の多くは電気を必要とするものである。電気が供給されていないということは文化的な生活や生産活動を大いに阻害するものであり、貧困から逃れることをより困難としている。

(8) 所得

低所得世帯に属する成人では約40%の人が収入を得ているのみである。また収入の高いグループと低いグループの賃金を比較すると格差は約4倍となる。低所得グループのなかにおいても農村部と都市部では格差があり、同じ教育レベルであっても都市部の方が50%以上も高い賃金を得ることができる。

図2-3は各世帯の経済的依存度(成人1人で何人の無収入の者を扶養しなければならないか)を示している。図によると、高い所得を得ているグループでは約1.3人で、同グループと比較して収入が4分の1である低所得のグループでは約2.9人と2倍以上である。

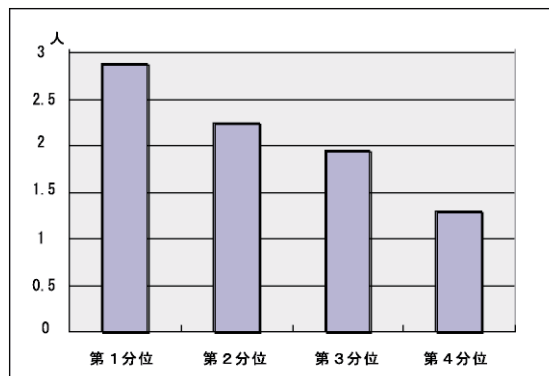


図 2 - 3 所得別世帯の経済的依存度

出所：Programa Nacional de Desarrollo Social 2001-2006, SEDESOL

(9) 融資・貸付

金融システムへのアクセスは低所得層にとって、社会的な移動のための重要な手段である。しかしながら、現実是非常に制限されたものである。表2 - 3は最も所得の高いグループと最も低いグループとの金融制度へのアクセス状況を示したものである。低所得世帯では99%が雇用主や個人からの借金という方法をとっており、金融機関からの貸付を受けた世帯は1%と金融システムからはほとんど閉め出されている状況である。

表2 - 3 所得別の金融へのアクセス状況

	第1分位	第2分位
融資・貸付へのアクセス(%)	2.5	7.5
雇用主もしくは個人からの貸付(%)	99	36
金融機関からの貸付(%)	1	63

出所：Programa Nacional de Desarrollo Social 2001-2006, SEDESOL

全国で金融システムへのアクセスが可能である人、つまり何らかの方法で貸付を受けたことのある人の平均年齢は40歳以上が60%を占め、30歳に達する前に貸付を受けることができた人はわずかに10%であったと報告されている。

2 - 2 マージナリティ(marginación)

メキシコでは地域格差の測定のために「マージナリティ(marginación)」という合成指標を用いている。このマージナリティの測定には以下の教育(15歳以上の非識字率、15歳以上の非初等教育修了者率)、住宅(上水設備の無い家屋の居住者率、下水設備の無い家屋の居住者率、電気の無い家屋の居住者率、土床の家屋の居住者率、1部屋当たりの構成員が一定以上の家屋の居住者率)、人口分布(人口5,000人以下の地区の居住者率)、所得(最低賃金⁵⁾の2倍以下の所得者率)に関する計9つの指標を用いている。それらの各指標を総合評価、指数化して、その指数に基づき5つのカテゴリー(非常に高い、高い、中位、低い、非常に低い)に分類し州やムニシピオといった各行政区や地区等の疎外度、地域格差を測定している。

表2 - 4は州別のマージナリティ指標(2000年)を、図2 - 4はマージナリティの度合いごとに色分けし州別の状況(2000年)を示したものである。全国レベルで見ると北部は比較的マージナリティが低く、南部が非常に高くなっており、ゲレロ(Guerrero)、オアハカ(Oaxaca)、ヴェラクルス-リャヴェ(Veracruz-Llave)、チアパス(Chiapas)の4州のマージナリティは非常に高い。最もマージナリティが高いチアパス州は9つの指標のうち5つ指標で最も悪い数値を記録している。反対にマージナリティが最も低い連邦特別区(Distrito Federal: DF)は1つを除いて最も良い結果となっている。

5)最低賃金は国家最低賃金委員会(Comisión Nacional de Salario Mínimo)で決定される。毎年1~3回程度の見直しがある。金額は物価の違いにより3種類のカテゴリーがあり地域によって違う。詳細は付属資料1「最低賃金(州別、カテゴリー別、2000年2月)、付属資料2「最低賃金(ペソ/日)」を参照。

表2-4 州別マージナリティ (2000年)

州	1	2	3	4	5	6	7	8	9	指数	カテゴリー	順位
アグアスカリエンテス	4.84	23.03	3.38	1.78	1.30	37.82	3.57	24.54	42.23	-0.973	低い	5
バハ・カリフォルニア	3.53	19.59	1.95	2.33	6.83	36.58	4.59	11.62	22.22	-1.269	非常に低い	3
バハ・カリフォルニア・スル	4.21	20.98	3.71	4.62	6.32	38.80	10.42	25.41	35.82	-0.802	低い	6
カンペチェ	11.81	34.22	17.27	8.79	14.61	56.63	14.92	34.51	64.12	0.702	高い	25
チアパス	22.94	50.31	19.33	12.01	24.99	65.03	40.90	61.21	75.89	2.251	非常に高い	32
チワワ	4.79	23.30	5.30	6.27	5.88	36.53	6.96	19.64	37.73	-0.780	低い	7
コアウイラ	3.87	18.79	3.42	1.42	2.18	37.74	4.55	13.37	34.68	-1.202	非常に低い	4
コリマ	7.16	27.20	2.56	1.96	2.18	40.90	12.53	18.20	48.00	-0.687	低い	11
連邦特別区	2.91	12.16	0.44	0.17	1.47	34.82	1.34	0.32	42.43	-1.529	非常に低い	1
ドゥランゴ	5.41	28.75	13.67	6.57	7.00	40.30	13.73	42.12	50.12	-0.114	中位	16
グアナフアト	11.99	35.76	16.10	3.19	6.86	47.10	10.93	37.39	47.29	0.080	高い	20
ゲレロ	21.57	41.92	35.29	11.04	29.54	59.67	39.97	53.44	66.16	2.118	非常に高い	31
イダルゴ	14.92	34.09	17.19	7.66	15.25	49.69	19.02	58.52	65.27	0.877	非常に高い	28
ハリスコ	6.45	26.71	4.93	2.14	6.78	38.46	7.36	19.40	40.93	-0.761	低い	8
メキシコ	6.40	20.84	8.14	1.80	6.23	47.65	7.19	19.38	49.41	-0.605	低い	12
ミチョアカン	13.90	40.19	11.40	4.41	10.87	46.04	19.90	43.09	57.29	0.449	高い	23
モレロス	9.25	26.76	7.17	1.40	7.30	44.26	14.80	23.93	54.28	-0.356	中位	14
ナヤリット	9.05	31.97	9.52	4.75	9.53	44.14	13.25	43.68	56.25	0.058	高い	19
ヌエボ・レオン	3.32	16.49	1.59	1.04	3.62	36.97	3.30	7.57	28.93	-1.393	非常に低い	2
オアハカ	21.49	45.53	18.07	12.54	26.95	59.45	41.60	64.01	71.93	2.079	非常に高い	30
プエブラ	14.61	35.20	11.89	4.75	16.26	54.73	24.09	41.49	63.90	0.720	高い	26
ケレタロ	9.80	26.14	16.37	5.76	6.58	43.74	10.06	42.14	41.72	-0.107	中位	17
キンタナ・ロオ	7.52	25.18	9.23	4.36	5.34	53.01	11.37	21.19	40.37	-0.359	中位	13
サン・ルイス・ポトシ	11.29	34.10	11.43	11.54	20.92	43.85	23.70	44.64	58.82	0.721	高い	27
シナロア	7.96	30.06	10.62	3.35	7.22	47.52	14.53	39.17	48.63	-0.100	中位	18
ソノラ	4.40	22.40	4.19	3.23	3.47	42.18	13.18	21.25	40.95	-0.756	低い	9
タバスコ	9.73	32.27	8.58	5.85	26.49	54.52	13.47	56.10	62.29	0.655	高い	24
タマウリパス	5.13	23.35	2.65	4.97	5.01	42.36	8.95	16.89	46.72	-0.691	低い	10
トラスカラ	7.80	23.42	8.43	2.05	2.48	54.61	8.98	36.88	63.38	-0.185	中位	15
ヴェラクルス	14.87	39.17	10.21	11.11	29.47	51.50	29.29	48.50	68.64	1.278	非常に高い	29
ユカタン	12.30	36.94	24.01	4.12	5.69	52.52	5.62	28.82	67.57	0.381	高い	22
サカテカス	7.97	37.50	19.68	4.03	11.05	42.68	9.12	55.13	58.91	0.298	高い	21

表2-5 州別マージナリティ (1995年)

州	1	2	3	4	5	6	7	8	9	指数	カテゴリー	順位
アグアスカリエンテス	5.62	22.04	4.26	2.68	1.96	55.96	4.04	25.49	53.79	-1.055	非常に低い	5
バハ・カリフォルニア	3.97	17.82	0.46	4.50	13.15	56.13	6.95	10.90	40.53	-1.272	非常に低い	3
バハ・カリフォルニア・スル	4.92	19.66	2.32	6.97	9.01	58.60	12.39	26.16	50.55	-0.836	低い	7
カンペチェ	13.80	28.05	27.96	11.82	21.61	73.05	20.69	35.32	74.00	0.779	高い	25
チアパス	26.07	34.93	27.58	22.78	34.22	81.80	42.32	62.95	81.99	2.362	非常に高い	32
チワワ	5.38	22.52	6.00	8.46	8.13	54.44	9.56	21.91	56.39	-0.776	低い	8
コアウイラ	4.82	17.72	5.23	2.36	5.34	56.34	5.43	14.69	54.57	-1.175	非常に低い	4
コリマ	8.63	23.33	3.53	2.85	4.09	60.06	15.51	19.15	57.98	-0.714	低い	10
連邦特別区	2.98	11.23	0.12	0.08	2.18	56.40	2.29	0.36	47.32	-1.740	非常に低い	1
ドゥランゴ	6.06	27.01	19.22	9.12	10.35	59.17	16.71	44.90	67.71	-0.004	中位	18
グアナフアト	14.09	26.60	18.19	5.11	11.00	66.70	14.14	38.30	67.71	0.127	中位	20
ゲレロ	23.96	26.96	43.17	13.34	35.20	79.62	42.83	53.72	75.94	1.906	非常に高い	31
イダルゴ	16.94	26.70	24.87	10.69	20.48	71.57	24.35	59.94	77.17	1.003	高い	28
ハリスコ	7.44	24.24	7.86	3.37	8.60	60.92	11.15	20.92	61.40	-0.598	低い	11
メキシコ	7.10	19.29	8.66	2.25	8.40	64.48	10.30	20.07	57.22	-0.742	低い	9
ミチョアカン	15.46	27.70	12.84	6.51	13.46	65.81	22.87	43.41	72.99	0.394	高い	21
モレロス	10.57	19.32	6.99	1.30	9.58	62.79	15.70	24.24	62.77	-0.545	低い	13
ナヤリット	10.09	26.40	13.66	5.50	13.24	64.95	16.18	44.63	66.05	0.048	中位	19
ヌエボ・レオン	3.81	15.15	1.32	1.93	5.46	51.93	6.55	8.26	47.69	-1.496	非常に低い	2
オアハカ	23.11	29.17	27.27	14.07	32.89	75.83	43.09	65.58	79.77	1.846	非常に高い	30
プエブラ	16.31	26.86	16.70	7.31	21.27	74.37	28.65	42.60	76.07	0.801	高い	26
ケレタロ	11.89	17.35	23.59	8.44	10.66	62.86	10.81	44.37	57.47	-0.189	中位	17
キンタナ・ロオ	9.72	24.44	14.55	7.44	10.79	70.05	14.33	24.61	53.47	-0.222	中位	15
サン・ルイス・ポトシ	13.19	27.48	16.58	17.95	26.42	62.66	22.87	46.17	72.89	0.762	高い	24
シナロア	8.31	26.45	7.29	4.72	11.92	65.40	17.46	40.37	56.31	-0.212	中位	16
ソノラ	4.95	20.09	3.90	5.25	5.91	59.98	14.78	22.68	51.61	-0.849	低い	6
タバスコ	10.99	28.63	12.84	8.93	34.82	71.04	13.64	57.27	69.56	0.673	高い	23
タマウリパス	5.99	21.37	2.40	9.25	11.04	61.32	12.85	18.97	60.51	-0.579	低い	12
トラスカラ	8.76	20.05	11.97	2.22	4.31	72.65	9.49	35.00	76.19	-0.233	中位	14
ヴェラクルス	16.43	28.43	8.31	17.27	37.76	67.20	29.67	48.62	76.45	1.133	非常に高い	29
ユカタン	15.00	33.52	48.27	5.33	14.38	71.04	17.13	29.32	78.18	0.805	高い	27
サカテカス	9.05	35.58	31.38	7.14	17.22	61.99	13.29	58.04	74.19	0.597	高い	22

- 1. 15歳以上の非識字率
- 2. 15歳以上の非初等教育修了者率
- 3. 下水設備の無い家屋の居住者率
- 4. 電気のない家屋の居住者率
- 5. 上水設備の無い家屋の居住者率
- 6. 1部屋当たりの構成員が一定以上の家屋率
- 7. 土床の家屋の居住者率
- 8. 人口5,000人以下の地区の居住者率
- 9. 最低賃金の2倍以下の所得者率

出所: Indices de marginacion, 1995, 2000, Consejo Nacional de Poblacion (CONAPO)

1995年と2000年のマージナリティ(表2-4、表2-5)と比較すると1から9までのそれぞれの指標は全体的には改善している。しかし各指標で比較すると「土床の家屋の居住者率」のように全州が同じく高い減少(全国平均は-18.6%)を見せているものがある一方、「最低賃金の2倍以下の所得者率」(全国平均は-12.6%)のように20%前後の減少を記録した州(ハリスコ州、グアナファト州、コアウイラ州等)と10%以下の減少のみの州(チアパス州、メキシコ州、オアハカ州、ヴェラクルス州等)と改善に明確な差があることが分かる。順位(全国)については上位に位置する州(連邦特別区、ヌエボ・レオン州、バハ・カリフォルニア州、コアウイラ州、アグアスカリエンテス州)及び下位に位置する州(チアパス州、ゲレロ州、オアハカ州、ヴェラクルス州、イダルゴ州)では変動がなく、中間に位置する州間で若干の変動が見られる。またカテゴリーの変動については、アグアスカリエンテス州が「非常に低い」から「低い」へ、モレロス州が「低い」から「中位」へ、グアナファト州及びナヤリット州が「中位」から「高い」へ、そしてイダルゴ州が「高い」から「非常に高い」へと変動しており、すべてマージナリティの悪化の方向に向かった変動である。

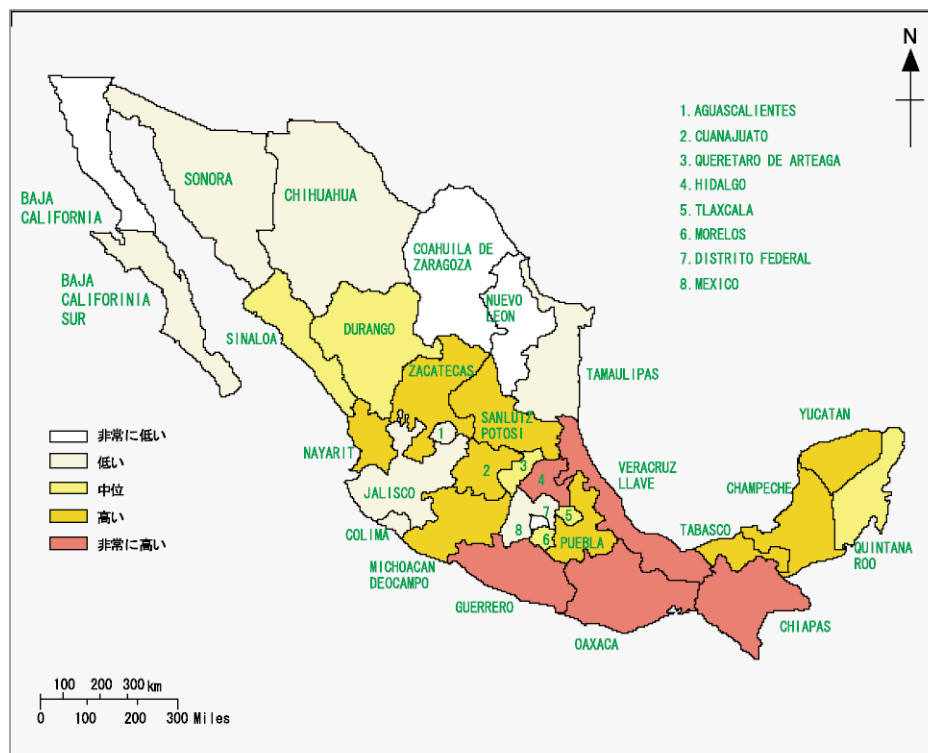


図2-4 州別マージナリティ(2000年)

出所: Indices de marginacion, 2000, Consejo Nacional de Poblacion, CONAPO

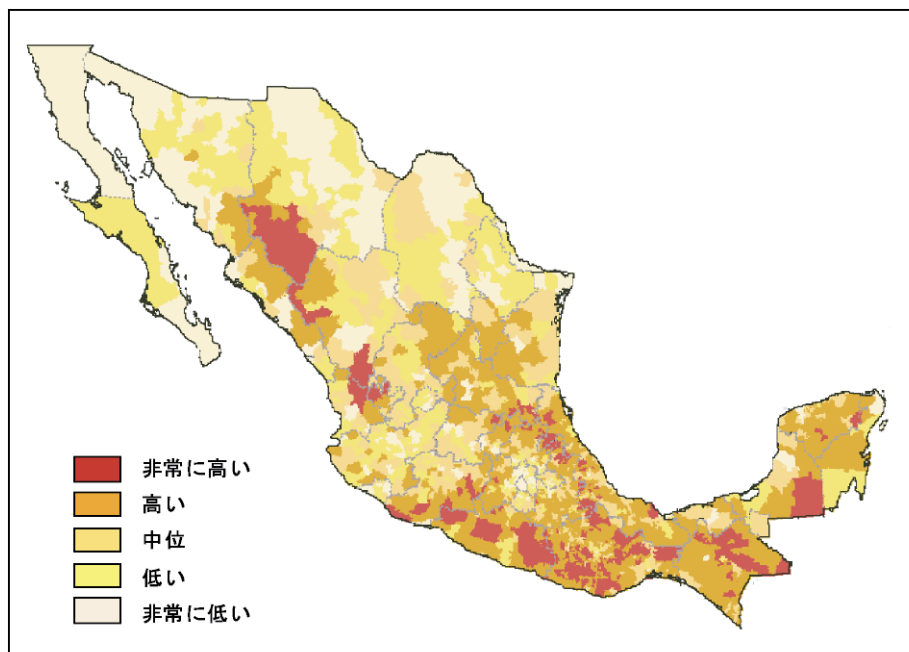


図2 - 5 ムニシピオ別マージナリティ(全国、2000年)

出所：Indices de marginacion, 2000、Consejo Nacional de Poblacion, CONAPO

図2 - 5はムニシピオ別にマージナリティのカテゴリーを色別に示したものである。州別でのマージナリティに反映されているように、マージナリティが「非常に高い」とされている南部5州では多くのムニシピオのマージナリティが「非常に高い」という結果となっている。

しかしそれらの州でもすべてのムニシピオのマージナリティが「非常に高い」わけではなく、また図2 - 4では「中位」及び「低い」と示されていた州、チワワ(Chihuahua)、ドゥランゴ(Durango)、ナヤリット(Nayarit)の各州の一部にマージナリティが「非常に高い」ムニシピオがあり、州の間にも較差があることがうかがえる。

以下1例として州別の「マージナリティ」が「非常に高い」カテゴリーにある南部のゲレロ州の貧困、格差の状況を見てみることにする。

ゲレロ州はメキシコの南部、太平洋側に位置し、その面積は約6万4,824平方キロメートル、人口は約308万人(2000年)である。州の中央をシエラマドレ・スル山脈が走り、州内には7つもの3,000メートルを越す高峰がある。気候は熱帯性気候で、山間部での年平均気温は約21℃、海岸部では約28℃である。6月から10月に降水量は集中し、11月から5月まではほとんど雨の降らない乾期である。ゲレロ州には76ムニシピオ、7,451地区があり、州都はチルパンシンゴ(Chilpancingo)で州中央に位置する。年間約300万人の観光客が訪れるメキシコ有数のビーチリゾートであるアカプルコ(Acapulco)には州の人口の約23.4%が集中している。

表 2 - 6 主要人口関連指標(2000年)

	全国	ゲレロ州	%/全国順位
人口(合計)	97,483,412	3,079,649	3.16
男性	47,592,253	1,491,287	3.13
女性	49,891,159	1,588,362	3.18
人口増加率(1990-2000年)	1.9	1.6	-
合計特殊出生率	2.9	3.7	1
出生率(人口千人に対しての出生)	21.7	25.5	3
出生時平均余命	75.4	73.3	30
海外への移住(対人口比)	1.7	2.4	12
女性で家長である割合(%)	20.6	24.6	2
医療保障への加入率(%)	40.1	20.3	31
死亡率(人口千人に対しての死亡)	4.3	4.8	5
死産率(対生出生1000)	9.6	2.1	30
乳児死亡率	13.8	4	31
5歳から14歳までの死亡率	3.4	2.7	22
生産年齢での死亡率	2.8	2.6	18
妊産婦死亡率	5.3	9.7	1

出所：ゲレロ州のWebサイト(www.guerrero.gob.mx/)

表 2 - 6 はゲレロ州の主な人口関連の指標を全国平均と比較したものである。出生時平均余命、医療保障の加入率、妊産婦死亡率は全国で最も悪い。反対に死産率、乳児死亡率は全国平均を超えており全国での順位も最も良い。妊産婦死亡率と乳児死亡率との間には強い相関関係があり、通常妊産婦死亡率が高い地域は乳児死亡率も高くなるのが普通である。また OECD 諸国の乳児死亡率の平均(1997年)は6%(対1,000出生)で、同州が置かれている条件から考えてみても4%(対1,000出生)という数値はあまりにも低すぎる。この数値が出てきた背景には次のようなことが推測できる。「対象地域では5歳以下の子供が死亡することは、非常に悲しい出来事ではあるが、それはずっと以前からそうであったように大きな出来事ではなく、最初からいなかったものとしてあきらめる。したがってあえて遠くの役所や保健所まで行って届けを出すことをしない。一方、5歳以上の子供や大人が死亡することは、乳幼児と比較するとそう頻繁に起こることではなく相対的に大きな出来事である。したがって届け出をするか、葬儀などで当局の知るところとなる。」⁶⁾ こうした違いが統計データに反映しているのではないかと考えられる。さらに、統計データに反映されていないそのこと事態が、つまり開発や発展から取り残され以前から変わっていないということが、まさに同地域のマージナリティの本質を表している。

6)これは、収集した文献に報告されていたこと、また実際に現地当局者から聴取したことでなく、私見である。しかしながら筆者がニカラグアの大西洋岸地域のマイノリティ居住地区の保健医療にかかわる調査を実施した際に、当該地域の指標が同国の全国平均より著しく良好であったため、理由を尋ねたところ現地保健事務局の局長より同様の回答があったことに基づいている。またこの推論については、メキシコでのフィールドワークの経験のある人口学の専門家及び開発援助に長く携わっている熱帯医学の専門家に確認をとったところおおむねそのとおりであろうとの回答を得ている。これらにより現地調査による実証データではないがあえて記述した。ただし、この推論ですべてが説明できるわけではない。

図2 - 6はゲレロ州のムニシピオ別マーヅナリティを示したものである。州としてのマーヅナリティは「非常に高い」もののムニシピオ別に見てみると格差のあることが分かる。計22ムニシピオのマーヅナリティが「非常に高い」という結果になっており、反対に「非常に低い」ムニシピオはわずかに2ムニシピオしかない。またマーヅナリティが「非常に高い」及び「高い」ムニシピオは山間部に集中しており、アカプルコやイスタバ・シワタネホ等のビーチリゾートのある海岸部のムニシピオの「マーヅナリティ」は比較的低くなっている。

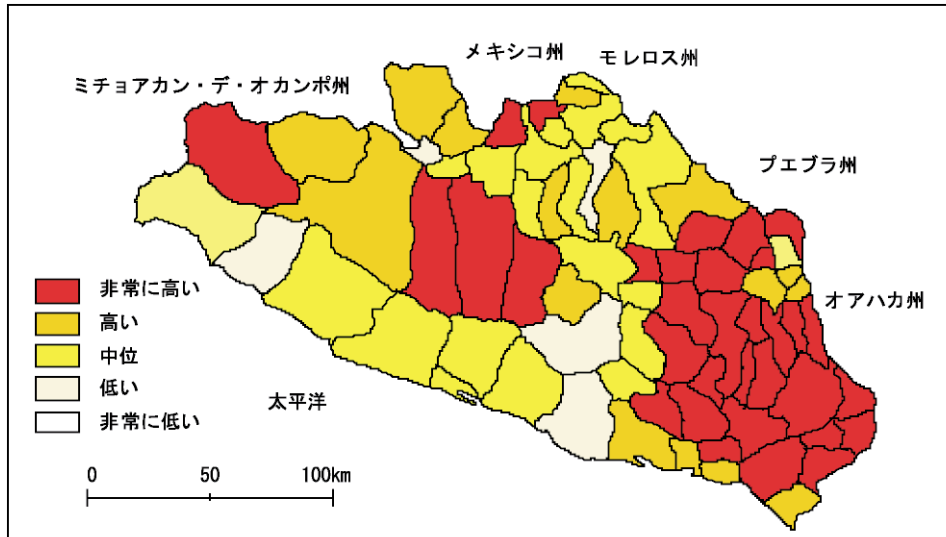


図2 - 6 ムニシピオ別マーヅナリティ(ゲレロ州、1995年)

出所：Indices de marginacion, 1995、Consejo Nacional de Poblacion, CONAPO

表2 - 7はムニシピオ別のマーヅナリティを示したものである。ゲレロ州内にはマーヅナリティのカテゴリーが「非常に低い」ムニシピオは1つもなく、また9つの指標すべてについて全国平均よりも良好な数値を記録しているムニシピオもない。チルパンシンゴ(Chilpancingo)及びイグアラ(Iguala)が5つの指標(2、3、4、8、9)で、ホセ・アスエタ(José Azueta)が4つの指標(2、4、8、9)で、アカプルコ・デ・ファレス(Acapulco de Juarez)が3つの指標(2、4、8)でそれぞれ全国平均よりも良好である程度で、ほとんどのムニシピオは全国平均を下回っている。

全国での順位⁷⁾を見ると、1995年のマーヅナリティではゲレロ州からは10ムニシピオがワースト100に入っていたが、2000年には全国で最もマーヅナリティが高いメトラトノック⁸⁾(Metlatonoc)を含め16ムニシピオに増加している。

7)メキシコ全国でのムニシピオの数は合計2,442である。このうちマーヅナリティが「高い」及び「非常に高い」ムニシピオの数は1,292、「低い」及び「非常に低い」ムニシピオは664である。

8)メトラトノックは1995年のマーヅナリティでは5位(ワースト)であった。

表2-7 ムニシピオ別マーヅナリテイ (ゲレロ州、2000年)

ムニシピオ	人口	1	2	3	4	5	6	7	8	9	指数	カテゴリー	順位 (州内)	順位 (全国)
全国平均		9.51	29.54	10.65	5.16	10.65	46.49	14.69	33.80	51.93				
ゲレロ州	3,079,649	21.57	41.92	35.29	11.04	29.54	59.67	39.97	53.44	66.18	2.118	非常に高い	-	31
METLATONOC	30,039	71.86	86.69	84.85	65.86	51.26	83.67	98.09	100.00	89.89	3.390	非常に高い	1	1
ACATEPEC	25,060	42.76	64.64	62.85	85.67	56.83	77.40	97.84	100.00	94.03	2.792	非常に高い	2	7
ATIYATAC	21,407	51.93	75.60	66.71	42.59	59.04	79.05	83.12	100.00	93.63	2.557	非常に高い	3	12
XOCHISTLAHUACA	22,781	63.85	80.14	57.39	47.73	26.30	74.47	83.36	100.00	89.27	2.489	非常に高い	4	16
TLACACHISTLAHUACA	15,696	60.28	78.13	73.86	34.22	16.43	81.23	82.16	100.00	90.63	2.409	非常に高い	5	19
ZAPOTITLAN TABLAS	10,273	45.60	69.14	45.00	47.95	41.61	77.58	90.96	100.00	93.35	2.237	非常に高い	6	27
COPANATAYAC	15,753	55.09	76.03	75.97	28.14	29.22	80.22	82.93	100.00	77.65	2.207	非常に高い	7	28
MALINALTEPEC	34,923	32.35	50.18	69.81	54.84	61.57	79.39	90.22	100.00	87.12	2.145	非常に高い	8	34
TLACOPALA	9,195	34.46	53.75	69.52	69.97	31.00	75.19	90.96	100.00	81.13	2.096	非常に高い	9	41
XALPATLAHUAC	11,687	54.79	74.24	72.41	6.26	70.29	78.98	73.08	100.00	75.03	2.066	非常に高い	10	48
COAHUATLA DE JOSE MARIA IZAZAGA	15,372	29.36	64.11	73.82	46.21	60.76	72.78	70.89	100.00	85.95	1.984	非常に高い	11	64
ALBUQUICA DE GUERRERO	15,828	59.63	79.17	75.34	8.99	23.95	77.01	69.67	100.00	79.58	1.972	非常に高い	12	67
PEDRO ASCENCO ALQUISIRAS	7,852	25.82	61.72	56.70	54.25	79.06	67.32	81.48	100.00	79.41	1.926	非常に高い	13	76
SAN MIGUEL TOTOLAPAN	28,989	28.95	59.65	74.03	45.60	45.67	78.26	72.37	100.00	86.99	1.926	非常に高い	14	76
COPALILLO	12,730	47.87	71.34	52.59	15.16	83.39	77.08	79.24	100.00	55.22	1.876	非常に高い	15	83
ZITLALA	17,361	48.49	69.12	35.67	10.09	56.92	72.95	79.84	100.00	92.98	1.787	非常に高い	16	98
ATLAMAHALCUNO DEL MONTE	5,080	43.58	62.53	60.11	24.24	43.78	79.06	85.11	100.00	70.82	1.766	非常に高い	17	102
GENERAL MELIODORO CASTILLO	35,623	25.16	61.16	58.77	44.07	45.43	79.85	77.64	100.00	82.61	1.759	非常に高い	18	105
SAN LUIS ACATLAN	36,813	37.25	58.19	64.76	38.21	30.74	81.60	74.01	100.00	81.27	1.749	非常に高い	19	111
ANHUACIOTZINGO	19,388	46.94	73.79	57.68	16.66	32.01	73.65	59.09	100.00	83.85	1.675	非常に高い	20	130
OUITALA	22,642	38.02	60.12	62.44	19.12	79.08	73.87	60.39	100.00	77.10	1.595	非常に高い	21	160
AVILA DE LOS LIBRES	55,350	35.96	55.88	67.04	29.67	25.22	80.37	59.25	100.00	82.99	1.499	非常に高い	22	194
QUECHULTENANGO	32,541	36.08	63.06	55.14	16.25	28.85	74.43	68.70	100.00	84.77	1.470	非常に高い	23	203
MARYR DE CUILAPAN	13,804	45.16	69.85	33.82	4.67	33.17	71.25	78.51	100.00	87.93	1.469	非常に高い	24	205
CHILAPA DE ALVAREZ	102,853	43.62	62.98	55.90	16.87	42.33	71.31	60.84	100.00	78.11	1.430	非常に高い	25	222
ZIRANDARO	23,563	28.56	65.06	53.77	22.28	55.37	53.25	57.28	100.00	73.56	1.420	非常に高い	26	275
IGUALA	10,192	31.90	54.34	54.59	14.09	17.20	75.13	70.30	100.00	87.09	1.233	非常に高い	27	291
AHUICHTLAN DEL PROGRESO	41,268	28.50	57.95	57.28	13.04	60.85	72.09	55.40	100.00	85.41	1.204	非常に高い	28	305
GENERAL CANUTO A. NERI	7,687	23.54	55.45	40.52	15.07	70.60	60.01	70.97	100.00	84.44	1.166	非常に高い	29	322
CHIAUTEPEC	15,158	27.94	50.23	52.68	6.77	46.81	76.69	53.60	100.00	87.86	1.128	非常に高い	30	341
CIEUTZILA DEL PROGRESO	9,869	27.59	61.39	47.53	3.92	63.62	55.55	48.86	100.00	85.35	1.098	高い	31	422
TLALIXTACQUILLA DE MALDONADO	6,699	34.29	61.73	35.94	3.92	34.59	64.90	52.28	100.00	87.29	1.098	高い	32	427
TECOMANA	43,128	24.09	46.04	63.91	10.72	18.24	77.64	49.56	100.00	85.95	1.045	高い	33	453
CHIALAC	5,375	32.32	69.70	30.98	15.88	21.86	72.54	58.65	100.00	71.85	1.035	高い	34	459
SAN MARCOS	48,782	27.16	50.85	63.61	5.79	56.09	68.28	42.11	100.00	81.96	1.033	高い	35	461
COYLCA DE CATALAN	46,172	27.53	55.87	48.42	16.91	63.99	60.03	51.56	100.00	85.60	1.033	高い	36	510
OMETEPEC	50,358	30.44	49.44	43.60	15.09	41.77	70.27	55.63	100.00	66.37	1.033	高い	37	519
ATENANGO DEL RIO	8,504	27.56	58.03	51.16	5.18	61.20	60.53	50.49	100.00	87.35	1.033	高い	38	520
XOCHIHUEHUETLAN	1,863	35.27	60.12	33.61	2.73	50.32	66.26	34.06	100.00	74.00	1.019	高い	39	532
AZOVU	32,400	28.52	52.04	46.58	9.60	33.79	67.37	47.98	100.00	79.82	1.018	高い	40	549
CHAJINCILILAPA	25,644	30.44	56.34	52.27	8.88	38.70	61.63	43.80	100.00	65.17	1.018	高い	41	565
TEPIAC	13,314	18.95	53.90	34.37	14.51	35.12	62.76	61.38	100.00	79.83	1.018	高い	42	570
LEONARDO BRAYO	22,901	26.59	53.52	39.94	6.50	7.52	75.30	70.95	100.00	56.85	1.018	高い	43	573
MOCHITLAN	26,168	32.04	62.34	38.55	8.45	39.67	55.92	33.71	100.00	65.24	1.018	高い	44	654
FLORENCIO VILLARREAL	10,133	24.67	51.59	35.92	13.65	9.28	63.14	50.93	100.00	75.90	1.018	高い	45	722
UNION, LA	19,061	24.45	46.79	54.95	5.25	36.81	71.25	38.62	100.00	50.72	1.018	高い	46	765
IXCATOPAN DE CHAUQUEMOC	27,615	21.92	49.09	50.71	12.16	31.22	84.30	33.12	100.00	64.46	1.018	高い	47	777
TLALCHAPA	7,116	21.46	51.54	48.34	6.83	42.99	52.68	42.77	100.00	70.21	1.018	高い	48	780
COPALA	13,942	26.95	52.43	40.60	5.24	57.72	50.03	34.67	100.00	66.04	1.018	高い	49	782
TEPEODACHILCO DE TRUJANO	30,838	25.50	52.19	40.56	3.98	9.20	66.39	41.61	100.00	49.92	1.018	高い	50	795
COYLCA DE BENTEZ	89,059	21.24	43.59	40.56	3.10	41.19	64.23	42.03	100.00	81.73	1.018	高い	51	816
TEOLOAPAN	53,950	21.28	45.95	44.59	8.33	34.80	63.06	42.96	100.00	75.04	1.018	高い	52	850
TELOAPAN	22,677	26.86	49.66	41.94	10.61	43.10	66.96	41.21	100.00	62.64	1.018	高い	53	905
TLAPENAHUAL	57,348	30.12	45.34	32.38	11.63	29.52	71.09	47.09	100.00	45.53	1.018	高い	54	906
EDUARDO NERI	40,064	24.63	45.48	28.46	5.19	27.19	70.13	45.71	100.00	65.08	1.018	高い	55	907
ALPOVECA	6,063	25.08	49.33	13.55	6.65	5.62	65.38	22.34	100.00	83.42	1.018	高い	56	994
JUAN R. ESCUDERO	21,994	21.87	45.80	41.55	3.91	22.34	65.53	33.35	100.00	55.88	1.018	高い	57	1007
COYLCA	15,668	21.02	50.03	35.74	8.29	37.14	61.41	40.42	100.00	74.53	1.018	高い	58	1016
PITCAYA	10,851	14.27	45.58	33.30	6.42	30.49	51.62	30.18	100.00	81.39	1.018	高い	59	1018
ATOYAC DE ALVAREZ	61,738	17.02	41.33	34.20	6.57	14.79	63.27	41.57	100.00	68.39	1.018	高い	60	1034
HLAMIXTITLAN	14,291	28.94	51.37	25.57	3.29	5.88	60.27	25.70	100.00	75.31	1.018	高い	61	1100
ARCILLA	32,818	20.18	44.03	38.51	8.20	37.14	61.41	40.42	100.00	74.55	1.018	高い	62	1105
APAXTLA	13,146	22.04	47.73	37.15	8.09	34.76	63.50	31.15	100.00	46.36	1.018	高い	63	1110
TRECPAN DE GALEANA	60,313	20.93	44.30	33.69	9.61	19.24	67.72	32.33	100.00	63.06	1.018	高い	64	1163
HUITZILCO DE LOS FIGUEROA	35,668	19.65	45.65	36.38	3.23	41.79	49.76	32.33	100.00	64.55	1.018	高い	65	1181
PETATLAN	46,328	17.45	42.33	37.34	10.33	19.53	60.96	33.57	100.00	58.70	1.018	高い	66	1213
TIXTLA DE GUERRERO	33,620	22.81	39.42	26.26	5.09	17.70	56.03	45.83	100.00	64.13	1.018	高い	67	1253
BENITO JUAREZ	15,448	15.30	36.78	22.95	5.03	12.55	49.98	21.89	100.00	64.76	1.018	高い	68	1385
TAXCO DE ALARCON	100,248	13.64	34.59	24.08	2.55	25.44	56.82	25.66	100.00	49.64	1.018	高い	69	1577
BIENAVISTA DE CUILLAR	12,619	14.64	40.28	16.02	2.86	13.63	44.57	18.32	100.00	59.39	1.018	高い	70	1582
PUNGARABATO	34,740	15.28	36.03	16.49	1.81	23.59	59.12	21.61	100.00	46.30	1.018	高い	71	1724
ACAPULCO DE JUAREZ	722,499	10.38	25.68	16.46	1.08	20.07	49.67	17.67	100.00	62.08</				

2 - 3 先住民族にかかわる地域・貧富の格差⁹⁾

メキシコには先住民族が1,200万人以上いるとされ、これは同国の人口の約13%を占める。先住民族の居住地は全国で4万か所以上にもなり、その約半分の居住地は人口1,000人以下の地区である。先住民族の間で話されている言葉は1つではなく、少なくとも62種類の言語があり、更に約30の方言(dialecto)が使用されている。

表2 - 8は先住民族人口(1990～2000年)を示したものである¹⁰⁾。先住民族人口の絶対数は増加しているが、1995年には全人口に占める割合が減少している。これは同時期のメキシコの経済状況を反映しており、海外移住や出稼ぎがその主な理由であると思われる。

表2 - 8 先住民族人口の推移

	1990	1995	2000
メキシコの全人口	81,249,645	91,158,290	97,483,412
先住民族言語の使用者	5,282,347	5,483,555	6,044,547
世帯主もしくはその配偶者のいずれかが先住民族言語の使用している世帯の0歳から4歳までの子供	1,129,625	1,232,036	1,233,455
先住民族の言語を話すことは出来ないが先住民族であると自覚している者			1,103,312
国家統計地理情報局による先住民族人口	6,411,972	6,715,591	8,381,314
世帯主もしくはその配偶者が先住民族の言語を使用している世帯の人口	8,373,700	8,984,152	
世帯主もしくはその配偶者は先住民族の言語を使用していない先住民族言語の使用者	177,289	183,336	
INEとCONAPOによる先住民族人口(2000年は推定)	8,550,989	9,167,488	12,707,000
先住民族人口の全人口に占める率(%)	10.5	10.1	13.0

出所：Programa Nacional para el Desarrollo de los Pueblos Indígenas 2001-2006, Instituto Nacional de Indígena (INI)

先住民族人口の分布状況には非常な偏りがある(表2 - 9)。アグアスカリテンテ州(Aguascalientes) コアウイラ州(Coahuila) コリマ州(Colima) ハリスコ州(Jalisco) サカテカ州(Zacatecas)のように先住民族が州の全人口の1%以下の州がある一方、ユカタン州(Yucatán) オアハカ州(Oaxaca) チアパス州(Chiapas) キンタナ・ロオ州(Quintana Roo)のようにそれぞれ37.3%、37.1%、24.6%、22.9%と先住民族人口が集中している州もある。

9)「2 - 3 先住民族にかかわる地域・貧富の格差」は国家先住民族開発プログラム2001～2006年(Programa Nacional de Desarrollo de los Pueblos Indígena 2001-2006)の貧困の現状(“En dónde estamos”)によっている。

10)国家統計地理情報局は先住民族の定義を1)先住民族言語の使用者、2)世帯主もしくはその配偶者(つまり両親のうちのいずれかが先住民族の言語を使用している世帯の子供、3)先住民族の言語を話すことはできないが自分は先住民族であると考えている人、としており、また(Instituto Nacional de Indigenista: INI)及び国家人口評議会(CONAPO)は1)世帯主もしくはその配偶者が先住民族の言語を使用している世帯の人口、2)世帯主もしくはその配偶者は先住民族の言語を使用していない先住民族言語の使用者の人口としている。本稿では後者の定義を採用している。

表 2 - 9 5 歳以上の先住民族人口 (州別、2000 年)

州	人口(5歳以上)	先住民族人口(5歳以上)			先住民族人口の割合
		合計	男性	女性	
メキシコ全国	84,794,454	6,044,547	2,985,872	3,058,675	7.1
AGUASCALIENTES	821,404	1,244	667	577	0.2
BAJA CALIFORNIA	2,010,869	37,685	19,920	17,765	1.9
BAJA CALIFORNIA SUR	374,215	5,353	3,046	2,307	1.4
CAMPECHE	606,699	93,765	48,558	45,207	15.5
COAHUILA	2,018,053	3,032	1,834	1,198	0.2
COLIMA	457,777	2,932	1,790	1,142	0.6
CHIAPAS	3,288,963	809,592	404,442	405,150	24.6
CHIHUAHUA	2,621,057	84,086	43,269	40,817	3.2
DISTRITO FEDERAL	7,738,307	141,710	63,592	78,118	1.8
DURANGO	1,264,011	24,934	12,546	12,388	2.0
GUANAJUATO	4,049,950	10,689	5,797	4,892	0.3
GUERRERO	2,646,132	367,110	177,337	189,773	13.9
HIDALGO	1,973,968	339,866	167,947	171,919	17.2
JALISCO	5,541,480	39,259	19,796	19,463	0.7
MÉXICO	11,097,516	361,972	173,930	188,042	3.3
MICHOACÁN DE OCAMPO	3,479,357	121,849	58,347	63,502	3.5
MORELOS	1,334,892	30,896	15,761	15,135	2.3
NAYARIT	815,263	37,206	18,784	18,422	4.6
NUEVO LEÓN	3,392,025	15,446	6,962	8,484	0.5
OAXACA	3,019,103	1,120,312	538,255	582,057	37.1
PUEBLA	4,337,362	565,509	273,228	292,281	13.0
QUERÉTARO DE ARTEAGA	1,224,088	25,269	12,317	12,952	2.1
QUINTANA ROO	755,442	173,592	92,991	80,601	23.0
SAN LUIS POTOSÍ	2,010,539	235,253	120,202	115,051	11.7
SINALOA	2,241,298	49,744	27,216	22,528	2.2
SONORA	1,956,617	55,694	30,637	25,057	2.8
TABASCO	1,664,366	62,027	32,629	29,398	3.7
TAMAULIPAS	2,427,309	17,118	8,744	8,374	0.7
TLAXCALA	846,877	26,662	13,379	13,283	3.1
VERACRUZ-LLAVE	6,118,108	633,372	313,553	319,819	10.4
YUCATÁN	1,472,683	549,532	277,317	272,215	37.3
ZACATECAS	1,188,724	1,837	1,079	758	0.2

出所：Programa Nacional para el Desarrollo de los Pueblos Indígenas 2001-2006, Instituto Nacional de Indígena (INI)

(1) マージナリティ

図 2 - 7 は先住民族の居住地域を示したものである。この図と「図 2 - 5 ムニシピオ別マージナリティ (全国、2000 年)」とを見比べていただきたい。図 2 - 5 で示されているマージナリティの「非常に高い」及び「高い」地域 (つまり最も貧しい地域) と次図で示した先住民族の居住地域がほとんど一致していることが分かる。

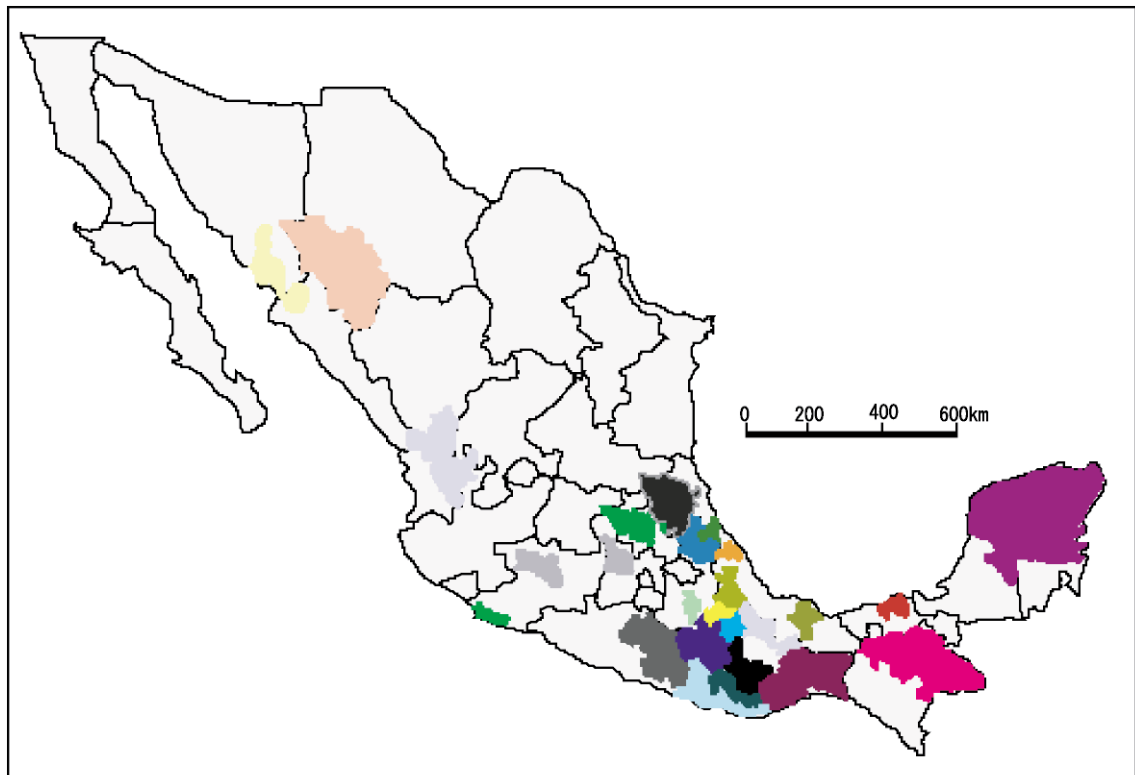


図 2 - 7 先住民族の居住地(1993年)

出所：INI の Web Site より

表 2 - 10 先住民族居住地(ムニシピオ別)のマーヅナリティ(2000年)

	合計	%	非常に高い	%	高い	%	中位	%	低い	%	非常に低い	%
全国	2443	100	386	15.5	906	37.1	486	19.9	417	17.1	247	10.1
先住民族居住地	803	32.9	300	37.4	407	50.7	79	9.8	12	1.5	3	0.4

出所：Programa Nacional para el Desarrollo de los Pueblos Indígenas 2001-2006, (INI)

全国では合計 2,442 ムニシピオがあり、そのうちの約 33%のムニシピオが先住民族の人口比が 30%を超えるムニシピオである。マーヅナリティが「非常に高い」カテゴリーに属するムニシピオは全国で 386 ムニシピオあり、そのうちの約 77%は先住民族の人口比が高いムニシピオである。さらにマーヅナリティが「非常に高い」及び「高い」を合計すると先住民族の人口比が高いムニシピオは計 707 ムニシピオで 88%にもなる。一方先住民族の人口比が高いムニシピオでマーヅナリティが非常に低いムニシピオはわずかに 3 ムニシピオである。つまりメキシコにおけるマーヅナリティ・貧困とは、特に農村のマーヅナリティ、農村の貧困という文脈で語られる場合には、ほぼ先住民族と同意義であると言っても過言ではない。

州別でマーヅナリティを見てみると、最も先住民族人口が多いオアハカ州では先住民族人口比が 30%を超えるムニシピオが合計 379 あり、マーヅナリティが「非常に高い」及び「高い」カテゴリーに分類されるムニシピオは 338 ムニシピオ(89%)である。プエブラ州(Puebla)では合計 76 ムニシピオのうち、71 ムニシピオ(93%)が、チアパス州では 58 ムニシピオのう

ち 56 ムニシピオ (97%) が、ゲレロ州では 23 ムニシピオのすべてが、ヴェラクルス州 (Veracruz-Llave) では 76 ムニシピオのうち 71 ムニシピオ (93%) が同カテゴリーに分類される。

(2) 保健医療・栄養

1997 年の先住民族の出生時平均余命は 69 歳で、同じ年の全国平均は 74 歳であった。乳児死亡率、5 歳未満児の死亡率、栄養失調の発生率はいずれも、全国平均を大きく上回り約 2 倍弱である。この乳児死亡率についてどのような調査方法をとったのか不明であるが、ゲレロ州のそれと比べると、かなり統計データに反映されていると思われる (表 2 - 11)。乳児の消化器疾患による死亡の割合は全国平均と比較して、3 倍以上も高い。

先住民族の主要死亡因は、消化器系感染症、インフルエンザ、肺炎である。これらは先住民族が置かれている衛生設備、住居の状況等の劣悪な生活環境を反映している。

表 2 - 11 先住民族の保健医療指標

	全国	先住民族
出生時平均余命 (1997 年)	74	69
乳児死亡率 (対 1000 出生、2000 年)	28.2	48.3
5 歳未満児の死亡率 (1993 年)	30	55
消化器疾患による乳児の死亡者の割合	27.30%	83.60%
栄養失調発生率 (5 歳以下)	38.50%	58.30%

出所: Programa Nacional para el Desarrollo de los Pueblos Indígenas 2001-2006, (INI)

先住民族の居住地域には 2,095 の一次医療施設、31 の二次医療施設がある。しかしながら依然十分に足りていないとはいえず、人口 1,000 人当たりの医師の数は、全国平均で 1.38 人、オアハカ州の平均で 0.94 人、先住民族居住区では 0.13 人となる。また人口 1 万人当たりの病床数を見ると、全国平均では 0.79 床であるのに対し、先住民族人口が多いオアハカ州、ヴェラクルス州、プエブラ州では、それぞれ 0.07 床、0.11 床、0.19 床となっている。

先住民族の女性の主要な死亡因は周産期疾患である。これは妊産婦検診等の妊産婦に対するケアの欠如とともに妊産婦の栄養失調によるものである。約 40% の先住民族の妊産婦が貧血症であり、妊産婦の健康及び子供の健康に対して大きな脅威となっている。

(3) 住環境

住居当たりの平均居住者数は全国平均で 4.7 人 (1995 年) であった。先住民族住居の平均構成員数は 5.4 人で、チチメカス (los chichimecas) マメス (los mames) チュッホ (los chuj) トハラバレス (los tojalabales) といったエスニック・グループではそれぞれ 6.6 人、6.5 人、6.4 人、6.3 人と全国平均よりも約 2 人多い。また先住民族の住居の約 20% は 1 部屋のみで、約

24%の住居では寝室と調理場が同じ部屋にある。さらに全国の約20%の住居が土床であったのに対して、先住民族の住居では3分の2以上が土床であった。さらに下水設備がない住居は88%にもものぼる。

水や電気といった基礎インフラについても先住民族の住居は全国の平均を大幅に下回っている(表2 - 12)。特に先住民族の人口の多い州はどちらの普及率も低く、例えばチアパス州

表2 - 12 先住民族への基礎インフラの普及状況

	先住民族の住居	全国
上水道普及率(%)	62	85.6
電気の普及率(%)	75	95

出所: Programa Nacional para el Desarrollo de los Pueblos Indígenas 2001-2006, (INI)

の先住民族の住居への上水道の普及率は51%、電気の普及率は46.6%である。

(4) 道 路

人口1万5,000人以上の都市に住んでいる先住民族は全先住民族の約16%で、約65%は居住地区の人口が2,500人以下の農村に分散している。農村に分散している先住民族の居住地の多くは、国道や舗装道路から外れた所にあり、未舗装のため雨期には通行不能になる所も少なくない。孤立した集落や地区では生産物の販売や生活物資の購入などの商業活動、医薬品の供給や救急医療といった医療サービスへのアクセスに大きな支障を来している。ドゥランゴ州、ゲレロ州、ハリスコ州、ナヤリット州の山岳部及びヴェラクルス州の溪谷部等は特に早急に整備が必要であると報告されている。

(5) 教 育

2000年に実施されたセンサスでは、メキシコ全国の非識字率は約11%で、先住民族の非識字率はその約3倍の34%であるとの結果となっている。しかしながら、先住民族の女性についていえば更に低く、特にゲレロ州では61.3%、チワワ州及びチアパス州では56.2%となっている。表2 - 13の「小学校第4学年での児童の読み書きの能力」は小学生で読み書きができるようになっている児童の割合を示したものである。全国では4分の1の児童は読み書きができるようになっているが、先住民族では1割以下である。これは小学校に在籍はしているが出席日数が少ない、学習時間が短い等の理由によるものと思われる。小学校の未修了者も先住民族では非常に高く、全国平均の2倍以上となっている。先住民族の小学校の平均修学年数は2年から2年半と言われており、この背景には先住民族が置かれている現状では2年から2年半で習得できる能力(最低限の能力)で十分であり、それ以上勉強して能力を高めてもそれに見合うだけの収入や雇用が保証されていないという現実があるからだとの指摘¹¹⁾がある。

11) 三澤健宏(津田塾大学国際関係学科、助教授)、専攻は人口学。

表 2 - 13 教育指標の比較

	先住民族	全国
非識字率(2000年)	34%	11%
小学校未修了者(1999年)	75%	36%
小学校第6学年在籍児童数(1995年)	38%	85%
小学校第4学年での児童の読み書きの能力(1995年)	8%	25%

出所：Programa Nacional para el Desarrollo de los Pueblos Indígenas 2001-2006, (INI)

(6) モノリンガル

先住民族のうち、先住民族の言語とスペイン語の両方を話すことができる人(バイリンガル)の割合は先住民族全体の81.1%で、先住民族の言語のみしか話すことのできない人(モノリンガル)は約80万人で16.8%である。男女別に見てみると男性のモノリンガルの割合は36.6%、女性の場合はその約2倍の63.7%である。先住民族の言語の多様性とそれらの保持はメキシコの文化的多様性を支える大きな柱となっていると同時に、社会・経済活動への参加を困難にしており、特に女性のモノリンガル比率の高さは先住民族女性の社会進出、雇用、収入の問題の大きな障害となっている。現在小学校レベルでは先住民族の言語で書かれた教科書を作成、使用するなどバイリンガル教育が行われているが、中学校以上のレベルではバイリンガル教育は実施されていない。

(7) 雇 用

メキシコでは全産業に占める農業人口の割合は22%(1997年)である。先住民族では農業人口の比率は70%にもなる。つまり3人に1人は農業従事者である。次いで民芸品の製造で13%、商業が6.4%、建設業が3%、その他の産業には7.6%が従事している。就労人口の42.8%が自営業、19.3%が家内就労(給与はない)、19.3%が賃金労働に従事している。男女別に就労人口を見ると男性は約7割で女性が約3割である。女性の就労人口の低さは言うまでも無く、家事、子供の養育といった統計に表れない労働についての責任を負っていることが反映されている。上記の賃金労働者の多くは「出稼ぎ」である。プランテーションでの季節労働、マキラドーラでの低賃金労働、露天商、建設現場での人夫、草刈、市場などでの荷物運び、家庭内労働などが主な仕事である。

先住民族の人口比が高い地域において、そのほとんどは耕作面積が5ha以下の小規模農業、家族経営である。そのため、不安定な生産、生産設備の不足、金融システムへのアクセスの欠如、商業的チャンネルの不足が常にある。例えば先住民族の耕作地の7割を占めるエヒード(先住民族共同体に所有権、耕作権が認められている土地)及び共有地の93.8%は灌漑設備へのアクセスがない。

(8) 所得

表2 - 14 は先住民族の所得の状況について示したものである。表中の無収入の先住民族のうちそのほとんどの人が農業、牧畜業に従事しており、生産物のほとんどを自家消費している。最低賃金以下の収入の先住民族は無収入も合わせると平均約60%を占め、チアパス州では約81%、オアハカ州では65%を占めている。またチアパス州やオアハカ州の一部のムニシピオでは、無収入の割合が60%にまで達するとの報告もある。

表2 - 14 先住民族の収入状況(1995年)

	先住民族	チアパス州	オアハカ州
無収入	21%	32.5%	33%
最低賃金以下	38.4%	49.1%	32%
最低賃金(1ヶ月から2ヶ月分)	23%	7.9%	16%
最低賃金の2ヶ月分以上	17.6%	10.5%	19%

出所：Programa Nacional para el Desarrollo de los Pueblos Indígenas 2001-2006, (INI)

2 - 4 農村部の現状

農村部の貧困者のほとんどは農業従事者であり、それらの人々は全国に約19万地区あるとされている人口2,500人以下の地区に住んでいる。これらの地区では基礎的経済インフラや社会サービスが不足しており、生産活動や生産に不可欠な各種サービスへのアクセスも困難である。そのため取引費用は都市部に比べ非常に高くなっている。

また就労年齢層の50%以上は土地をもっていないため不安定な労働市場、季節労働、非熟練労働に就かざるを得ない。

農牧業従事者の平均収入は他のセクターの平均収入の4分の1である。農地が2ha以下の場合、全収入の約70%は非農牧業所得である。したがってこれらの農牧業従事者も同様に季節労働、民芸品の製作販売、出稼ぎ等に依存している。

メキシコ全土の総面積は約1億9,800万haで、農地は約16%、乾燥地帯が61%、森林・草原地帯が23%である。1人当たりの農地は年々減少しており、1960年には0.75haであったものが、現在では0.34ha、さらに2010年には0.25haまでに減少すると予測されている。生産ユニット当たりで見ると農地が5ha以下のユニットが60%を占めている。

全耕作地の約25%が灌漑システムにアクセスできるのみで、その他は耕作可能期間が限定されている。さらに近代的な灌漑システムへのアクセスは全体の約10%程度である。

1993年から1999年までの農業生産の成長率は、中北部では10.3%であったが、南西部の成長率は6.3%であった。これは南西部における農地の細分化、モノカルチャー農業、傾斜地の使用、伝統的な技術等によるものである。

生産者の組織は政治的な色彩が非常に濃く、生産性の向上を目的とした生産促進や強化につい

での組織は非常に少ない。そのため政策に対して、提案者というよりは要求者、参加的というよりは依存的といった傾向が強く、自身での問題解決について消極的であり、自然資源、経済資源、人的資源の利用可能性を自ら制限している。

9割の農民は適切な技術的支援が必要とされており、8割は生産のための組織、生産向上プログラムや研修にアクセスすることができない。農村部の人的資源の開発については未整備の状態である。農村部には約3,400万の生産ユニットがあり、そのうちの約54%は農地面積が5ha以下、約30%が2ha以下の小規模農業であり、この農地の細分化は技術や市場へのアクセスの困難さを引き起こし、生産性の向上、人的資源開発と並んで農村開発の大きな障害となっている。

2 - 5 都市部の貧困

2000年のセンサスによると、全国の364市に約6,300万人が住んでいる。これはメキシコの人口の約63%である。図2 - 8は1930年から2000年までの都市と農村の人口の推移を示したものである。1960年代までは農村の人口の方が多かったが、同時期を境として都市人口が急速に増加していったことが分かる。

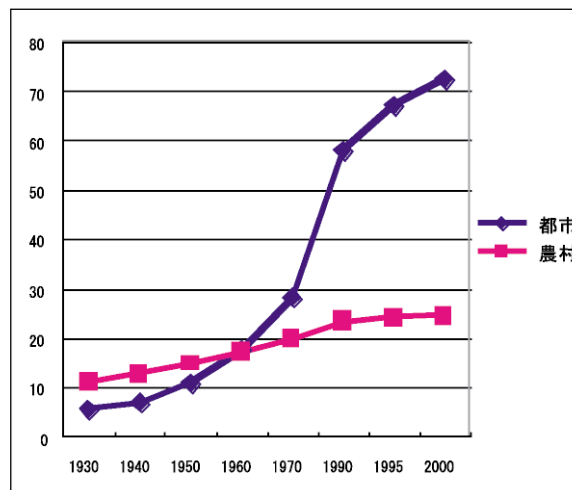


図2 - 8 都市・農村の人口の推移(1930 ~ 2000年)

出所：Indicador Socioeconómico de México, 1930-2000, INEGIより作成

特に1970年から1990年にかけて都市人口は2倍となっている。この時期の人口増加率は年平均2.9%であったが、それを上回る速度で都市部の人口は増加していった。最大の理由は農村からの人口流入である。農村、特に農村部での人口圧力、環境悪化、異常気象による農村の荒廃、雇用の欠如と低賃金、教育や医療といった基礎的サービス、電気や水道といった基礎インフラの欠如等のより良い生活を求めて、さらには農村にはない都市自身もつ魅力にひかれて等、様々な理由により都市部へ人口が集中していった。

残された農村では過疎化や土地所有の細分化が進み、人口規模の非常に小さな集落が急速に増

加していき、基礎サービスや基礎インフラの整備が忘れ去られる結果となった。

一方このような人口の増加を都市部が受け入れることができるわけもなく、基礎インフラや基礎サービス、住宅の供給、雇用の創出はその増加に対して追いつかなかった。その結果コロニアス・プロレタリアス(Colonias Proletarias = 無産者の居住地)と呼ばれるスラム街の出現やインフォーマル・セクターの増大、犯罪の増加を招くこととなった。都市部では人口の約12%が最も所得の低いグループ(第1分位¹²⁾)に属しており、これに緩やかな貧困世帯(第2分位¹³⁾)の24%をあわせると、実に都市部には約2,600万人もの貧困層に属する人々がいることになる。更に重要なことは、都市部への移住は1950年から1960年ごろから始まっており、貧困の再生産(貧困の世代間移転)が都市部でも既に始まっていることである。

2 - 6 ジェンダーにおける格差

女性の社会的な役割は大きく変化してきた。女性の社会進出が進み、社会全体において女性の労働力への依存度は高まっている。社会開発においても女性は男性と同じく参加し、同じ機会を得ることは当たり前のこととされている。しかしながら、現実には雇用、所得、教育や医療といった社会サービスや金融システムへのアクセスに大きな格差がある。

女性は「家で家事をし、子供の面倒を見る」という伝統的な価値観が世界中に広まり、特に途上国では一般的な傾向である。大抵の場合女性はそれを自覚し、そのように振る舞おうとしている。女性は1週間当たり男性の3倍もの無給の労働をしているといわれており、そのほとんどは家庭内での労働である。

メキシコでは生産活動年齢の男性の約89%は何らかの収入を得ている一方、女性ではそれがわずか42%である。これは所得が低い階層、高い階層を問わず観察される。また中学校を卒業しなかった男性と女性の間では1時間当たりの平均賃金の差はさほど大きくないが、中学校を卒業している男性と女性の間で賃金格差は約30%もある。またいずれからかの貸付を受けたことがある人のうちの約80%は男性である。

これらの理由の1つは男女の教育格差である。高い所得を得ているグループでの平均就学年数は約12年である。それに対して低所得層は約5年と少ない。また低所得層の25歳から44歳までの年代層では、読み書きのできない男性は約14%であるのに対して読み書きのできない女性は約22%にもものぼる。もう1つの理由として、子供の養育の責任を負っているということである。そのため就労そのものや職業訓練の機会をあきらめざるを得ない。

メキシコでは約20%の世帯は女性が世帯主である。そのうちの約80%が都市部に集中しており、1世帯当たりの平均構成員数は3.6人であり、その女性が唯一の成人となることが圧倒的に多い。

12) 2 - 1 の分類による

13) 同上

世帯主となっている女性の賃金は全国平均よりも約 20% 低く、家計を支えるために他の構成員、ほとんどの場合、子供が働くことになる。低所得層では女性が世帯主の場合、そのうちの約 65% の世帯には 12 歳以下の子供がいる。

2 - 7 貧困の形成と拡大

前項までではメキシコが抱える貧困の現状を見てきた。ではなぜ OECD へ加盟し先進国の仲間入りを果たしたメキシコに現在もなお約 3,800 万人もの貧困者が存在しているのか。またなぜ以前は同じように貧困者を多く抱えていた東アジアでは貧困の減少に成功したのか。

(1) 人口学的考察

メキシコは 1960 年から 2000 年までの約 40 年間、年平均約 4.7% の経済成長を続け、1 人当たりの GNP は 2,000 ドルから 5,070 ドルへと 2.5 倍以上になった。途中「経済危機(1976 年)」「債務危機(1982 年)」「金融危機(1994 年)」といった大きな経済の落ち込みを経験しているが、40 年間という期間を通して考えると成長していることは事実である。また経済成長率が人口増加率よりも少なければ実質の 1 人当たりの GNP は減少することになる。メキシコの場合、同期間の人口成長率は年平均 2.6% あり、これを差し引くと 1 人当たりの年平均 GNP 成長率は約 2% となり、1 人当たりの GNP も成長している。

もし「トリックルダウン仮説(成長の恩恵がやがては貧困者にまで浸透していくという仮説)」が正しければ豊かになっているはずである。しかし現実には反対で、著しい成長を遂げた一方、貧困は拡大している。1977 年では貧困者の全人口に占める割合は 32% であったものが、1998 年には 38% を占めるようになっている。絶対数でも 1977 年の貧困者の数は 1,700 万人であったものが、1998 年には 3,500 人へと増加しており、同時期の年平均人口増加率(2.36%) を上回り、貧困人口の増加率は年平均 3.4% であった。つまり成長はしたけれども貧困は拡大したことになる。成長の恩恵は大部分が一部の富裕層に吸収され、残りを貧困層で分け合ったのではないか。

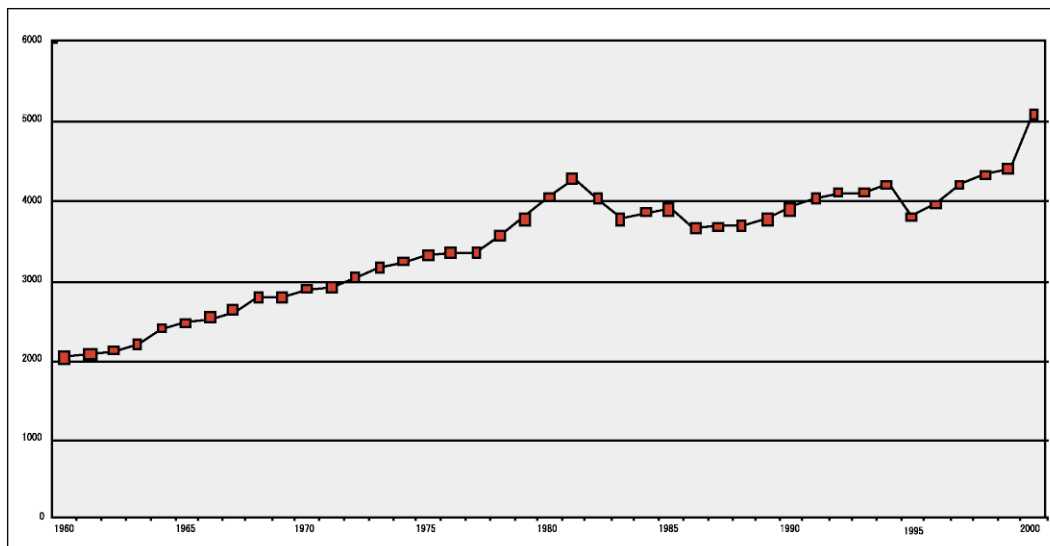


図 2 - 9 1人当たりのGNPの推移(1960～2000年)

出所：World Bank, Development Indicator 2000 / 2001, 2002より作成

人口の増加はそれを支える所得や食糧の増加がなければあり得ないはずである。事実メキシコではそのどちらも増加している。これ以上所得や食料がなければ生存できないという最低限の線、生存ラインというものを想定すると、少なくとも貧困者はその生存ラインを上回る所得や食糧を得ていることになる。メキシコにおける経済成長と貧困の拡大は、経済成長による生存ラインを確保する程度の拡大をもとに貧困人口は増加していったのではないかと考えられる。

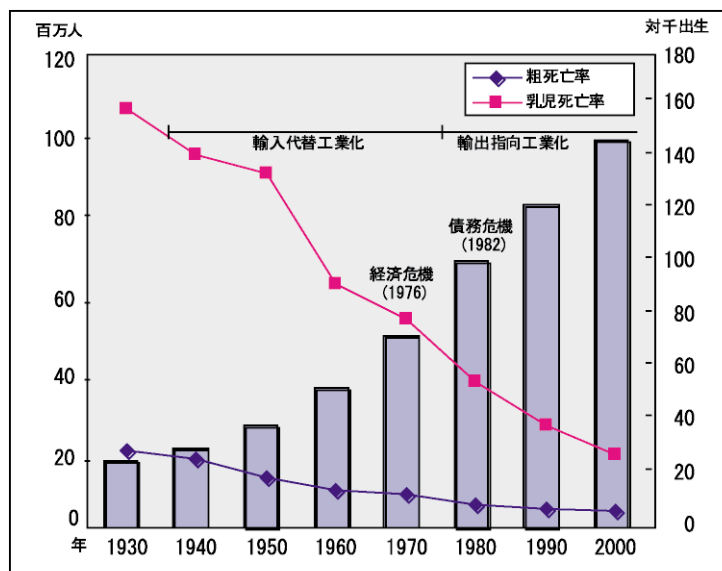


図 2 - 10 メキシコの人口と死亡率の推移(1930～2000年)

出所：Indicador Socioeconómico de México, 1930-2000, INEGIより作成

さらにもう1つ生存ラインそのものの引き下げ、つまり生存率の上昇も貧困人口の増加を促したと考えられる。メキシコでは1950年以降、世界的な予防、診断、治療といった医学の技術進歩の普及と医療サービスの拡大¹⁴⁾ 特に予防接種の拡大、上水道の整備等によって粗死亡率、乳児死亡率が急速に低下し(図2 - 10)生存率が大幅に高まった。つまりそれまでは生存できなかったであろうとされる所得額や食糧(栄養状況)の量でも、この技術進歩によって生存が可能になったと推測できる。経済成長によるわずかな恩恵を貧困層で分配したこと、そして生存ラインそのものが押し上げられたという予期せぬ形で、違った意味での「トリックルダウン」効果により貧困人口が拡大していったのではないかと考えられる。

しかしながら、このわずかな浸透効果もほとんど届かなかったと思われるグループが存在する。それは先住民族グループである。1930年から2000年までの期間、メキシコの非先住民族人口は約1,430万人から約9,100万人へと約6.3倍の増加を見せた。一方、同時期の先住民族人口は約225万人から604万人と約2.8倍であった(図2 - 11)。また年平均の人口増加率では非先住民族人口は2.7%であるのに対し先住民族では1.4%と2分の1以下の増加率である。もし先住民族にも既述のような経済成長の恩恵が浸透していたとすれば、非先住民族グループの人口推移と同様となるはずである。しかし現実には所得や食料は生存ラインをクリアするには及ばず、医療サービス等は先住民族には届かず生存率を高めることができなかったのではないかと考えられる。

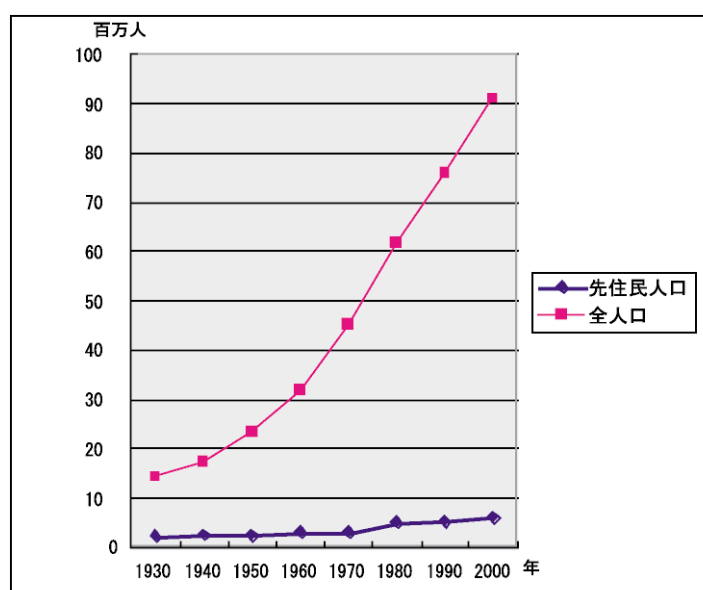


図2 - 11 メキシコの人口及び先住民族人口の推移(1930 ~ 2000年)

出所：Indicador Socioeconómico de México, 1930-2000より作成

* 全人口は先住民族人口を除いたものである

14) 1970年代にラテンアメリカ各国では総合農村開発として農業開発計画が策定・実施された。メキシコではPIDER計画(1972 ~ 1980年)が実施され、その総合開発の一環として農村の社会インフラの整備(保健医療、教育、水道)が含まれており、農村部の医療サービスが拡大した。

(2) 経済開発過程

先の「なぜ OECD へ加盟し先進国の仲間入りを果たしたメキシコに現在もなお約 3,800 万人もの貧困者が存在しているのか。またなぜ以前は同じように貧困者を多く抱えていた東アジアでは貧困の減少に成功したのか」という問いについての開発経済学の教科書的な回答は、「東アジアでは輸入代替工業化政策¹⁵⁾を労働集約型の工業製品(輸入代替で国内生産が可能となった繊維、衣料、日用雑貨品、後の電化製品)を主軸とした輸出志向工業化政策に早い段階でシフトしたことにより農村部の余剰労働力を吸収することができたために貧困の減少に成功した。反対にメキシコは輸入代替工業化から輸出指向工業化へのシフトが遅れ、比較優位のあった労働集約型の工業製品ではなく、相対的に資本集約的な工業製品を輸出する政策をとったため農村部の余剰労働力を十分に吸収することができず、貧困の減少には貢献しなかった(かえって増加した)」ということになる。また開発の初期条件として格差が広く存在している状態(土地の分配が不平等である等)での農業主導の開発は、格差を一層広げる傾向にあることが指摘されている。実際にメキシコでは経済開発が開始される以前から貧困、格差は広く存在していた。しかしながら現在のような大規模な貧困は、本来ならば人々の生活を豊かにするための経済開発の過程によって生産・再生産され固定していった。

以下メキシコの 1940 年以降の経済開発や政治体制とそれによってどのように貧困が生産されていったかを見てみることにする。

(3) 植民地時代の負の遺産

メキシコは他のラテンアメリカ諸国同様に、植民地時代中期のアシエンダ(大規模な耕地を利用して主に農牧畜産物を大量に生産する企業体)の形成過程に起源をもつラティフンディオ(大土地所有制)とミニフンディオ(零細土地所有)という二極構造により、一部の階層に土地と生産技術、富が集中する、格差の大きい不平等な社会であった。

スペインからの独立(1820年)以降もこの状況は続き、土地の集中は更に進んでいった。特にディアス政権下(1877～1911年)では農民からの土地略奪や「土地測量法」(先住民族共有地であっても、「未開墾地」と見られる土地を測量したものは、外国人企業も含め、その土地を私有化できるという法令)による土地の強制的収用が行われた。その結果、1910年のメキシコ革命勃発時には全農民の98%が「土地なし農民」という状況であった(石黒馨、1998年)。

このような背景の下、農民運動、反ラティフンディオ運動が頻発しメキシコ革命(1910～1917年)へ発展していった。この革命の結果、大規模な農地改革が実施され1915～1940年の間に2,973万haの農地が、約140万人の農民に分配された。この土地の分配は私的所有制

15) 農産物の輸出によって得た外貨をもとに資本財や中間財を輸入し、国内市場を開税や輸入許可制によって保護しながら、輸入消費財を国内生産で代替し工業化を進める戦略。

ではなくエヒード制と呼ばれる分配方法で、あくまでも土地は国有地で、所有権は共同体にあるが、耕作権は個々の農民(エヒダリオ)にある。さらに相続は可能であるが、賃貸借や売買は不可というものであった。ただし、この農地改革でも農民は与えられたエヒードのみで生計を立てることは難しく、賃労働で不足分を補っており、他のラテンアメリカ諸国で実施された農地改革と比較すると画期的なものであったが、決して成功した改革ではなかった。

(4)メキシコの奇跡

1940年以降メキシコは輸入代替工業化による経済開発を進めていった。工業化の当初の機軸は消費財部門(1940～1954年)で徐々に一部の間接財・資本財、耐久消費財(1955～1970年)へとシフトしていった。この輸入代替工業化戦略により1950～1979年のGDP年平均成長率は6.4%となり、「メキシコの奇跡」と呼ばれる経済成長を遂げた。国内市場は拡大し同時期に購買力は2倍となった。また実質賃金率の上昇を上回る生産性の向上が見られ、企業の利潤率は上昇していった。さらにこの戦略を支える農業部門では、「緑の革命」に象徴される農産物の新品種の導入、機械、農薬、化学肥料の投入、灌漑などインフラ整備による農業の近代化が進み農業生産、農産物輸出は大幅に増加した。

しかしながら順調に進んでいると見られていた輸入代替工業化戦略による経済開発は、その内側には数々の矛盾が蓄積されていた。それは開発のスタート時の極端に不公正な社会構造によるところが大きい。

そもそもこの戦略の中心は国内市場に向けたものであった。当初の非耐久消費財中心の工業化では、貧困層が多く購買力に限界がある国内市場に対しては数社の大企業で十分供給することができそれ以上の発展がなく、「安かろう悪かろう」といった製品が中心となっていた。そして多くの企業は購買力のある富裕層に向けた耐久消費財や贅沢品の生産へと中心を移していったため、結果として間接財、資本財の輸入の増加につながった。また後期の耐久消費財、間接財・資本財の工業化では多国籍企業に依存することが多く、それらが相対的に資本集約的であったためこの期間を通じて期待されていたほどの雇用吸収力は生まれなかった。

この戦略の主な目的は、対外的な依存度を低下させる、余剰労働力の雇用の確保、労働力の移動による農業所得の増大、輸入削減による国際収支制約の緩和であったにもかかわらず、結局はいずれも期待されていたほどの成果は上がらなかった。

農業部門では、輸出作物は北部で、国内消費作物は南部が中心となって生産されるようになった。農業の近代化は、農業経営における大農化と資本集約化に有利に働き、生産はますます大農家に集中し、経営は資本集約化が進むこととなる。このため人間による労働のウェイトは低下し、不定期に必要なときにだけ農業労働者を雇うという農業形態が進展するよう

になった。同時に輸出作物の生産には数々の補助金や信用へのアクセス、インフラ整備(灌漑等)が集中するようになり、国内消費作物の生産は差別され成長から取り残されていった。

(5) 輸入代替工業化の終焉と輸出志向工業化への転換

こうして問題を抱えながら進められてきた輸入代替工業化は1970年代に入ると徐々に行き詰まりを見せるようになってきた。主な理由は農産物の国際価格の低下により輸出機能が停滞し外貨獲得能力が低下したことがあげられる。このためメキシコは国内の経済活動(特に工業部門)を維持、発展させるために補助金や国営企業の赤字補填等の財政支出の資金として対外債務を増大させていった。また農産物の国際価格の下落は、国内消費のための基礎食糧の国内生産を輸入へとシフトさせていった。さらにポピュリスト政権の下で上昇を続けていた実質賃金率が労働生産性を上回るようになり企業の収益を圧迫するようになり、従来の労使関係や賃金体系の見直しにつながっていった。

このような状況のなか食糧や原油の国際価格の上昇(オイルショック)による輸入インフレ等、インフレが加速し資本逃避が起き、1976年には経済危機が発生、深刻化し、ついにIMFの経済安定化政策を受け入れることとなった。

こうして輸入代替工業化政策を放棄せざるを得なくなったメキシコは、この後石油輸出を基礎とした公共投資主導型の輸出志向工業化へと路線を変更した。石油価格の上昇を続けるなか、1977～1981年には石油ブームを迎えた(石黒馨、1998年)。しかしながらこの路線には石油の国際価格や国際市場における金利の変動という制約条件があり、早くも1982年には石油価格の下落と金利の上昇によるメキシコの対外信用度の下落と対外債務の増大により「債務危機」が発生し、再びIMFの経済安定化政策を受け入れることになった。

通常、経済安定化政策の手法は 通貨供給量の抑制、 財政支出の削減、 為替レートの切り下げ、 公共料金、食糧などの管理価格の引き上げ、などが行われる。 と の影響は景気後退を加速させ、工業部門等における設備投資の後退やリストラによる失業の増大方向に作用し、労働者層の所得収入に影響を与える。 は政府の社会投資、社会政策を縮小させる方向に動き、貧困の改善のために投資する社会福祉や社会開発部門における公的資金の支出の縮小を招き、貧困改善を遅らせる結果となる。 の問題は都市部の生活者に大きく作用し、生活費の支出を増大させ、低所得者層及び貧困層にとっては大きな負担となり、貧困層の増大を招く結果となる(福井千鶴、2000年)。

メキシコも例外ではなく上記の手法がとられ、債務危機以降、貿易、金融の自由化などの経済全般にわたる自由化政策へと転換していった。また石油に代わる外貨獲得手段は、労働集約的な工業製品の輸出であり、マキラドーラ(輸出加工区)を中心に主として米国向けの工業製品の輸出が大幅に増加し、1994年の北米自由貿易協定(NAFTA)の締結へとつながって

いった。ところが NAFTA の条約発効の 1994 年 1 月 1 日にメキシコ南部のチアパス州で民主主義と先住民族の人権擁護を訴えたサパティスタ民族解放戦線 (EZLN) が武装蜂起、PRI の大統領候補や幹事長の暗殺といった政治不安と国際利子率の上昇を背景とし、通貨引き下げを契機に急激に資本が流出し「通貨危機」が発生した。メキシコ政府はこの「通貨危機」に対して需要抑制、外貨準備の増大を図り、アメリカの主導する国際金融支援と併せ短期間のうちに危機を乗り越えることに成功した。債務危機以降の 1980 年代後半から 2000 年まで通貨危機の時期を除き GDP は年平均約 4% の成長を記録している。1997 年のメキシコの国民 1 人当たりの GNP は 4,100 ドルと 1982 年の債務危機直前の所得にまで回復し、2000 年には 5,000 ドルを初めて超え、開放的な経済体制の効果が現れているように見受けられる。

しかしながらこの輸出志向工業化戦略では工業製品の国際競争力の強化と外国からの投資促進のため賃金抑制政策がとられるため、労働者の実質賃金は一貫して低下している。また欧米、日本などの大企業の進出¹⁶⁾により雇用の増大には一定の貢献をしているが、教育レベルが低い農村部の余剰労働力の吸収については貢献したとは言い難い。

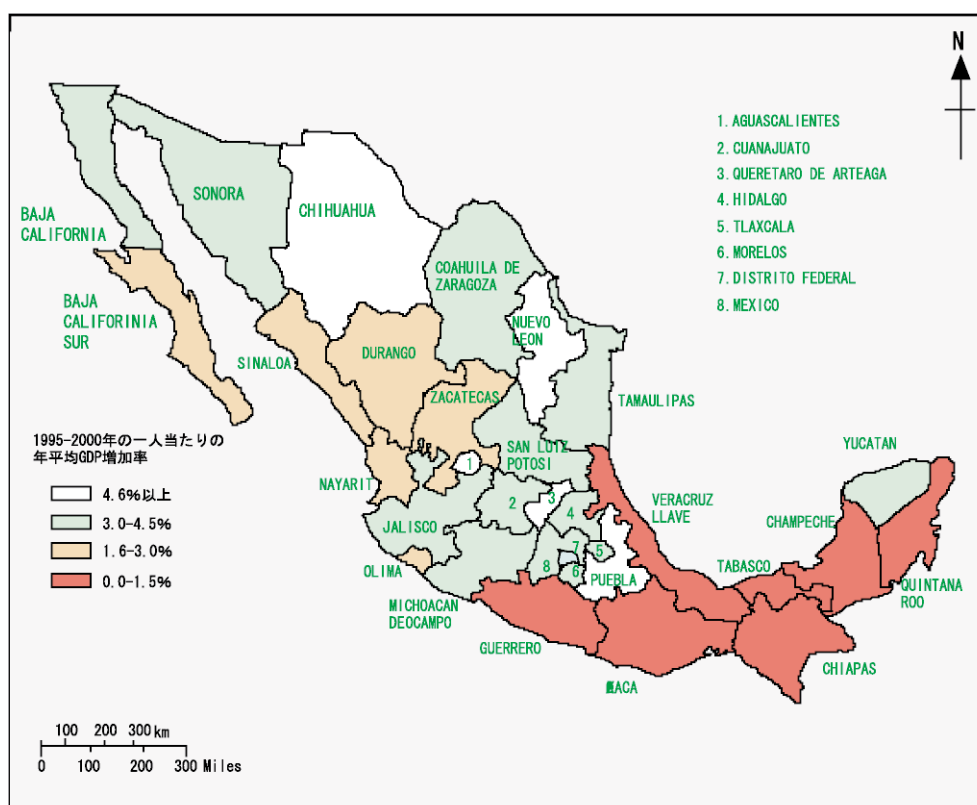


図 2 - 12 州別 1 人当たりの年平均 GDP 成長率 (1995 ~ 2000 年)

出所 : INEGI、Web site より作成

16) 代表的な企業は、IBM、Hewlett Packard、Compaq (米国) Phillips (オランダ) Siemens (ドイツ) Mitsubishi、Sony、Sanyo (日本) であり、マキラドーラ全体の雇用者数は約 118 万人 (2000 年) である。

図2 - 12 は州別の1人当たりの年平均GDP成長率(1995 ~ 2000年)を示したものである。これを見ると、現在の自由経済体制の下で最も恩恵を受けたのはマキラドーラが集中する米国内国境地帯や米国向け農産物の生産地である北部諸州であり、国内消費向けの農産物を生産する南部諸州の零細農民はほとんど恩恵を受けていないことは明らかである。

現在、マキラドーラを中心とする輸出は8割以上が米国向けで、米国の景気動向に大きく依存する不安定な構造となっている。1990年代のメキシコの成長はIT景気に沸く米国経済の好調さに支えられたものであり、2001年の米国の景気後退に伴いマキラドーラでは100社近くの企業が倒産し、14万人以上の労働者が解雇されたと言われている。また一部の企業はメキシコの高い労働コスト¹⁷⁾やNAFTA加盟により原材料等をアジアから輸入する場合の免税措置の撤廃等により中国や東南アジアに生産拠点を移し始めており、追従する企業も出てきている。近い将来には一部の比較的資本集約的なハイテク産業しか残らないのではないかと懸念されている。フォックス政権は労働コストの安い南部でのマキラドーラの展開を表明しているが、電気、通信等のインフラが未整備ということもあり早急に実現することは困難である。労働コストの低さによって国際競争力を維持することが困難になった場合、技術水準を高めてより付加価値の高い部門にシフトすることが考えられる。そのためには裾野産業(中小企業)の発展と技術水準を支える高い技術や教育をもった人的資源が必要となる。しかしマキラドーラに代表されるようにメキシコの製造業は最終工程である組立に特化しており、中間財、資本財を輸入に依存してきたため裾野産業は著しく未整備であり、研究、教育、職業訓練に対する投資も不足しているため、ただちに付加価値の高い部門にシフトすることも困難である。こうしたことからメキシコの経済は今までのような急激な成長は望めないと考えられる。

(6) 政治体制の変遷

メキシコでは制度的革命党(Partido Revolucionario Institucional: PRI)が1929年以降、2000年の大統領選挙において現政権の国民行動党(Partido de Acción Nacional: PAN)に敗れるまでの70年間という長期にわたって政権を担ってきた。PRI政権下の政治体制はポピュリズム政治体制(ポピュリスト的コーポラティズム)である。ポピュリズム政治体制とは、植民地時代からの寡頭支配体制打破のために対抗勢力として都市部の企業家や労働者階級を支持基盤とする政治体制で、「民族主義的」経済体制の推進や「社会正義」を掲げ労働条件の改善や社会福祉制度の整備といったばらまき型の財政政策を進める。各種政策には支持者の拡大という要素が含まれており、国営企業の拡張はその典型的な例である。ラテンアメリカで

17)メキシコの労働コストは中国と比較すると4~5倍の格差があり、中間管理職以上になると給与は日米とほとんど差がないと言われている。

は輸入代替工業化政策はこのポピュリズム政治体制に支えられたとされている。その特色は、経済開発過程における国家介入主義、労働者組織や資本家団体などの利益集団を媒介にした開発政策の決定、国家・労働組合・資本家団体の協調的集団主義等である。

PRI にはメキシコ革命の正統な継承者であるとの認識、自負があり、革命直後は農地改革の推進等、農民についても政治的な統合に余念がなかったが、輸入代替工業化の進展や農業の近代化に伴い、その性格は変容していき、都市部の企業家や組織労働者を中心的な支持基盤としていき、農村部の零細農民は忘れ去られた存在となっていく。

輸入代替工業化初期の安定期には、農村部から大量の労働力が都市部の工業部門へと流れ込んでいった。この傾向は後期の雇用吸収力が低下した時期になっても一向にやまず、1970年には都市／農村人口比が逆転した。都市部への人口流入によって、電気や水道といったインフラ整備、住宅の供給、社会福祉事業、雇用創出など行政需要が大幅に増加した。支持者が都市の組織労働者である以上 PRI はそれらの行政需要に対応せざるを得ず、行政機構の増大や国営企業の設立、社会福祉事業の拡大が行われたため、財政支出は大幅に増大し財政赤字が拡大していった。この財政赤字を埋めるために対外債務に依存するようになり、通貨の増発、インフレの発生、経済危機、債務危機へとつながっていった。また経済危機(1976年)、債務危機(1982年)での経済安定化政策による賃金抑制は、PRI 政権と労働者の深刻な対立を生み、PRI 離れが進み支持率を大きく低下させることとなった。1988年の大統領選挙では労働者比率の高い都市部では PRI への支持率が30%に落ち込み、サリーナス(1988～1994年)は得票率50.36%というぎりぎりのところで当選した。

サリーナス政権は外資規制の緩和、金融の自由化、貿易の自由化など開放的な経済体制の構築のための基盤整備を推し進めた。またデラマドリ政権時代からの国営企業の民営化¹⁸⁾を更に推し進め、その売却益を社会セクター開発に充てる方向性を打ち出した。事実社会開発予算は大幅に増加した。しかしその反面、国営企業の売却先の多くは一部の有力企業グループに集中したため、富裕層への富の集中を促しただけで格差は更に拡大したと批判された。

続くセディージョ政権は経済の自由化路線を継続し、更に選挙制度の改正など政治の自由化を推進させた。しかし経済の自由化は PRI の支持基盤である労働者の PRI 離れを加速させ、1993年には既に北部諸州(製造業の中心地域)では PAN が与党となっており、選挙制度改正後の初の選挙となったメキシコ市長選では PRI は過半数を下回り、革命民主党のカルデナスが当選した。サリーナス、セディージョ両政権下では社会開発支出を大幅に増加させ労働者等の支持基盤の強化による党の再建をめざしたが、2000年の大統領選挙でメキシコ国民が選

18) 1985年当時、メキシコには電力、通信、鉄道等からホテル、レストラン、自転車工場、ナイトクラブまで国営企業は肥大しており、合計1,155社の国営企業があった。しかし1992年には200社にまで削減され、チリと並んで民営化に成功した国とされていた。

択したものは、71年にも及ぶPRI政権の終焉であった。ただし、これはPANの勢力が拡大したのではなく、PRIへの反対票がPANに流れたこと、PRI内部の権力闘争に敗れたグループがPAN側についたことによるものであるとも言われている。またPANは議会では多数派ではなく、フォックス政権は難しい議会対策を強いられており、政治的には安定しているとは言いがたい状況である。フォックス政権は現在メキシコが抱える貧困問題の解決には根本的な構造改革が必要であり、解決には相当な時間がかかることを認識している。しかし根本的な構造改革はそれが経済制度であれ社会制度であれ、既得権益を侵されるグループとの対立や階級的な対立を生じさせる。またメキシコ国民が解決までの時間を辛抱強く待ち続けられるかも問題である。2001年フォックス政権は、政府の財政基盤の強化のため付加価値税の免税品の撤廃を含む2002年度の予算案を議会に提出したが、承認を得ることができず、結局贅沢品に20%の付加価値税をかけるのみになってしまった。また経済状況の低迷を背景に2002年に入ってから支持率が低下し始めている。

フォックス政権の貧困削減に向かった根本的な構造改革には政治的な安定、好調な経済状況が不可欠であるが、現在のところそのどちらも非常に不透明である。

(7) カシケ政治

ラテンアメリカでは多くの国が独立以降の国民国家の形成過程で貧困層、特に先住民族グループの国民国家への統合のために、その仲介者として地方領袖を利用してきた。多くの地方領袖は権力が中央に集中するようになった近代国家への過程で消滅していったが、中央と地方との間に社会的、経済的格差がある所には潜在的に両者の対立関係が生じやすい。そうした対立を抑えるために中央政府は仲介者が必要となり、中央政府が積極的にその政策実施の末端機構として利用することによって、カシケ(Cacique、多くは地方行政府の長や高級官僚である)と呼ばれる存在となっていった。メキシコの場合、革命政権(PRI)といった結びついたカシケたちは政府がもたらす種々のサービスや利権を手に入れ、また政府とのつながりを後ろ盾にして自らの地位や権力を脅かす他の勢力の台頭を抑制していった(吉田栄人、2001年)。カシケ政治とは中央権力と密接に結びついたある一定の限定された地域の社会経済を牛耳るボス的な人物を中心にした地縁血縁関係を基盤に広がるネットワークであり、恩顧・従属関係で党派を形成し、時には対立する利害集団とは暴力の行使で紛争を解決する。カシケはPRIの農村における勢力拡大(及び反対者の阻止)を請け負う代わりに政府が実施するばらまき型の政策の資源配分のフローの支配を任されていたため、それらの資源を支持者や協力者に対して優先的に配分することができ、反対者には流さないようにすることができた。メキシコの南部、先住民族比率の高い農村部ではこうしたカシケ政治が広範囲に行われていた。こうした資源配分の歪みが、それらの地域の経済発展や社会福祉の増大を阻害し、現在のよ

うな膨大な貧困層の形成に一役買ったことは容易に想像できる。

こうしたカシケ政治は1990年代に入ると変化を見せ始めた。それはPANが勢力の拡大を図りPRI政権の腐敗を示すため、選挙における買収行為を批判し糾弾するようになったことが契機になった。カシケによる選挙の不正行為は以前から行われており、政権与党であるPRIの集票機構であったカシケの行為は黙認されていた。しかし経済自由化政策によって労働者のPRI離れが進むなど政権の正当性に揺らぎが生じてきたことにより、それまでは公然の秘密であったものが表に出て批判にさらされることとなった。さらにセディージョ政権下で行われた選挙制度の改正により不正防止が強化されたため政権与党にとってカシケの集票機構としての利用価値は大幅に低下した。またカシケはパトロンとしてクライアントである一般大衆に富を配分する義務を果たす限りにおいて支配者としての正当性を獲得(吉田栄人、2001年)していたため、2000年の大統領選挙におけるPRIの敗北はカシケにとっての権力の後ろ盾と配分する富の喪失を意味するものであった。

ロバート・D・パットナム¹⁹⁾は、イタリアの州政府の制度パフォーマンスの違いは何に起因するのかを1970年の地方分権化(州制度の導入)以降、1990年代までの20年間以上にわたって調査、研究²⁰⁾した。その結果、現在の富める北部と貧しい南部という違いは、水平的な市民共同体(市民的積極参加の規範)が発達した北部、垂直的な恩顧=庇護主義が支配的な南部といった違いによるものであると論証した。また豊かな経済が市民的伝統(積極参加の市民共同体)を発展させたのではという疑問に対して、社会経済的發展と市民的関与の相関を歴史的に計測し、経済は市民的伝統を予測しないが、市民的伝統は経済を予測することを証明している。

このイタリアでの研究成果が直ちにメキシコにも当てはまるのかはより詳細な検討が必要であることは言うまでもない。しかしイタリア南部の垂直的な恩顧=庇護主義が支配的な社会とメキシコ南部のカシケ政治は非常に類似している。また経済的にも貧しい農村部(貧しさの度合いは違うが)という共通点もある。もし積極参加の市民共同体によって経済を予測できるということがメキシコでも言えるのであれば、カシケ政治が揺らいでいるメキシコの農村部の今後は積極参加の市民共同体の形成と発達が重要な要因となる可能性があることを示唆している。

19) ロバート・D・パットナム：1941年米国ロチェスター生まれ。ハーバード大学教授、専攻は政治学。2001年9月より米国政治学会会長。

20) 「哲学する民主主義 伝統と改革の市民的構造」2001年、NTT出版

(8) 政府による貧困対策の変遷

メキシコにおける政府による本格的な貧困対策はサリーナス政権が打ち出した「国民連帯計画(Programa Nacional de Solidaridad : PRONASOL)」が最初であると言われている。PRONASOL は、「食料・必需品」「電化」「先住民族支援」「日雇い農業労働者支援」「連帯における女性」など多様なプログラムから構成されている。PRONASOL の活動は社会開発、生産、地域開発に分けられ、予算の70%は社会福祉(主として社会的インフラ整備)に、15%は零細企業向け融資として生産活動支援に、残る15%がソフト・クレジットとして農村部の地域開発に充当された。PRONASOL の予算は1989年から1993年にかけて年率にして36%の拡大を見せた。PRONASOL はその対象範囲の広さ、ターゲット化、実施への住民参加、公共投資に関する州・地方自治体の権限強化などに対しては一定の評価が与えられている。しかしながらこのプログラムの特徴は、コミュニティに参加と共同責任を求めたことであり、コミュニティ側からのアプローチやその組織化が資金獲得の前提になっていることから、組織化が困難であると推測される農村部の極貧層よりも、既に組織が存在しているもしくは比較的組織化が容易な都市住民が優遇される結果となった。そのため貧困対策というよりは、PRI の集票体制の再建・強化という政治目的が優先され、最大の受益者は最も支援を必要とする人々ではなかった。

続くセディーゴ政権(1994 ~ 2000年)では貧困削減政策は大きく変わり、極貧層を対象に限定した政策が、急速な分権化とともに展開された。社会開発支出はサリーナス政権よりも増加した。1995年に発表された国家開発計画では、メキシコが取り組むべき課題は貧困削減と格差の是正にあるとし、農村人口の4分の3を占める極貧世帯が優先されるべきであり、階級、地域、生産セクター、男女、民族など様々な領域での格差是正が図られるべきであるとされた。そのための戦略的重点は教育、保健、社会保障、住宅の改善に置かれた。セディーゴ政権はPRONASOL を引き継いだが「貧困克服計画(Superación de Pobreza)」がそれに代わり、1997年には新たに「教育・保健・食糧計画(PROGRESA)」を開始した。PROGRESA の目的や発想はPRONASOL の延長線上にあるが、能力開発重視の姿勢、家族・女性観、そして対象の決定方法において、PROGRESA はPRONASOL とは大きく異なる。貧困の永続化を断ち切るためには、能力と体力を備えた人間が必要であり、そのためにPROGRESA は教育、保健、栄養、特に女性と子供に焦点を当てた人間開発を志向している。対象となる地域はマージナリティによって選出される。これにより農村部の極貧層は確実にカバーされるが、相対的に豊かな都市部の貧困層が対象からはずれることになった。特に農村部をもたないメキシコ市は国内で最も貧困層が多い所の1つであるにもかかわらず対象からはずされることとなった。都市部優先とされたPRONASOL とは反対に農村部が優先されることになる。これが伝統的に都市の組織労働者に支持基盤を置くPRI が2000年の大統領選挙でPAN に破れた遠因と

21) 現政権の社会開発についての内容は次項を参照。

なったと言われている。

現在のフォックス政権²¹⁾は、2001年の国家開発計画において「政権の中心課題は教育である」としている。これは東アジアの成功の要因の1つとして「所得に比較して教育への投資が大きかった」ことが指摘されていること、教育による貧困の世代間移転を防止すること等、今後のメキシコの発展には教育が最重要課題であるとフォックス政権が認識していることの表れである。またPROGRESAを継続し、対象を農村部だけではなく都市部の貧困層、極貧層にまで拡大した。2002年にはPROGRESAはOPORTUNIDADES(機会)という名称に変わった。またCONTIGOという新しい社会開発戦略が発表され、CONTIGOは能力の拡大(教育、栄養、職能)、機会創出(地域開発、雇用創出)、社会保護(保健、社会保護)、資産形成(住宅、

表2 - 15 4戦略とライフ・サイクルの対応表

	社会保護	能力の拡大	機会創出	資産形成	社会保護
乳児期	○				
幼児期	○	○			
青少年期	○	○	○		
成人期	○	○	○	○	
老年期	○	○	○	○	○

出所：SEDESOL, Web site

貯蓄)の4つの戦略を柱とし、それらを乳児、幼児、青少年、成人、高齢者というライフ・サイクルに合わせ適用するというものである(表2 - 15)。

メキシコでは現在まで富裕層に対する累進課税による所得の再分配政策ではなく、開発予算を対外債務に依存する政策がとられていた。フォックス政権は、貧困層に対しての付加価値税の免税措置を決める一方、格差の是正と開発予算の確保をめざし富裕層に対する累進課税や脱税防止の強化、インフォーマル・セクターの解消等、2005年を目標に税制や徴税システムの抜本的改革を進めている。

2 - 8 メキシコ政府の開発計画

2 - 8 - 1 開発計画

(1) 国家開発計画 2001 - 2006 (Plan Nacional de Desarrollo 2001 - 2006)

国家開発計画 2001 - 2006 では、現在メキシコは人口学的、経済的、政治的、社会的な4つの局面で大きな移行期にあるとしており、この4つの移行期の行き着く先として、「メキシコ ヴィジョン 2025年」で描かれているような理想的な国家となるために「社会・人間開発」「質を伴った成長」「治安と遵法」の3つを掲げている。またそれぞれの課題を管轄する大統領直属の3つの委員会を設置している。

同開発計画の「社会・人間開発」分野では国民の福祉、能力開発、公正・均衡な機会の創出、社会的連帯と社会資本の強化、行政能力の向上といった社会開発及び人間開発につい

て、「質を伴った成長」分野では国家の経済運営、競争力の向上、均整のとれた地域開発の促進、持続可能な開発のための諸条件の整備について、「治安と遵法」分野では国家の主権と安全保障の確保、同盟国との協力関係の構築、真の連邦制度の推進、汚職の追放、透明性の高い統治、公共の安全と適切な法的代理権の保証についての開発戦略と行動計画が示されている。

さらに、これらの3つの課題解決及び目標の達成のために最も重要なこととして「教育」を掲げており、フォックス大統領は同計画の冒頭で「教育は私の政権の背骨である」と述べている。

約3,800万人もの貧困者を抱える現在のメキシコでは貧困克服は最重要課題である。メキシコ政府は貧困問題の解決を社会開発、人間開発を通じて、特に教育及び福祉のレベルの向上による解決を最優先しており、「社会・人間開発」分野を国家開発計画の3つの柱の最初に位置づけ、そのなかでも教育・福祉の向上を一番目の中心課題としている。

「社会・人間開発」分野の中心課題は下記のとおりである。

1. 教育、福祉の向上
2. 機会の平等と均衡の増大
3. 人々の能力と個人と組織のイニシアチブの開発のための教育推進
4. 社会的連帯と社会資本の強化
5. 自然と調和のとれた社会資本、人的資本の開発の達成
6. 行政機関に対する市民の信頼を高めるために政府の対応能力を拡大する

(2) 国家社会開発プログラム 2001 - 2006 (Programa Nacional de Desarrollo Social 2001 - 2006)

貧困問題の解決をめざし、メキシコ政府は「国家社会開発プログラム 2001 - 2006」
貧困克服：あなたとともに(克服する)課題 (Programa Nacional de Desarrollo Social 2001-2006 Superación de Pobreza: una tarea Contigo)を掲げている。このプログラムは社会開発を担当する社会開発省の開発プログラムである。副題にあるとおり貧困克服のためのコンセプトで統一されており、現状分析(“Dónde estamos”)、克服の目標(“Qué queremos”)、克服の戦略及び処方(“Cómo lo vamos a hacer”)、評価(“Cómo lo vamos a medir”)の5章で構成されている。目標、中心課題及び戦略は以下のとおりである。各戦略には目標と複数のアクションプランが示されている。

1) 目標

1. 極貧の削減
2. 最も貧しく脆弱なグループのための公正な機会の創出

3. 貧困者の能力開発の支援
4. 参加とコミュニティ開発を促進し社会組織を強化

2) 社会開発の中心課題

1. 個人の権利と尊厳を尊重した社会開発を推進する
2. すべての公共政策において貧困の克服のための共有展望を推進する
3. 共同責任の文化を醸成し、支援者としてではなく助成の視点をもって社会政策を形成する
4. 真の連邦主義(地方分権化)と政府の異なる部門間の協力を推進する
5. 貧困者とともに、貧困者からの、貧困者のための社会政策を創出する
6. 社会組織、コミュニティ開発、社会参加を強化する
7. 貧困世帯を保護する
8. 公正さと包括を手段として社会支援政策を特定しその近代化を図る
9. ジェンダーの公正さを伴った社会開発を強化する
10. 民族及び文化的多様性を尊重し保護する
11. ライフ・サイクルについての視点を取り込み、社会政策の諸事業の統合を支援する
12. 地域的な視点、最も貧しい人々に焦点を合わせることを優先する
13. 事業の効率、透明性を保証する

3) 国家社会開発プログラムの戦略

1. マージナリティの高いマイクロリージョンの社会経済開発を促進する
2. 貧困の世代間移転を阻止するための能力開発を促進する
3. 貧困状況にある個人と世帯の雇用と収入機会の増加を促進する
4. 貧困状況にある個人と世帯の安全を改善する
5. 貧困世帯の基礎的財産の開発を支援する
6. 脆弱な状況にある女性と貧困家庭が直面している脅威に対応する
7. 先住民族について公正と尊敬を伴った開発を強化する
8. 人口学的移行の脅威に対応する
9. 社会参加と人々の共同責任にインセンティブを与える経路を創出し促進する
10. 社会政策の研究と評価を支援する
11. 社会開発の課題における制度的フレームワークと真の連邦主義(地方分権化)を強化する

(3) 先住民族の開発のための国家プログラム 2001 - 2006

(Programa Nacional para el Desarrollo de los Pueblos Indígenas 2001-2006)

同プログラムは社会開発省の管轄下にある先住民族庁の開発プログラムである。内容は

先住民族、国家、社会の間に新しい関係を築くために、先住民族の経済的、社会的、法的な状況の向上を図り、文化的多様性の尊重を推し進めるといった戦略、アクションプランを骨子としている。特に先住民族のほとんどが貧困状態にあるため、先住民族の貧困の克服や生活水準の向上にかかわる戦略、アクションプランについて多くのページがさかれている。

(4) その他の関連セクターの開発計画

1) 国家保健開発プログラム 2001 - 2006

(Programa Nacional de Desarrollo de Salud 2001-2006)

保健セクターでの開発計画は、国民の健康状態を向上させる、保健における不公正をなくす、公共及び民間医療サービスにおける適切な対応を保証する、保健に対する財源の公正さを保証する、国家保健システム、特に公共医療施設を強化する、という5つの目標を掲げ、これらの目標達成のために10の戦略目標を立て、それぞれにアクションプラン及びゴールを掲げている。

このうち特に貧困層に向け「貧困者に影響を与える保健の後進性を低減する」という戦略を立て、A. 人生における平等なスタートを保証する、B. 先住民族の保健と栄養を改善する、C. 結核コントロール、D. デング熱やマラリア等の昆虫媒介感染症のコントロール、E. 子宮頸ガンを低減させる、F. 後進性にかかわるその他の問題に対処する、というアクションプランを計画している。さらにそれぞれのアクションプランに関して2006年までの達成目標として具体的な数値を示している。

2) 国家教育開発プログラム 2001 - 2006

(Programa Nacional de Desarrollo de Educación 2001-2006)

教育における「公平性の実現」「質的な向上」「教育制度の改善と社会参加の推進」の3つを大きな目標として掲げ、連邦、州、ムニシピオ政府間の協調や住民参加を含めた教育システムの運営面での改革を大きな戦略の柱としている。初等、中等、高等教育及び職業・生活教育といった課程別に3つの大目標に沿って個別の目標、戦略、アクションプラン、具体的な達成目標値を示している。

貧困層に対する政策としては、識字率、就学・修了率、能力達成度などの格差の是正を図るために各課程の「公平性の実現」の下に戦略及びアクションプラン等が掲げられている。

特に初等教育では先住民族、農村部のマージナリティの非常に高い地域の子弟、季節農業労働者の子弟、ストリートチルドレン、障害をもった子供たちを最も脆弱なグループとして、「経済的支援」「カリキュラムや教育プログラムの多様化」「先住民族へのバイリンガ

ル教育の拡充」「文化的多様性についての教育の拡充」の4つを主な戦略としている。

さらに職業・生活教育では、国防省、社会開発省、成人教育庁、青少年庁、先住民族庁、国立大学・高等教育機関協会、私立高等教育機関連合、師範学校などと協力し、14～24歳までの貧困層に属する青少年の識字教育や初等・中等教育プログラム、先住民族(成人)へのバイリンガル教育、既に就労している人に対しての継続職業訓練や専門知識習得プログラムを提供するとしている。

3) 農業、牧畜業、農村開発、漁業、食糧セクタープログラム 2001・2006

(Programa Sectorial de Agricultura, Ganadería, Desarrollo Rural, Pesca y Alimentos 2001-2006)

農村開発と農村部の貧困の克服は表裏一体の関係である。「農業、牧畜業、農村開発、漁業、食糧セクタープログラム 2001・2006」では10のセクターの政策を掲げており、それぞれの政策について個別の戦略、アクションプランを策定している。特に農村開発、貧困問題といった課題については、「マージナリティの高い農村部の開発」「地域全体に焦点をあてた農村開発」といった政策を立てており、優先順位の高いものとなっている。全体を通じて農村開発を単に農牧業セクターのみにとらわれず、地域全体の開発における位置づけ、他のセクターとの連携、異なるレベルの政府機関やプログラム間の協調の重要性を強調している。以下はセクターの政策である。

マージナリティの高い農村部の開発

地域全体に焦点をあてた農村開発

政策の多様化

流通の整備

連邦制(地方分権化)の強化

プログラムと組織の活動との連携

法的保証

社会組織の参加

耕作作物の多様化と再転換

天然資源の保全と改善及び生物多様性：環境サービス

2 - 8 - 2 貧困問題についての担当官庁

貧困問題にかかわる担当官庁は社会開発省(Secretaría de Desarrollo Social : SEDESOL)であり、その主な組織は図2 - 13のようになっている。

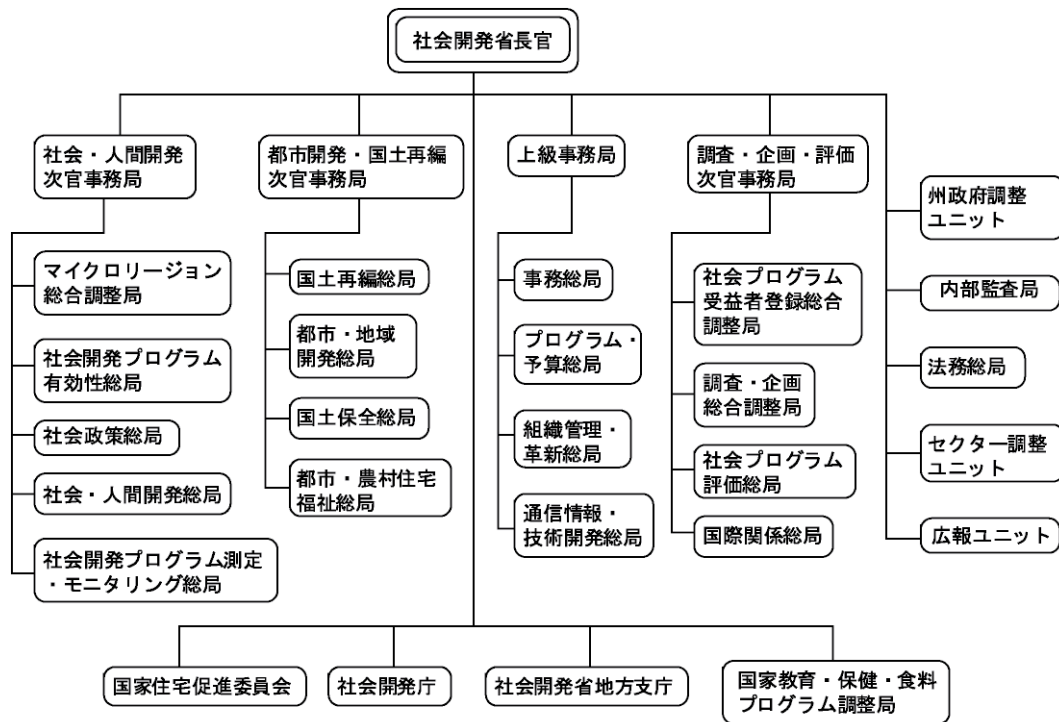


図 2 - 13 社会開発省組織図(抜粋)

出所：Secretaría de Desarrollo Social

組織は次官事務局(3)、上級事務局、総合調整局(4)、総局(14)、州政府調整ユニット、内部監査局から成り、また社会開発省の政策実施機関として独立行政法人のような実施機関(Organos Desconcentrados)を管轄下に置いている。

さらに 31 州の代表から成る社会開発連邦評議会(Consejo Federal de Desarrollo Social)及び社会開発庁官及び 10 州の州知事で構成される州知事諮問委員会を設置し州政府の社会開発局との連携、協調を図っている。

また学識経験者、財界、法曹界、マスコミ、市民団体等で構成される社会開発市民諮問評議会(Consejo Consultivo Ciudadano de Desarrollo Social)が設置され、社会開発省の政策、プログラムの効率性、有効性、公平性を評価・モニタリングすることにより、社会政策の実施についてのアカウンタビリティが積極的に推し進められている。

現在、コンティゴ(Contigo、スペイン語で「あなたと共に」の意)と名付けられた新しい社会開発政策を展開している。社会開発プログラムとして前政権時に展開されていたプログレサ(Progresá)、プロカンポ(Procampo)等はこのコンティゴ・プログラムに統合された。同プログラムは、能力の拡大(教育、栄養、職業訓練)、機会の創出(地域開発、雇用促進)、社会的保護(保健医療、社会保障)、資産の形成(住宅、貯蓄)を戦略とし、共同責任、公正、包括を基本原則として貧困の克服、国民の生活レベルの向上をめざし各種のプログラム、事業を提供している。

- (1) 社会開発省管轄下の社会開発、貧困問題に関するプログラム、プロジェクトの実施機関
- 1) 食糧配給公社(Distribuidora e Impulsora Comercial Conasupo, S.A. de C.V. : DICONSA)
マージナリティが「非常に高い」「高い」農村部で食料品や雑貨などの購入のためのアクセス(商店)がないコミュニティに対してコミュニティ組織を通じてトウモロコシの粉、砂糖、米、豆等の基礎食品や缶詰、コーヒー、小麦粉などの食品、たばこ、石鹸、学用品、乾電池、プラスチック製品等の生活雑貨を安価で供給するプログラム。共同体組織を商店の代替とする方法や自動車による巡回販売等で供給している。2000年の実績ではマージナリティが「非常に高い」「高い」地域の約半数をカバーしている。
 - 2) 乾燥地域開発国家委員会(Comision Nacional de las Zonas Aridas : CONAZA)
国土の約53%、25州にわたる乾燥地域及び半乾燥地帯の開発を管轄する。水資源開発や雇用促進、技術移転、職業訓練、基礎インフラ整備プログラム、プロジェクト等を実施している。
 - 3) 土地所有権調整委員会(Comisión para la Regularización de la Tenencia de la Tierra : CORETT)
エヒード、共有地、国有地を不法占拠している居住者の土地所有問題の調整機関。不法占拠している居住者への土地取得、登記、危険区域からの移転等の支援、州政府やムニシピオ等の行政機関に対しての基礎インフラ敷設の勧告や敷設の支援を行う。
 - 4) 国家民芸品振興基金(Fondo Nacional para el Fomento de las Artesanías : FONATT)
大衆芸術品や伝統工芸品の買い上げ及び販売、貧しい製作者に対する原材料や道具・機材の購入のための信用付与、技術指導、コンクールの主催、国内外へのプロモーションを通じての民芸品振興を行う。
 - 5) 国家高齢者庁(Instituto Nacional de Adultos en Edad Plena : INAPLEN)
高齢者福祉の実施機関。医療、教育、レクリエーション、スポーツ、宿泊施設、雇用、職業訓練等の各種サービスを提供する。60歳以上の高齢者には高齢者カードが発行され、同庁と契約を結んでいる交通機関、ホテル、レストラン、医療機関等で割引サービスが受けられる。
 - 6) 国家先住民族庁(Instituto Nacional Indigenista : INI)
先住民族政策を管轄する機関。先住民族に関する問題の研究、管轄政府機関の施策を調整、指導、先住民族総局との協調の下に先住民族コミュニティの改善事業を実施している。
 - 7) 国家社会開発庁(Instituto Nacional de Desarrollo Social : INDESOL)
前政権時の国家開発計画における貧困克服プログラム(1995～2000年)の実施機関として設置された。貧困者支援のためのコミュニティ組織、NGO等に対する研修やプロジェクトへの出資、州やムニシピオ政府に対する研修を行っている。

8) ミルク・トルティーリャ供給公社 (LICONSA)

農村部及び都市部の極貧世帯の12歳以下の子供を対象としたミルクの製造及び低価格での供給プログラム (Programa de Abasto Social de Leche) 及び都市部のマージナリティが高い地域の極貧世帯に対するトルティーリャ (1日1kg) の無料配布プログラム (Programa de Abasto Social de Tortilla) を実施している。

9) 教育・保健・食糧プログラム (Programa de Educación, Salud y Alimentación : Oportunidades)

前政権時にはプログレサ (Progresá) と名付けられていた貧困者支援プログラムで、現在はオポルトゥニダデス (Oportunidades) と名称が変更になった。内容は貧困世帯の子供の初等教育就学支援 (奨学金の支給及び学用品、制服などの現物支給)、貧困世帯全員への基礎的保健医療サービスの提供 (財源はプログラムの予算及び保健セクターの予算)、2歳以下の乳幼児、妊産婦及び乳幼児をもつ母親を対象に基礎的な食料品購入のための助成金支給である。

10) 250 マイクロリージョン支援国家プログラム (Programa Nacional de Atención a 250 Microrregiones)

連邦政府、州政府、ムニシピオ政府の連携と協調、社会参加を通じ可能な資源の集中的、効率的な投入により250のマイクロリージョン (1つもしくは複数のムニシピオから構成される地域) の貧困の克服と包括的開発を促進する。250 (2001年)²²⁾ のマイクロリージョンにはマージナリティが「非常に高い」「高い」478のムニシピオが含まれる。主な特徴は マージナリティの高い地域に焦点、住民参加、地域、住民の文化やアイデンティティの尊重、組織間の協調、開発の可能性のある地域に焦点、といった5つを掲げている。

(2) その他の貧困克服に関する公的機関、プログラム、サービス

1) 国家人口評議会 (Consejo Nacional de Población : CONAPO)

すべての省庁によって構成される国家の人口問題を管轄する機関で、主管官庁は内務省である。社会開発、経済開発に直結する人口問題についての調査、研究、出版を行っている。マージナリティの調査・研究、発表、出版は同評議会が担当している。設立は1974年。

2) Chambanet (www.chambanet.gob.mx)

労働社会保障省が提供しているインターネットによる無料の求人就職情報サービス。

3) Chambatel (www.stps.gob.mx/chambatel/chambatel.html)

労働社会保障省が提供している電話による無料の求人就職情報サービス。

4) Fondo de Operación y Financiamiento Bancario a la Vivienda (FOVI) (www.fovi.gob.mx)

22) 2002年にはマイクロリージョンの数は263になっている。詳細は付属資料3を参照。

財務省管轄下。住宅取得、建設資金の融資、保証を行う。

5) Fondo Nacional de Apoyo para las Empresas de Solidaridad : FONAES

(www.infonaes.gob.mx)

貧困層に属する人々の生産活動を支援するためのプログラムで、返済期限最大5年で10万ペソまでを初期投資、事業所の建築費用以外の事業目的のための資金的支援を実施している。財務省管轄下。

2 - 9 開発ポテンシャル(可能性)

メキシコは1996年にOECDへの加盟を果たし先進国の仲間入りをした。しかしながら人口の約35%が貧困層に属し域内では最大規模の貧困人口を抱えており、その数は3,800万人にものぼる。特に農村部では居住者の大多数が貧困者で収益の低い小規模農業に従事している。また農村地域は電気、上下水道といった基礎インフラや道路等の経済インフラの整備が遅れており、教育、保健医療といった基礎サービスへのアクセスも限定的であるため生活の質においても貧困状態に陥っている。農村部の貧困者の多くは先住民族であり、先住民族の人口比が高い地域では所得貧困と生活の質的貧困の発生率が非常に高くなっている。

さらにこうした状況を嫌い、より高い収入やより良い生活を求めて都市部への移住者が増加している。しかしながら都市部での雇用吸収力にも限界があり、住宅も不足している。そのため大都市では不法占拠やスラム街が形成され、農村地域同様に基礎インフラや基礎サービスが不足することとなっている。また治安の悪化やストリートチルドレン等の都市化に伴う問題も深刻化している。また現在の人口増加のペースと雇用の創出との関係がこのままであれば、毎年100万に近い雇用が不足していくことになり、貧困者の増加に直結することになる。

メキシコ政府は貧困克服及び格差の是正を国家の最重要課題として認識し、国家開発計画、国家社会開発プログラム等を通じそれらの解決を図っている。しかしながら、経済インフラ、基礎インフラ、基礎サービスの整備には莫大な資金が必要であり、特に農村部においては経済効率の観点から民間部門の参入が難しいため供給者は政府とならざるを得ず、既に先進国の仲間入りを果たしたといってもメキシコ政府(地方政府を含め)のみでそれらの資金のすべてを賄うことは困難である。さらに保健や教育といった対人サービスは、その供給にあたって経済的資源、人的資源、物的資源などの非常に多くの行政資源を必要とする。特に人的資源についてはある一定期間の訓練を受けた専門知識をもった人を必要とするために短期間では大量に供給することは不可能である。さらにそれらの人々に訓練を施す専門家の短期間での供給については一層困難である。

またNAFTAに加盟し、現在開放的な経済体制を促進しているが、経済成長が貧困削減に貢献するメカニズムが不確定であり、この経済体制は今のところメキシコの貧困問題の解決にはつながっておらず、かえって格差を助長しているところがある。

貧困削減のためには税制改革など制度の抜本的な改革を必要とする。こうした改革には既得権益をもっているグループからの猛烈な反発、改革による一時的な混乱や痛み等の大きな社会的コストがかかる。こうした社会的コストは政治的な解決が必要になってくるが、与党 PAN、PRI、PRD（革命民主党）の主要3党はいずれも議会での過半数に達しておらず、フォックス政権が提出する改革案や重要法案は修正、否決され、政治的には安定しているとは言い難く、改革の行方は不透明である。そのため目立った成果をあげられずフォックス政権に対する支持率は2002年に入り急落している。

こうしたことを勘案すると、貧困削減のスピードが加速することは非常に困難であり、貧困人口の増大や地域間格差は当分の間続くと思われる。貧困削減や地域間格差の是正の必要性といった観点から見ると、メキシコは短期、中期的には開発のポテンシャルは非常に高いといえる。

第3章 援助動向

3-1 国際機関・援助国の援助動向

(1) 世界銀行

世銀は今後のメキシコの開発問題に関して、貧困削減を念頭に置き、①マクロ経済の安定・維持、②開かれた競争を通じての成長の促進、③人的資源開発を通じての貧困削減、④環境保護を伴った成長と貧困削減の両立、⑤効率、アカウンタビリティ、透明性をもったガバナンスの5つの柱を提言²³⁾しており、今後の援助方針はこれらに沿ったものとなると思われる。現在実施されている援助のうち貧困削減に関連があるものは以下のとおりである。

表3-1 現在実施中の貧困削減に関連があるプロジェクト（世銀）

セクター	サブ・セクター	プロジェクト名	承認年	終了年
公共セクター・マネージメント	制度開発	Gender Equity Project (ProGenero)	2000	2004
民間セクター開発	中小企業	Southeast Regional Development Learning and Innovation Project	2001	2005
保健、栄養、人口	PHC	Basic Health Care Project (03)	2001	2007
保健、栄養、人口	リフォーム／ファイナンス	Health System Reform Technical Assistance Project	1998	2002
保健、栄養、人口	リフォーム／ファイナンス	Health System Reform Sector Adjustment Loan	1998	2002
環境	自然資源管理	Consolidation of the Protected Areas System Project	2002	2010
環境	自然資源管理	Land Conservation Mechanisms Project	2001	
環境	その他環境	Natural Disaster Management Project	2000	2004
環境	自然資源管理	Biodiversity Conservation Project	2000	2008
環境	その他環境	Renewable Energy for Agriculture Project	1999	2004
環境	その他環境	Oaxaca Sustainable Hillside Management Project	1999	
教育	その他環境	Basic Education Development Project Phase (02)	2002	2004
教育	高等教育	Knowledge and Innovation Project	1998	2003
農業	その他農業	Rural Development in Marginal Areas Project (02)	1999	2005
農業	その他農業	El Triunfo Biosphere Reserve Project	1999	
農業	農業調整	Agricultural Productivity Improvement Project	1998	2003
農業	その他農業	Rural Development in Marginal Areas Project	1998	2005
農業	林業	Community Forestry Project	1997	2003

出所：世銀 Web site より

(2) 米州開発銀行 (IDB)

米州開発銀行は2002～2006年のメキシコに対する援助実施戦略として、社会セクターの近代化と貧困削減（女性、先住民族、社会的弱者（身障者、高齢者）にターゲットを当てた教育、保健医療、労働市場の改善）、統合（NAFTAを通じての北米との関係、プレブラ・パナマ・プランを通じての中米地域との関係）、国家の近代化（ムニシピオ、州、中央政府の行政能力の向上、人権や所有権等の法的整備）、民間セクターの競争性と効率性・競争力のある効

23) 「A Comprehensive Development Agenda for The New Era」 World Bank (2001)、セディーゴ政権下で実施された広範囲にわたる調査結果をまとめたもの。

率的な開発を妨げている障壁の撤廃（金融システムの近代化、経済インフラや社会インフラの整備）の4つの基本戦略を掲げている。2002～2006年の期間に総額12億ドル（社会セクターの近代化に40%、民間セクターの生産性向上に35%、国家の近代化と民営化に10%、統合に15%）の支援を計画している。現在実施されている援助のうち貧困削減に関連があるものは以下のとおりである。このうち「Education, Health and Nutrition Program」はPROGRESA（現在はOPORTUNIDAD）に対するもので、支援額は合計20億ドル（第1期；10億ドル、第2期；10億ドル）である。

表3 - 2 現在実施中の貧困削減に関連があるプロジェクト（米州開発銀行）

プロジェクト名	開始年	終了年
Education, Health and Nutrition Program	2002	2004
Training and Employment Support	2002	2004
Financial and Institutional Strengthening of States and Municipios	2002	2004
Support for Small Farmers through PROCAMPO	2002	2005
Housing Finance Program	2000	2002
Multisector Global Credit Program	2000	2002
State and Municipal Strengthening Program	1999	2003
Strengthening Institutions in the Low-Income Saving & Loan Sector	2002	2004
Capitalization of Remittances for Local Economic Development	2002	2004
Support to Productive Integration	2002	2005

出所：世銀 Web site より

（3）国連食糧農業機関（FAO）

国連食糧農業機関はメキシコに対し「第1期 PESE 実施に係るメキシコ政府に対する支援（Apoyo del Gobierno de México en la Ejecución de la Primera Fase del PESE）」を行っている。PESE は、2015年までに飢えで苦しむ人を半減させるという世界食糧会議（1996年）の宣言を受けた低所得国／食糧不足国に対する食糧保障特別プログラム（Programa Especial para la Seguridad Alimentaria：PESE）で世界83か国（1999年）に対して実施されている。

同支援は第1期、第2期に分かれ、第1期では5年間で対象となるマイクロ・リージョンの貧困削減への貢献と食糧保障の改善を目的として農牧業開発のクリティカルなボトルネックの解決を行うとしている。第2期では、第1期の成果を他の地域に拡大するとしている。第1期の内容は ローカルレベルでの実施能力の強化、サブ・プロジェクトの実施、制約の分析と政策のデザイン、調整の4つのコンポーネントから構成されており、対象地域は5つのマイクロ・リージョン（ヴェラクルス州、ミチョアカン州、ユカタン州、イダルゴ州、ハリスコ州）となっている。支援は合計2,685万ドル（うちサブ・プロジェクト²⁴⁾として2,050万ドル）の資金援助と政府（中央及びローカル）のカウンターパートとしての技術援助である。

24) 水資源の管理・利用、農地利用の改善と環境保全、市場・金融システムの整備、栄養改善等にかかわるプロジェクトが想定されている。

その他の国際援助機関の援助としては UNFPA によるリプロダクティブ・ヘルス/人口関連のプロジェクト、UNDP による先住民族の開発プロジェクトがあげられる(付属資料 4 参照)

二国間援助では我が国をはじめとして、米国、フランス、ドイツ、スペインが主要ドナーとなっており、プロジェクト名に貧困削減と冠しているものはないものの、実際にはその裨益対象者の多くが貧困層となる保健医療、農業、環境、マイクロファイナンス等が主な対象分野である(付属資料 4 参照)

3 - 2 NGO による援助動向

現在メキシコには貧困層をその活動の対象とした NGO は非常に多くあり、正確にはその数は把握されていない。全国各地に複数の事務所をもち、国際機関や国際的な NGO からの支援を受け、また共同で事業を実施している規模の大きな NGO から、限定された地域や分野で事業を実施している小規模な NGO まで多数存在している。以下は主な NGO とその概要である。

(1) メキシコ・フィランソロピー・センター (Centro Mexicano para la Filantropía : CEMEFI)

1988 年に設立された NGO。会員は約 400 団体で、主な活動は NGO の設立支援や能力開発の支援、政府機関の政策策定への参加、メキシコの NGO 情報の提供等である。メキシコ全国の NGO ダイレクトリーを出版している。国連ボランティア年にはメキシコの代表団体となっていた。(www.cemefi.org/)

(2) メキシコ農村開発基金 (Fundación Mexicana para el Desarrollo Rural : FMDR)

1963 年設立の NGO。現在 35 の開発センターを通じてメキシコ国内 25 州で事業を展開している。主な活動は農村部の低所得層を対象として、協同組合への技術指導、運営指導、生産プロジェクトの実施支援、資金援助、農村開発のための組織設立支援・指導である。1999 年の融資実績は 956 万ドル、受益者は 839 共同組合、11,845 世帯である。(www.fmdr.org.mx/)

(3) メキシコ家族計画基金 (Fundación Mexicana Para la Planeación Familiar : MEXFAM)

1965 年に設立された NGO。国際家族計画連盟のメンバーである。貧困層を対象として、家族計画、保健、性教育などのサービスを約 30 万家庭、40 万人の青少年に対して提供した。2001 年は、合計 135 プログラムを全国 28 州及び連邦特別区で実施した。このうち 56 プログラムは青少年プログラムとして学外教育、基礎保健サービス、性教育を実施し、23 のプログラムは都市部近郊の貧困層に対する基礎保健サービス、32 プログラムが農村部のコミュニティ開発として基礎保健サービス、リプロダクティブ・ヘルス・サービスを提供している。

(www.mexfam.org.mx/)

(4) アドラ・メヒコ (ADRA México)

1985年設立のミッション系の国際的NGOのメキシコ支部。経済開発(小規模企業への融資、小規模畜産支援、縫製技術センター設立等)、給水、家庭農園、識字教育の4つの分野(計13プロジェクト)、16地域で事業を実施している。(www.tagnet.org/adramexico/)

第4章 対象分野における JICA の協力の方向性

(1) 貧困の度合いが最も高い地域やグループを対象とする

都市部よりは農村部、男性よりは女性、非先住民族よりは先住民族における貧困問題がより酷く深刻である。現在以上に貧困の度合いが高くなならないよう、格差が広がらないようにするという観点からは貧困層にも裨益するといった介入ではなく、最も貧困の度合いが高い地域やグループを対象を絞り直接介入すべきである。

地域としては、マイクロリージョンやムニシピオといった比較的人口規模の小さな行政区等を対象地域として絞り込み、プロジェクトやプログラムを実施する。広範囲での介入は成果が見えにくく、モニタリング、評価が困難であるため、成果を目に見える形にするためには莫大な資源の投入が必要となる。

対象とするグループは貧困の度合いが最も高い、女性や子供、先住民族を中心に置いてプロジェクトを設計する。特に女性の開発は多くの貧困関連事象と密接な関係があり、女性の貧困状態の解決や地位の向上は、多くの貧困にまつわる問題の解決につながる。特に女性の教育レベルの向上はその女性自身の能力可能性を高めるだけでなく、女性/母親の教育レベル・識字率と合計特殊出生率、子供の健康状況(特に栄養状況)、子供の教育レベル(就学率、学習到達度、放棄率、進学率)には強い相関関係があることが実証されており²⁵⁾、女性の教育レベルの向上によって人口増加の抑制、子供の健康改善、次世代への貧困の移転防止が可能となるとされている。

(2) 単独の分野への投入ではなく、同時に複数の分野に介入を図る

貧困・格差の是正は所得、雇用、保健医療、教育、電気、上下水道、通信、住宅等の多岐にわたる問題である。またそれらが複雑につながっており、1つの問題があるときは原因となり、あるときは結果となっている。個別の問題の解決のみでは逆効果もありうる。貧困層を対象に乳児死亡率を低下させるプログラム・プロジェクトを単独で実施し効果があった場合、同時に適切な家族計画の実施や所得向上が図られていなければ、いたずらに貧困者を増加させる結果になり、貧困問題の解決にはならない。

25) ジェンダー、教育、家庭の福祉向上に関する研究の参考資料として、「Differences in Education in Mexico (Susan Wendy Parker and Carla Pederzini, August 2000, World Bank)」、女性の教育と貧困との関連については「Los Activos de los Pobres en el Peru (Javier Escobar, Jaime Saavedra, Maximo Torero, Mayo de 1999)」、またペルーの国家統計情報院(Instituto Nacional de Estadística e Información)のWebサイトには報告書、関連する統計資料がある。

そのため複数の分野に対して複数の援助資源を投下することが必要である。

例えば、女性の教育レベルや識字率の低さをもたらす1つの典型的なパターンとして以下のようなことが考えられる。一般的に農村部では生産性の低い小規模農業のために家計レベルの所得が低い。そのため副業や出稼ぎが必要になるが多くの場合男性が中心となる。男性が不在の間、家事や育児等の労働に加え、男性が行っていた労働を負担せざるを得なくなり、女性の教育機会は減少する。(また母親の代わりに女兒が育児をすることも同様に教育機会を減少させる)

この場合、農業の生産性の向上といった介入によって最終的には女性が受益者となる可能性がある。したがって直接女性の貧困や開発に介入していないと思われるプロジェクトやプログラムでも、設計や期間次第では女性が潜在的なターゲットとなり、同時に直接介入するプロジェクトやプログラムを実施している場合には双方からのアプローチとなり成果の発現のスピードや大きさに正の影響を与えることが予想される。

ただし、これは我が国がすべての分野に対して援助をしなければならないという意味ではない。あらかじめ貧困や格差是正のためのプロジェクト・コンポーネントを用意し、対象地域で相手国政府(地方政府を含む)他のドナーやNGOによって実施されている各種のプログラムやプロジェクト、基礎インフラの整備予定を入念に調査し、不足している分野に対して柔軟にコンポーネントを組み合わせて投入し、結果として対象地域の貧困問題解決に必要な資源をできるだけ多くして短い時間で多くの問題に対処するということである。

(3) 貧困の測定、プロジェクトの評価の手法を研究・開発する

教育、保健医療といった分野では利用者の生活習慣や考え方の変化があってはじめて成果につながるため発現には時間がかかる。また所得の向上や上下水道の整備などの他の分野の変化によって教育、保健医療プロジェクトの成果や目標に敏感に反応するため簡単にはプロジェクトの成果であるとは断言できない。ましてや上記で述べたような比較的小さな地域における複数のコンポーネントの投入や複数の分野への介入方法、評価方法については残念ながら確立していない。したがってプログラム・プロジェクトの実施に際して、将来のフィードバックを考え、介入方法や評価方法について調査・研究のためのコンポーネントを同時に盛り込むことが必要である。

メキシコは先進国と途上国の両面を併せ持つ国である。都市部、特にメキシコ・シティ、モンテレイ、グアダハラといった大都市を見る限りにおいてはまさに先進国であるが、農村部の貧困に目を移すと他の中南米諸国の農村部の現状とほとんど差はない。しかしながら、その先進性と国力の差からか他の中南米諸国と比較すると、貧困に関する研究(特に貧困の測定や統計システムの整備)や先住民族問題の研究等については一歩も二歩もリードしている感がある。言語、習慣、社会制度等他の中南米諸国と共通点が多いことから、メキシコでの貧困問題の研究成果は他国への応用が可能であると思われる。共同研究やプロジェクトの共同実施を含む研究協力はメキ

シコの南南協力(プエブラ・パナマ・プラン²⁶⁾を含む)の能力を高めるとともに、我が国が他の中南米諸国で実施する協力をフィードバックすることが可能である。

この研究協力は、社会開発庁、先住民族庁、州政府等の政府機関のみならず、シンクタンク系の NGO との提携²⁷⁾も考えられる。

26) メキシコのフォックス大統領の提唱により現在、プエブラ・パナマ・プランが実施されている。同計画の概要は以下のとおりである。

メキシコ南部のプエブラ州プエブラ市からパナマまでのメキシコ南部・中米諸国(7か国)地域の総合開発計画である。地域の面積は100万km²。人口は7,000万人。地域のGDPは約1,000億ドル、1人当たりGDPは2,000ドル未満で、人口の40%が1日1ドル未満の生活を強いられている。インフラも極めて未整備であり、また種々の自然災害に対しても極めて脆弱である。しかしながら、この地域は歴史的、文化的な多様性をもっている。100を超える先住民族(1,600万人以上)が住み、豊かな文化と建築遺産を多数有している。エコツーリズムには、特に大きな潜在力がある。この地域には世界中の生物種の10%が生息。極めて豊かな環境を維持している。

計画は、メキシコの中でも開発の遅れている南部地域と中米地域の総合的で持続的な開発を行うことを目的としている。文化的な多様性を尊重しつつ、生活水準を向上させて地域発展を進める計画である。戦略的な投資と政策を明確にし、地域の物理的、経済的、そして社会的な統合を進めていく。この計画には以下のような内容、観点が含まれる。

1. 物理的統合(メキシコ南部と中米諸国を結ぶ道路網、鉄道網、港湾の整備。ガスパイプライン、送電網の整備による規模の経済、効率の向上)
2. 規制の調和(税関、運輸、金融取引等)
3. 環境保護(環境保全、国際河川の整備等)
4. 戦略的提携(各国企業間の提携による経済発展)

これらを同時並行的に実施する計画である。2000年12月、メキシコ・シティーで開かれた各国外相級会合の際にこの計画の議論が始まった。2001年6月15日にエル・サルバドルで開催された中米首脳会議ではPPPの基本線に合意がなされた。(米州開発銀行東京事務所のWEBサイトより)

27) オランダやスペインは中南米地域でこの種の(研究や調査委託等)協力を行っている。

第5章 開発課題の設定

メキシコが直面している貧困・格差の是正のために解決すべき主な課題を整理したものが図5 - 1である。図5 - 1の開発課題は、農村部での貧困問題が非常に深刻であり、農村部の貧困者の多くが農牧業に従事しているという現状から、貧困削減を目的とした「農村開発」戦略に用いられる開発課題²⁸⁾を参考にし作成した。体系図の構成は、開発戦略目標として大きく5つに分けて設定しており、それらに加えて4つの横断的な開発戦略目標を設定した。またそれぞれの開発戦略目標の下に中間目標を、さらに中間目標ごとにサブ目標を設定した。体系図の上部にあるプログラム・レベルとプロジェクト・レベルは、各目標に対する支援方法の大枠を示したものである。特に中間目標は(横断的課題での中間目標を含め)直接プロジェクト目標となるような課題とした。

先に「単独の分野への投入ではなく、同時に複数の分野に介入を図る」としたが、これは単独の分野への介入プロジェクトを否定するものではない。プロジェクト・デザイン・マトリックス(PDM)には外部条件を記入する欄があり、その外部条件にはプロジェクトの成果や目標の達成を助長する条件、阻害する条件の正負の外部条件がある。この外部条件、特に負の外部条件はプロジェクトの成否に重大な影響を与えるため、プロジェクトの設計段階、実施段階において、外部条件の内包化や影響を最小限に止めるための工夫や配慮がなされている。しかしながら、しばしばこの負の外部条件は、その存在に気づいていながらプロジェクトの形態、スキーム、対象分野等によって不本意ながらも対処できないことがある。また反対に正の外部条件については、その存在がプロジェクトを阻害しないことから、中立的な条件としてとらえ、あえて内包化を検討しない傾向がある。「単独の分野への投入ではなく、同時に複数の分野に介入を図る」ということを別の表現で言えば「外部条件の内包化を図る」ということである。

単独の分野への介入の選択・策定にあたっては、図5 - 1の開発課題体系図中の中間目標のサブ目標にあるような課題がそれぞれどのように関係しているかを把握し、関連が深い課題については、プロジェクトへの内包化を図る等の検討が必要である。そのために図5 - 2のような開発課題ごとの関係が視覚的に分かるようなツールの開発も必要ではないかと思う。

28) 本稿の開発課題の設定には、「開発課題に対する効果的アプローチ」(2002年)国際協力事業団、国際協力総合研修所、の農村開発の開発課題体系図を参考にした。開発戦略目標や中間目標の分類方法には違いがあるが、課題の内容としてはほぼ同じであると認識している。

プログラム・レベル		プロジェクト・レベル
開発戦略目標	中間目標	中間目標のサブ目標
1. 人的資源開発の強化	1-1 教育水準の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初等教育への就学率の改善 ・ 識字教育の拡充 ・ バイリンガル教育の拡充 ・ 教員の質的な向上 ・ 教育の質的向上 ・ 教育資金制度の構築 ・ 離就学者の教育向上
	1-2 健康状態の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ リプロダクティブ・ヘルス・サービスの拡充 ・ 基礎保健サービスの拡充(PHOを含む) ・ 公衆衛生知識の向上
2. 生活の質の改善(インフラ整備)	2-1 電化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電気の普及
	2-2 上水道の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上水道の整備
	2-3 衛生設備の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 下水道、トイレの整備
	2-4 情報通信技術の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報通信技術へのアクセスの改善
	2-5 住宅事情の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住宅材質の改善と部屋数の増加 ・ 住宅取得支援
	2-6 アクセスの改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道路の舗装と延長 ・ 公共交通網整備
3. 所得向上	3-1 農牧業所得の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生産技術の向上 ・ 生産基盤の整備 ・ 生産物流整備 ・ 物流管理システム構築 ・ 信用へのアクセスの改善
	3-2 農牧業外収入の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民芸品、工芸品の生産性の向上 ・ 職業訓練の拡充 ・ 観光資源開発(エコツーリズム等) ・ 生産物流基盤の整備 ・ マーケティング能力の向上 ・ 起業支援の拡充 ・ マイクロクレジットの拡充
4. 不慮の事態における脆弱性の回避	4-1 自然災害に対する対応能力の	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地震、洪水対策の強化
	4-2 急激な経済変化に対する対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 貯蓄率の向上 ・ 信用へのアクセス改善
5. 先住民族固有問題に関する制度、研	5-1 文化の継承	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統芸能等の継承支援 ・ 多文化、他民族の共生についての理解促進
	5-2 知的財産権の保護	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統医療の研究 ・ 知的財産権の保護法の整備
	5-3 人権、土地所有権等の法的整	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人権侵害のモニタリング強化 ・ 土地所有権の確立 ・ 強制移住の抑制
横断的課題		
A 持続可能な開発	A-1 自然環境保全	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土壌保全 ・ 森林保全 ・ 生物多様性の保全 ・ 水質保全
	A-2 社会関係資本の醸成、蓄積	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他組織とのネットワーク形成、強化
B ジェンダー格差の是正	B-1 社会的格差の是正	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育における格差の是正 ・ 健康に関する格差の是正 ・ 社会参加における格差の是正
	B-2 経済的格差の是正	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雇用機会の格差の是正 ・ 賃金格差の是正 ・ 信用へのアクセスの格差の是正
C 行政能力の強化	C-1 中央行政能力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政官の政策立案能力向上 ・ 統計整備、貧困マップの整備 ・ 財政の効率化
	C-2 地方行政能力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政官の政策立案能力向上 ・ 統計整備、貧困マップの整備 ・ 行政サービス組織、施設の改善 ・ 財政の効率化
D 貧困問題の研究強化	D-1 貧困対策の研究強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 貧困の定義とその測定方法の改善 ・ 貧困対策プロジェクトの評価 ・ 先住民族の開発問題の研究を応用
	D-2 対外協力の能力強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対外協力の実施スキームの拡充と開発

図5-1 開発課題体系図

出所：筆者

	初等教育への就学率の改善	識字教育の拡充	バイリンガル教育の拡充	離職者の教育向上	リプロダクティブヘルスサービスの拡充	基礎保健サービスの拡充 (PHCを含む)	公衆衛生知識の向上	電気の普及	上下道の整備	下水道、トイレの整備	道路の舗装と延長	生産技術の向上	生産基盤の整備	生産物流整備	物流管理システム構築	信用へのアクセスの改善	民芸品、工芸品の生産性の向上	職業訓練の拡充	観光資源開発 (エコツーリズム等)	生産物流基盤の整備	マーケティング能力の向上	起業支援の拡充	マイクロクレジットの拡充	信用へのアクセス改善	伝統医療の研究	知的財産権の保護法の整備	土地所有権の確立	環境政策の推進	エネルギー政策の推進	食料政策の推進	観光政策の推進	
初等教育への就学率の改善	■																															
識字教育の拡充		■																														
バイリンガル教育の拡充			■																													
離職者の教育向上				■																												
リプロダクティブヘルスサービスの拡充					■																											
基礎保健サービスの拡充 (PHCを含む)						■																										
公衆衛生知識の向上							■																									
電気の普及								■																								
上下道の整備									■																							
下水道、トイレの整備										■																						
道路の舗装と延長											■																					
生産技術の向上												■																				
生産基盤の整備													■																			
生産物流整備														■																		
物流管理システム構築															■																	
信用へのアクセスの改善																■																
民芸品、工芸品の生産性の向上																	■															
職業訓練の拡充																		■														
観光資源開発 (エコツーリズム等)																			■													
生産物流基盤の整備																				■												
マーケティング能力の向上																					■											
起業支援の拡充																						■										
マイクロクレジットの拡充																							■									
信用へのアクセス改善																								■								
伝統医療の研究																									■							
知的財産権の保護法の整備																										■						
土地所有権の確立																												■				

図5-2 開発課題ごとの相関図(試案)

出所：筆者

図5-2は、図5-1のサブ目標の課題を抜粋し作成したものである。例えば「識字教育の拡充」と「公衆衛生知識の向上」という課題には関連性があり、前者が後者に対して強い影響が有る場合は、上向きの矢印(↑)を入れる。もし双方が原因にも結果にもなる場合は双方向(↑↓)を入れる。また関係の強弱を矢印の太さ(↑)で表現する等、それぞれの課題の関係を検討する。そして他の課題との関連性が高いものや、ある課題の原因ともなりうるようなものについては、内包化や現状の対策や計画を考慮し、プロジェクト設計する。

第6章 開発課題の下に実施されるべき協力プログラム概要

協力対象地域は農村部のムニシピオやマイクロリージョンを単位とし、女性、先住民族を対象グループとして人的資源開発、所得の向上、生活の質の改善、脆弱性への対処等の課題を解決するために利用可能な援助資源(スキーム)をできるだけ多く長期間投入する。投入の成果の発現には時間がかかることが予想されるため最低でも5年程度は必要であると思われる。

多くの場合、対象地域は人口規模が小さく散在していることが想定される。裨益人口はできるだけ多いことが望ましいが、対象地域の人口規模が小さい場合、裨益人口を増加させるためには対象地域を広く設定せざるを得ず、投入が拡散してしまい効果の測定が困難になる。人口規模が小さく費用対効果を考慮する必要がある場合は、青年海外協力隊(チーム派遣を含む)や開発福祉支援事業(NGOの活用)によるプログラムやプロジェクトを設計する。

同時に貧困問題の研究協力を通じ他へのフィードバックの能力を向上させる。

プロジェクトの評価には、対象地域のマージナリティ指標を利用し、プロジェクト実施期間中に対象地域のカテゴリーを最低でも1ランク上げることをプロジェクトの目標値とする。ただし、マージナリティの測定に使用されている指標のみでは偏りがあるので保健指標等を取り入れた貧困指標を作成し、合わせて成果指標、目標値とする²⁹⁾。

プロジェクト(案)は、JOCVのチーム派遣としているが、このスキームが最適であるということではない。地域統合型プログラム(Integrated Rural Development)型の協力形態を想定しているので、メンバー構成はJOCVではなく各分野の専門家とすることも可能である。対象分野についても実際の状況に応じて柔軟に対応する必要がある。さらにプログラム・アプローチの専門家についても必ずしも企画調整業務担当のみではなく行政機関へポリシーレベルの協力を加えることは同プログラムの短所である上位計画との整合性の齟齬³⁰⁾を防止する意味でも有益である。

29)ここで検討しているプロジェクトは他の中南米諸国での応用が可能かと思われる。中南米諸国ではメキシコで使用されているマージナリティ指標のような合成指標で貧困や地域格差を測定していることが多いが、使用されている指標は各国まちまちである。他の中南米諸国での貧困対策や先住民族対策プロジェクトの統一的な評価のためには各国の合成指標に加えて、共通の合成指標等を開発し使用することが望ましい。

30)地域統合型プログラム型の支援形態ではしばしば現地でのサブ・プロジェクトや活動が上位計画と整合性がとれないことが指摘される。しかしながら、上位計画は必ずしも末端からのニーズを正確に反映しているわけではなく、どちらかというと一般的な課題と戦略を掲げているケースが多い。したがって反社会的な計画でないかぎり、まずは上位計画を疑ってみるべきである。また世銀の先住民族開発プロジェクトでは共同体発案のサブ・プロジェクトについては現地のニーズを優先し、必ずしも上位計画との整合性については求めている。

協力プロジェクト(案)

協力の方向性及び開発課題を検討し、協力プロジェクトの具体例として青年海外協力隊(JOCV)のOB、OGの協力を得て、貧困・格差の是正のプロジェクト(案)を以下のように作成した。

タイトル：先住民族貧困対策プロジェクト - JOCV チーム派遣 -

概要

・事前調査、評価：

社会学及び貧困対策の専門家を含む事前調査を実施し、対象地域、協力内容、評価内容を絞り込む。特に、投入 活動 成果 目標の経路メカニズムを明確にすること、外部条件の有無の確認と外部条件の内包化の検討は十分に行うことが必要である。

・プログラム・アプローチ：

先住民族支援の専門家あるいは企画調査員を派遣し以下に述べる各種活動のために関係省庁や現地 NGO との調整を図る。さらにプロジェクト全体に裨益するようなサブ・プロジェクト(開発福祉支援事業等)のコーディネーション、必要に応じて他の投入の検討や要請を行う。またプロジェクトのモニタリング、評価手法の研究開発、フィードバックの方法の検討を担当する。

・プロジェクト・アプローチ：

JOCV チーム派遣を中心的なプロジェクトとし、必要に応じて他のスキームの投入を検討する。

シニア隊員をチームリーダーとし、全体で5～7人程度のチーム編成とする。職種は対象地域のニーズに合わせて柔軟に対応する。

上位目標： 州の貧困緩和(プロジェクト対象地域の上位レベルの行政区等)

プロジェクト目標： 対象地域の生活が向上する(貧困緩和)

成果：

1. 対象地域の女性の地位が向上する
2. 対象地域の住民の収入が増加する
3. 対象地域の住民の保健・衛生状況が改善する
4. 対象地域の行政能力が向上する

活動：

- 1 - 1. 成人女性の識字率の向上
- 1 - 2. 女性グループの組織運営と強化

- 2 - 1. 市場のニーズに合致した農業生産の効率化
- 2 - 2. 畜産の改善
- 2 - 3. 手工芸品の製造と販売強化
- 3 - 1. 生活環境基盤の整備
- 3 - 2. 生活用水の確保
- 3 - 3. 基礎保健医療サービスの整備・強化
- 4 - 1. IT 導入による組織強化と他の活動の支援
- 4 - 2. IT 導入による行政能力、サービスの強化

活動：活動計画と工程(案)参照

* プロジェクト実施地域の前提条件として以下のような状況を設定した。

- ・ 対象地域：中南米某国の先住民族比率の高い農村部(単位は1 ムニシピオもしくは複数)
- ・ 対象地域の人口：2,000 ~ 3,000 人(1 ムニシピオ)
- ・ 対象地域の地理的条件：

州都から対象地域の中心地(Centro de Municipio)まで自動車で5時間(舗装道路は2時間)かかるムニシピオで、セントロの人口は約700人で、医師数名が常駐する有床の保健センターがある。ムニシピオ内には10か所ほどの大きな集落(人口100~500人)が、残りの人口は点在している。すべての小学校は住民の居住地から5km以内にある。

- ・ 対象地域の社会経済状況：

マージナリティが「非常に高い」ムニシピオで以下のような社会経済状況である。

農業従事者	90%	妊産婦死亡率	250(対10万出産)
貧困人口	70%	乳児死亡率	150(対1000万出生)
極貧人口	40%	妊産婦検診受診率	50%
先住民族人口	70%	専門家による介助出産率	20%
識字率	70%	5才以下の栄養失調発生率	50%
女性の識字率	50%	上水道普及率	30%
初等教育修了率	50%	下水道普及率	10%
女性の初等教育修了率	30%	電気の普及率	10%
合計特殊出生率	7.0	電話の普及率	1%以下

インディヘナ貧困対策プログラム 活動計画と工程(案)
 - JOCV チーム派遣の検討 -

ODA スキーム	担当職種	事前評価					1年目					2年目					3年目					4年目					5年目					目的	主な活動内容
		3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12				
調査団/JICA専門家	1 社会・人類学	■	■							■	■																			社会学(文化人類学)の視点にたった先住民に対する効果的なプログラムの策定を行う	・カンパート、受入機関調査 ・インディヘナ統計調査		
	2 貧困対策	■	■							■	■																			統計調査のとりまとめ、問題点を抽出し問題解決に向け、利用できる制度や阻害要因を除去するための具体策を検討する。	・マージナリティー指標調査 ・NGO/援助機関との連携調査		
	3 企画調整員(専門家)																													省庁やNGOとの調整を行い、本プロジェクトが円滑に進むために支援する。プロジェクト全体のモニタリングを行う。評価手法	・目標と活動計画の立案・策定 ・NGO/援助機関との連携調査 ・JOCV等の要請		
	4 評価(コンサルタント)																													プログラムによる効果の発現を明らかにするため、事前、中間および終了時評価を実施する	中間・終了時評価調査		
JOCV隊員 チーム/ グループ派遣	JOCV隊員要請・養成 チーム派遣特別機材費 現地業務費(毎月)	●	●	●	●	●	●	●	●																					隊員の活動を効果的に実施するための資機材を購入する。	特別機材費(約570万) 現地業務費(20万/月) ・手工芸品のための機材整備 ・医療や保健衛生機材の整備		
	1 村落開発普及員 /開発系 (シニア隊員)																													当該地域における現状(農業・畜産・教育・保健衛生)を把握し、隊員の活動による技術移転が効果的に図れるよう支援する。	・住民制のニーズ調査 ・JOCVチーム派遣の受入準備 ・JOCVチーム派遣のリーダー的役割 ・畜産等による収入改善の立案		
	2 村落開発普及員 /普及系・農業組織 (JOCV)																													協同組合活動を通して適正作物の栽培指導、多角的農業経営(食用作物・家畜等)、流通経路(保管・経路・販売先)を開発し農家の経営安定を図る。	・農協や自治体の活性化 ・販売流通ルートの改善 ・市場のニーズ調査 ・農作物の計画生産の立案		
	3 村落開発普及員 /普及系・生活改善 (JOCV)																													識字教育や生活の改善をNGO・他の組織や隊員とともに計画・実施し、女性の地位向上を図る。	・識字教室の開催補助 ・生活改善のための立案 ・畜産等による収入改善の立案 ・村おこし		
	4 野菜 (JOCV)																													経済的自立を図るために、農作物の収穫率向上を目指す活動を実施する。	・換金作物の開拓と試験栽培 ・害虫対策と農薬の使用方法 ・協賛農家による試験栽培 ・食生活・栄養面指導		
	5 保健師 (JOCV)																													衛生や疾病に対する一般的な基礎知識の普及を図る。	・女性や子供への検診補助 ・住民への家族計画・衛生指導 ・母子栄養指導 ・学校への巡回検診や衛生指導		
	6 家政 (JOCV)																													女性の自立を促すための具体的手段を指導する。	・現金収入を得るための発掘 ・手工芸品のデザイン改良 ・手工芸品の作成と販売 ・販売ルートの開拓		
7 システムエンジニア /開発系 (JOCV)																													対象地域の自治体、協同組合等の活動にコンピュータを導入し、あらゆる分野のデータ収集と分析に活用する。また、Internetを利用した手工芸品の販売ルートの発掘や本プログラムの外部への発信紹介を行う。	・自治体等でのパソコン指導・普及 ・電子データ化とその活用 ・手工芸品のInternet販売 ・情報収集とデータ分析 ・プログラムの外部への紹介			
草の根振償	施設建設計画	●	●	●	●	●	●	●	●																					各種のセミナーの実施や女性の活動の場を確保する。	・女性支援センター建設		
	機材整備計画																													生産物の販売のために使用する設備や資機材を整備する。	・農作物や穀物の保管倉庫建設 ・農業機材や車両の整備		
シニア海外ボランティア	シニア海外ボランティア	●	●	●	●	●	●	●	●																					(必要に応じて要請・派遣)			
開発福祉支援事業	井戸・灌漑整備計画	●	●	●	●	●	●	●	●																					地域・気候的な問題により水の確保が困難と考えられるため、日常生活や農作業に必要な不可欠な水の確保のための整備を行う	・井戸や貯水槽の増設/改修 ・農業用灌漑の整備		

付 属 資 料

資料 1 . 最低賃金 (州別、カテゴリー別、2000 年 2 月)

資料 2 . 最低賃金 (ペソ / 日)

資料 3 . マイクロリージョン (2002 年)

資料 4 . 貧困削減に対する主な援助 (1990 年以降、国際機関、二国間)

資料 5 . 参考文献

資料1 . 最低賃金（州別、カテゴリー別、2000年2月）

州	州の最低賃金と違うムニシピオ	地理区分			最低賃金 (ペソ)
		A	B	C	
Aguascalientes				○	981
Baja California Norte		○			1,137
Baja California Sur		○			1,137
Campeche				○	981
Coahuila				○	981
Colima				○	981
Chiapas				○	981
Chihuahua				○	981
	Guadalupe	○			1,137
	Juárez	○			1,137
	Praxedis G. Guerrero	○			1,137
Distrito Federal		○			1,137
Durango				○	981
Guanajuato				○	981
Guerrero				○	981
	Acapulco de Juárez	○			1,137
Hidalgo				○	981
Jalisco				○	981
	Guadalajara		○		1,053
	El Salto		○		1,053
	Tlajomulco de Zúñiga		○		1,053
	Tlaquepaque		○		1,053
	Tonalá		○		1,053
	Zapopan		○		1,053
Estado de México				○	981
	Atizapán de Zaragoza	○			1,137
	Coacalco de Berriozábal	○			1,137
	Cuautitlán	○			1,137
	Cuautitlan Izcalli	○			1,137
	Ecatepec de Morelos	○			1,137
	Naucalpan de Juárez	○			1,137
	Tlalnepantla de Baz	○			1,137
	Tultitlán	○			1,137
Michoacán				○	981
Morelos				○	981
Nayarit				○	981
Nuevo León				○	981
	Apodaca		○		1,053
	San Pedro Garza García		○		1,053
	General Escobedo		○		1,053
	Guadalupe		○		1,053
	Monterrey		○		1,053
	San Nicolás de los Garza		○		1,053

州	州の最低賃金と違うムニシピオ	地理区分			最低賃金 (ペソ)
		A	B	C	
	Santa Catarina		○		1,053
Oaxaca				○	981
Puebla				○	981
Querétaro				○	981
Quintana Roo				○	981
San Luis Potosí				○	981
Sinaloa				○	981
Sonora				○	981
	Agua Prieta	○			1,137
	Cananea	○			1,137
	Naco	○			1,137
	Nogales	○			1,137
	General Plutarco Elías Calles	○			1,137
	Puerto Peñasco	○			1,137
	San Luis Río Colorado	○			1,137
	Santa Cruz	○			1,137
	Altar		○		1,053
	Atil		○		1,053
	Bácum		○		1,053
	Benito Juárez		○		1,053
	Benjamín Hill		○		1,053
	Caborca		○		1,053
	Cajeme		○		1,053
	Carbó		○		1,053
	La Colorada		○		1,053
	Cucurpe		○		1,053
	Empalme		○		1,053
	Etchojoa		○		1,053
	Guaymas		○		1,053
	Hermosillo		○		1,053
	Huatabampo		○		1,053
	Imuris		○		1,053
	Magdalena		○		1,053
	Navojoa		○		1,053
	Opodepe		○		1,053
	Oquitoa		○		1,053
	Pitiquito		○		1,053
	San Ignacio Río Muerto		○		1,053
	San Miguel de Horcasitas		○		1,053
	Santa Ana		○		1,053
	Sáric		○		1,053
	Suaqui Grande		○		1,053
	Trincheras		○		1,053

州	州の最低賃金と違うムニシピオ	地理区分			最低賃金 (ペソ)
		A	B	C	
	Tubutama		○		1,053
Tabasco				○	981
Tamaulipas				○	981
	Camargo	○			1,137
	Guerrero	○			1,137
	Gustavo Díaz Ordaz	○			1,137
	Matamoros	○			1,137
	Mier	○			1,137
	Miguel Alemán	○			1,137
	Nuevo Laredo	○			1,137
	Reynosa	○			1,137
	Río Bravo	○			1,137
	San Fernando	○			1,137
	Valle Hermoso	○			1,137
	Aldama		○		1,053
	Altamira		○		1,053
	Antiguo Morelos		○		1,053
	Ciudad Madero		○		1,053
	Gómez Farías		○		1,053
	González		○		1,053
	El Mante		○		1,053
	Nuevo Morelos		○		1,053
	Ocampo		○		1,053
	Tampico		○		1,053
	Xicotencatl		○		1,053
Tlaxcala				○	981
Veracruz				○	981
	Agua Dulce	○			1,137
	Coatzacoalcos	○			1,137
	Cosoleacaque	○			1,137
	Las Choapas	○			1,137
	Ixhuatlán del Sureste	○			1,137
	Minatitlán	○			1,137
	Moloacán	○			1,137
	Cárdenas del Río	○			1,137
	Coatzintla		○		1,053
	Poza Rica de Hidalgo		○		1,053
	Túxpam		○		1,053
Yucatán				○	981
Zacatecas				○	981

出典：XII Censo General de Población y Vivienda 2000

資料2 . 最低賃金 (ペソ/日)

最低賃金 (ペソ/日)

摘要開始年月日	全国平均	地理区分		
		A	B	C
1987年1月1日	2.7608	3.0500	2.8200	2.5350
1987年4月1日	3.3148	3.6600	3.3850	3.0450
1987年7月1日	4.0801	4.5000	4.1650	3.7500
1987年10月1日	5.1020	5.6250	5.2100	4.6900
1987年12月16日	5.8672	6.4700	5.9900	5.3950
1988年1月1日	7.0407	7.7650	7.1900	6.4750
1988年3月1日	7.2529	8.0000	7.4050	6.6700
1989年1月1日	7.8337	8.6400	7.9950	7.2050
1989年7月1日	8.3060	9.1600	8.4750	7.6400
1989年12月4日	9.1389	10.0800	9.3250	8.4050
1990年11月16日	10.7866	11.9000	11.0000	9.9200
1991年11月11日	12.0840	13.3300	12.3200	11.1150
1993年1月1日	13.0600	14.2700	13.2600	12.0500
1994年1月1日	13.9700	15.2700	14.1900	12.8900
1995年1月1日	14.9500	16.3400	15.1800	13.7900
1995年4月1日	16.7400	18.3000	17.0000	15.4400
1995年12月4日	18.4300	20.1500	18.7000	17.0000
1996年4月1日	20.6600	22.6000	20.9500	19.0500
1996年12月3日	24.3000	26.4500	24.5000	22.5000
1998年1月1日	27.9900	30.2000	28.0000	26.0500
1998年12月3日	31.9100	34.4500	31.9000	29.7000
2000年1月1日	35.1200	37.9000	35.1000	32.7000
2001年1月1日	37.5700	40.3500	37.9500	35.8500
2002年1月1日	39.7400	42.1500	40.1000	38.3000

出典：Informe Annual 2001, Banco de Mexico

資料 3 . マイクロリージョン(2002年)

州	No.	マイクロリージョン名	ムニシピオ	CEC
Aguascalientes	1	El Llano	El Llano	
	2	Asientos	Asientos	
Baja California	3	Mexicali	Mexicali	
	4	Ensenada	Ensenada	
Baja California	5	Comondú	Comondú	
	6	Mulegé	Mulegé	
Campeche	7	Calakmul	Calakmul	
	8	Candelaria	Candelaria	
	9	Maya-Chenes	Hopelchén	
	10	Maya-Camino Real	Calkiní	
			Hecelchakán	
			Tenabo	
	11	Sur	Escárcega	
		Palizada		
Coahuila	12	Norte	Jiménez	
	13	Carbonifera	Juárez	
	14	Centro - Desierto	Candela	
			Ocampo	
	15	Laguna	Viesca	
16	Sureste	General Cepeda		
Colima	17	Ixtlahuacan	Ixtlahuacan	
Chiapas	18	Microrregión 1	Coapilla	
			Copainalá	
			Ocotepec	
			Tecpatán	
	19	Microrregión 2	Acala	
			Chiapilla	
			Totolapa	
			Venustiano Carranza	
			San Lucas	
	20	Microrregión 3	Berriozábal	
			Cintalapa	
			Jiquipilas	
			Ocozacoautla de Espinosa	
	21	Microrregión 4	Chiapa de Corzo	
			Suchiapa	
	22	Microrregión 5	Chicoasén	
			Osumacinta	
			San Fernando	
	23	Microrregión 6	Ixtapa	
			Soyaló	
			Bochil	
	24	Microrregión 7	Teopisca	
			Tenejapa	
			Huixtán	
			Oxchuc	
			Zinacantán	
			Amatenango del Valle	
		Pantelhó		
		Chenalhó		
		Chanal		
		Larráinzar		
		Chamula		
		Chalchihuitán		
		Mitontic		
		Altamirano		
		San Juan Cancuc		
		Aldama		
		Santiago el Pinar		
25	Microrregión 8	Chicomuselo		
		Frontera Comalapa		
		La Trinitaria		
26	Microrregión 9	La Independencia		
		Las Margaritas		
		Maravillas Tenejapa		
27	Microrregión 10	Socoltenango		
		Tzimol		

州	No.	マイクロリージョン名	ムニシピオ	CEC
			Las Rosas	
	28	Microrregión 11	Villaflores	
			Villa Corzo	
	29	Microrregión 12	La Concordia	
			Angel Albino Corzo	
			Monte Cristo de Guerrero	
	30	Microrregión 13	Ixhuitán	
			Jitotol	
			Rayón	
			Solosuchiapa	
			Tapalapa	
			Tapilula	
			Pueblo Nuevo Solistahuacán	
			Pantepec	
	31	Microrregión 14	Amatán	
			Ixtacomitán	
			Ixtapangajoya	
			Juárez	
			Ostuacán	
			Pichualco	
			Sunuapa	
			Francisco León	
	32	Microrregión 15	El Bosque	
			Chapultenango	
			Huitiupán	
			San Andres Duraznal	
			Simojovel	
	33	Microrregión 16	Catazajá	
			La Libertad	
			Palenque	
			Salto de Agua	
	34	Microrregión 17	Chilón	
			Sabanilla	
			Sitalá	
			Tila	
			Tumbalá	
			Yajalón	
	35	Microrregión 18	Ocosingo	
	36	Microrregión 19	Benemérito de las Américas	
			Marqués de Comillas	
	37	Microrregión 20	Amatenango de la Frontera	
			Motozintla	
			Mazapa de Madero	
			La Grandeza	
			Bella Vista	
			El Porvenir	
			Siltepec	
			Bejuca de Ocampo	
	38	Microrregión 21	Cacahoatán	
			Frontera Hidalgo	
			Metapa	
			Suchiate	
			Unión Juárez	
			Tuxtla Chico	
	39	Microrregión 22	Huehuetán	
			Mazatán	
			Tuzantán	
	40	Microrregión 23	Acacoyagua	
			Acapetahua	
			Escuintla	
			Villa Comaltitlán	
			Mapastepec	
	41	Microrregión 24	Pijijiapan	
Chihuahua	42	Microrregión 1	Morelos	
			Batopilas	
			Urique	
	43	Microrregión 2	Guadalupe y Calvo	
			Guachochi	
			Balleza	

州	No.	マイクロリージョン名	ムニシピオ	CEC		
	44	Microrregión 3	Chínipas Guazapares Uruachi			
	45	Microrregión 4	Bocoyna Maguarichi			
	46	Microrregión 5	Nonoava Carichi			
	47	Microrregión 6	Ocampo Moris Temósachi			
	Durango	48	Quebradas 1	Tamazula San Dimas		
		49	Quebradas 2	Canelas Otáez Topia Guanaceví Tepehuanes		
		50	Indígena Sur	Mezquital		
		51	Semidesierto 1	San Juan de Guadalupe		
		Estado de Méxic	52	Microrregión I	Aculco Acambay Temascalcingo	
			53	Microrregión II	Chapa de Mota Villa del Carbón Ixtlahuaca Jiquipilco Temoaya Morelos	
			54	Microrregión III	Almoloya de Juárez Amanalco Donato Guerra Ixtapan del Oro Otzoloapan San Felipe del Progreso San José del Rincón Santo Tomás Villa de Allende Villa Victoria	
	55		Microrregión IV	Amatepec Luvianos Tlatlaya Tejupilco San Simón de Guerrero Temascaltepec		
56	Microrregión V		Sultepec Zacualpan Texcaltitlan Coatepec Harinas Almoloya de Alquisiras			
57	Microrregión VI		Zumpahuacan			
58	Microrregión VII		Ocuilan			
Guanajuato	59		Noreste	Xichú Santa Catarina Tierra Blanca Victoria Atarjea Doctor Mora		
	60		Norte	Ocampo San Diego de la Unión San Felipe		
	61		Sur	Jerécuaro Coroneo		
	Guerrero		62	Tierra Caliente	Ajuchitlan del Pogreso Arecelia	

州	No.	マイクロリージョン名	ムニシピオ	CEC
			Coyuca de catalán	
			Cutzamala de Pinzón	
			San Miguel Totolapan	
			Tlachalpa	
			Tlapehuala	
			Zirándaro de los Chávez	
	63	Norte	Apaxtla de Castrejón	
			Atenango del Río	
			Cocula	
			Copalillo	
			Cuetzala del Progreso	
			Gral. Canuto A. Neri	
			Huitzuc de los Figueroa	
			Ixcateopan de Cuauhtémoc	
			Pedro Asencio de Alquisiras	
			Pilcaya	
			Teloloapan	
			Tepecoacuilco	
			Tetipac	
	64	Centro	Ahuacuotzingo	
			Chilapa de Alvaréz	
			Gral. Heliodoro Castillo	
			Juan R. Escudero	
			Zitlala	
			Eduardo Neri	
			Martir de Cuilapan	
			Quechultenango	
			Mochitlán	
			Leonardo Bravo	
	65	Montaña	Alcozauca	
			Alpoyeca	
			Altamajalcingo del monte	
			Atlixac	
			Copanatoyac	
			Cualac	
			Huamuxtitlán	
			Malinaltepec	
			Metlatonoc	
			Olinalá	
			Tlacoapa	
			Tlalixtaquilla de Maldonado	
			Tlapa de Comonfort	
			Xalpatlahuac	
			Xochihuehuetlán	
			Zapotitlán Tablas	
			Acatepec	
	66	Costa Grande	Atoyac de Alvarez	
			Coahuayutla de J. Ma. Izazaga	
			Coyuca de Benítez	
			Petatlán	
			Tecpan	
			Unión de Isidro Montes de Oca	
	67	Costa Chica	Ayutla de los Libres	
			Azoyu	
			Copala	
			Cuajinicuilapa	
			Cuatepec	
			Florencio Villarreal	
			Igualapa	
			Ometepec	
			San Luis Acatlán	
			San Marcos	
			Tecoanapa	
			Tlacoachistlahuaca	
			Xochistlahuaca	
Hidalgo	68	Atotonilco El Grande	Acatlán	
			Huasca de Ocampo	
			Mineral del Chico	
	69	Tulancingo	Singuilucan	

州	No.	マイクロリージョン名	ムニシピオ	CEC	
	70	Huichapan	Chapantongo		
			Nopala		
			Tecoautla		
	71	Zimapan	Nicolas Flores		
			Pacula		
	72	Jacala	Chapulhuacan		
			Jacala		
			La Misión		
			Pisaflores		
	73	Ixmiquilpan	Alfajayucan		
			Cardonal		
			Chilcuatla		
			Ixmiquilpan		
	74	Actopan	Santiago de Anaya		
	75	Metztitlan	Eloxochitlan		
			Juárez Hidalgo		
			Metztitlan		
			Tlahuiltepa		
	76	Zacualtipan	Tianguistengo		
			Xochicoatlan		
	77	Molango	Calnali		
			Huazalingo		
			Lolotla		
			Molango		
			Tepehuacan de Guerrero		
			Tlanchinol		
	78	Huejutla	Atlapexco		
			Huautla		
			Huejutla		
			Jaltocan		
			San Felipe Orizatlan		
			Xochiatipan		
			Yahualica		
	79	Tenango de Doria	Acaxochitlan		
			Agua Blanca		
			Huhuetla		
			Metepc		
			San Bartolo Tutotepec		
			Tenango de Doria		
	Jalisco	80	Microrregión Norte	Bolaños	
				Chimaltitlan	
				Huejuquilla El Alto	
				Mezquitic	
				Villa Guerrero	
		81	Microrregión Sureste	Jilotlán de los Dolores	
				Manuel M. Dieguez (Sta. María del Oro)	
				Quitupan	
82		Microrregión Sur	Atemajac de Brizuela		
			Tolimán		
			Zapotitlán de Vadillo		
83		Microrregión Sierra de Amula	Atengo		
			Chiquilistlán		
			Tuxcacuesco		
84		Microrregión Costa Sur	Cuautitlán		
		Villa Purificación			
85	Microrregión Costa Norte	Cabo Corrientes			
86	Microrregión Sierra Occidental	San Sebastián del Oeste			
87	Microrregión Centro	Cuquío			
		San Cristóbal de la Barranca			
Michoacán	88	Aquila	Aquila		
	89	Susupuato	Susupuato		
	90	Tierra Caliente 1	Nocupétaro		
			Tiquicheo		
			Tzitzio		
	91	Tierra Caliente 2	Churumuco		
			Tumbiscatío		
92	Sierra Madre Occidental	Arteaga			

州	No.	マイクロリージョン名	ムニシピオ	CEC
			Aguililla	
			Coacomán	
			Chinicuilá	
	93	Tierra Caliente 3	Carácuaro	
			Huetamo	
			La Huacana	
			Madero	
			Nuevo Urecho	
			Parácuaro	
			San Lucas	
			Turicato	
			Tuzantla	
	94	Oriente	Aporo	
			Contepec	
			Epitacio Huerta	
			Irimbo	
			Maravatío	
			Tlalpujahua	
	95	Meseta Purhépecha	Charapan	
			Chilchota	
			Nahuatzen	
			Tancítaro	
	96	Lago de Cuitzeo	Copándaro	
			Chucándiro	
	97	Mariposa Monarca	Jungapeo	
			Ocampo	
			Senguio	
Morelos	98	Microrregión Ocuítuco	Ocuítuco	
	99	Microrregión Tlanepantla	Tlanepantla	
	100	Microrregión Temoac	Temoac	
Nayarit	101	El Nayar	El Nayar	
	102	Huajicori	Huajicori	
	103	La Yesca	La Yesca	
Nuevo León	104	Sur Poniente	Aramberri	
			Doctor Arroyo	
			General Zaragoza	
			Iturbide	
			Mier y Noriega	
			Rayones	
Oaxaca	105	OAXACA	SAN ANDRES IXTLAHUACA	
			SAN PEDRO IXTLAHUACA	
			SANTO DOMINGO TOMALTEPEC	
	106	EJUTLA	HEROICA CIUDAD DE EJUTLA DE CRESPO	
			COATECAS ALTAS	
			LA COMPAÑIA	
			LA PE	
			SAN AGUSTIN AMATENGO	
			SAN ANDRES ZABACHE	
			SAN JUAN LACHIGALLA	
			SAN MARTIN DE LOS CANSECOS	
			SAN MARTIN LACHILA	
			SAN MIGUEL EJUTLA	
			SAN VICENTE COATLAN	
			TANICHE	
			YOGANA	
	107	ETLA	SAN FELIPE TEJALAPAM	
			SANTA MARIA PEÑOLES	
			SANTIAGO TLAZOYALTEPEC	
			SANTO TOMAS MAZALTEPEC	
	108	HUITZO	ABEJONES	
			SAN JUAN BAUTISTA JAYACATLAN	
			SAN JUAN DEL ESTADO	
			SAN MIGUEL ALOAPAM	
			SANTA ANA YARENI	
			TECOCUILCO DE MARCOS PEREZ	
	109	TELIXTLAHUACA	SAN JERONIMO SOSOLA	
			SAN JUAN BAUTISTA ATATLAHUCA	
			SANTIAGO NACALTEPEC	
			SANTIAGO TENANGO	

州	No.	マイクロリージョン名	ムニシピオ	CEC
	110	OCOTLAN	ASUNCION OCOTLAN	
			MAGDALENA OCOTLAN	
			SAN JOSE DEL PROGRESO	
			SAN ANTONINO CASTILLO VELASCO	
			SAN BALTAZAR CHICHICAPAM	
			SAN JERONIMO TAVICHE	
			SAN MARTIN TILCAJETE	
			SAN MIGUEL TILQUIAPAM	
			SAN PEDRO APOSTOL	
			SAN PEDRO MARTIR	
			SAN PEDRO TAVICHE	
			SANTA ANA ZEGACHE	
			SANTA CATARINA MINAS	
			SANTA LUCIA OCOTLAN	
			SANTIAGO APOSTOL	
			SANTO TOMAS JALIEZA	
			YAXE	
	111	TLACOLULA	MAGDALENA TEITIPAC	
			SAN BARTOLOME QUIALANA	
			SAN DIONISIO OCOTEPEC	
			SAN JUAN GUELAVIA	
			SAN LUCAS QUIAVINI	
			SANTA ANA DEL VALLE	
			SANTIAGO MATATLAN	
			TEOTITLAN DEL VALLE	
			VILLA DIAZ ORDAZ	
	112	MITLA	SAN PABLO VILLA DE MITLA	
			SAN JUAN DEL RIO	
			SAN LORENZO ALBARRADAS	
			SANTO DOMINGO ALBARRADAS	
	113	TLACOCHAHUAYA	SAN JERONIMO TLACOCHAHUAYA	
			SAN JUAN TEITIPAC	
			SAN SEBASTIAN ABASOLO	
			SAN SEBASTIAN TEITIPAC	
			SANTA CRUZ PAPALUTLA	
	114	TOTOLAPA	SAN PEDRO TOTOLAPA	
			SAN PEDRO QUIATONI	
			SANTA MARIA ZOQUITLAN	
	115	ZAACHILA	SAN ANTONIO HUITEPEC	
			SAN MIGUEL PERAS	
			SAN PABLO CUATRO VENADOS	
			SANTA INES DEL MONTE	
			TRINIDAD ZAACHILA	
	116	ZIMATLAN	MAGDALENA MIXTEPEC	
			SAN ANTONINO EL ALTO	
			SAN BERNARDO MIXTEPEC	
			SANTA GERTRUDIS	
			SANTA INES YATZECHE	
	117	AYOQUEZCO	AYOQUEZCO DE ALDAMA	
			SAN MIGUEL MIXTEPEC	
			SANTA ANA TLAPACOYAN	
			SANTA CRUZ MIXTEPEC	
	118	IXTLAN	IXTLAN DE JUAREZ	
			SAN JUAN ATEPEC	
			SAN JUAN CHICOMEZUCHIL	
			SAN JUAN EVANGELISTA ANALCO	
			SAN JUAN QUIOTEPEC	
			SAN MIGUEL DEL RIO	
			SAN MIGUEL YOTAO	
			SAN PABLO MACULTIANGUIS	
			SAN PEDRO YANERI	
			SAN PEDRO YOLOX	
			SANTA CATARINA IXTEPEJI	
			SANTA CATARINA LACHATAO	
			SANTA MARIA JALTIANGUIS	
			SANTIAGO COMALTEPEC	
			NUEVO ZOQUIAPAM	
	119	VILLA ALTA	SAN ILDEFONSO VILLA ALTA	
			SAN ANDRES SOLAGA	

州	No.	マイクロリージョン名	ムニシピオ	CEC
			SAN ANDRES YAA	
			SAN CRISTOBAL LACHIRIOAG	
			SAN JUAN JUQUILA VIANOS	
			SAN JUAN TABAA	
			SAN JUAN YAEE	
			SAN JUAN YATZONA	
			VILLA TALEA DE CASTRO	
			SANTA MARIA TEMAXCALAPA	
			SANTIAGO CAMOTLAN	
			SANTIAGO LALOPA	
			SANTO DOMINGO ROAYAGA	
			TANETZE DE ZARAGOZA	
	120	YALALAG	VILLA HIDALGO	
			SAN BALTAZAR YATZACHI EL BAJO	
			SAN BARTOLOME ZOOGOCHO	
			SAN FRANCISCO CAJONOS	
			SAN MATEO CAJONOS	
			SAN MELCHOR BETAZA	
			SAN PABLO YAGANIZA	
			SAN PEDRO CAJONOS	
			SANTA MARIA YALINA	
			SANTIAGO LAXOPA	
			SANTIAGO ZOOCHILA	
			SANTO DOMINGO XAGACIA	
	121	SANTIAGO ZACATEPEC	SANTIAGO ZACATEPEC	
			SANTA MARIA ALOTEPEC	
			SANTA MARIA MIXISTLAN	
			SANTA MARIA TLAHUITOLTEPEC	
			SANTIAGO ATITLAN	
			TOTONTEPEC VILLA DE MORELOS	
	122	AYUTLA	SAN PEDRO Y SAN PABLO AYUTLA	
			ASUNCION CACALOTEPEC	
			TAMAZULAPAM DEL ESPIRITU SANTO	
			SAN JUAN JUQUILA MIXES	
			SAN LUCAS CAMOTLAN	
			SAN MIGUEL QUETZALTEPEC	
			SAN PEDRO OCOTEPEC	
			SANTA MARIA TEPANTLALI	
			SANTIAGO IXCUINTEPEC	
			SANTO DOMINGO TEPUXTEPEC	
	123	CHOAPAM	SANTIAGO CHOAPAM	
			SAN JUAN COMALTEPEC	
			SAN JUAN LALANA	
			SAN JUAN PETLAPA	
			SANTIAGO JOCOTEPEC	
	124	COTZOCON	SAN JUAN COTZOCON (MARIA LOMBARDO DE CASO)	
			SANTIAGO YAVEO	
	125	TUXTEPEC	AYOTZINTEPEC	
			SAN JOSE CHILTEPEC	
	126	COSOLAPA	COSOLAPA	
			ACATLAN DE PEREZ FIGUEROA	
	127	VALLE NACIONAL	SAN JUAN BAUTISTA VALLE NACIONAL	
			SANTA MARIA JACATEPEC	
	128	JALAPA DE DIAZ	SAN FELIPE JALAPA DE DIAZ	
			SAN FELIPE USILA	
			SAN LUCAS OJITLAN	
			SAN PEDRO IXCATLAN	
	129	SOYALTEPEC	SAN MIGUEL SOYALTEPEC (TEMAZCAL)	
			SAN JOSE INDEPENDENCIA	
	130	JUCHITAN	JUCHITAN DE ZARAGOZA	
			EL ESPINAL	
			SANTA MARIA XADANI	
			SANTIAGO NILTEPEC	
			UNION HIDALGO	
	131	IXTEPEC	ASUNCION IXTALTEPEC	
	132	MATIAS ROMERO	SANTA MARIA PETAPA	
			SANTO DOMINGO PETAPA	
	133	GUICHICOVI	SAN JUAN GUICHICOVI	
			SAN JUAN MAZATLAN	

州	No.	マイクロリージョン名	ムニシピオ	CEC
	134	TAPANATEPEC	SAN PEDRO TAPANATEPEC	
			SAN FRANCISCO IXHUATAN	
			SANTO DOMINGO ZANATEPEC	
	135	SAN DIONISIO DEL MAR	SAN DIONISIO DEL MAR	
			SAN FRANCISCO DEL MAR	
			SAN MATEO DEL MAR	
	136	CHIMALAPA	SAN MIGUEL CHIMALAPA	
			SANTA MARIA CHIMALAPA	
	137	TEHUANTEPEC	SAN BLAS ATEMPA	
			SAN MIGUEL TENANGO	
			SAN PEDRO HUAMELULA	
			SANTIAGO ASTATA	
	138	SALINA CRUZ	SAN PEDRO HUILOTEPEC	
	139	JALAPA DEL MARQUEZ	ASUNCION TLACOLULITA	
			MAGDALENA TEQUISISTLAN	
			SANTA MARIA TOTOLAPILLA	
			SANTIAGO LACHIGUIRI	
	140	LAOLLAGA	GUEVEA DE HUMBOLDT	
			MAGDALENA TLACOTEPEC	
			SAN PEDRO COMITANCILLO	
			SANTA MARIA GUIENAGATI	
	141	CUICATLAN	SAN JUAN BAUTISTA CUICATLAN	
			CONCEPCION PAPALO	
			SAN JUAN TEPEUXILA	
			SAN PEDRO JALTEPETONGO	
			SAN PEDRO JOCOTIPAC	
			SAN PEDRO SOCHIAPAM	
			SANTA MARIA PAPALO	
			SANTA MARIA TEXCATITLAN	
			SANTOS REYES PAPALO	
			VALERIO TRUJANO	
	142	CHIQUIHUITLAN	CHIQUIHUITLAN DE BENITO JUAREZ	
			CUYAMECALCO VILLA DE ZARAGOZA	
			SAN ANDRES TEOTILALPAM	
			SAN FRANCISCO CHAPULAPA	
			SAN JUAN BAUTISTA TLACOATZINTEPEC	
			SAN MIGUEL SANTA FLOR	
			SAN PEDRO TEUTILA	
			SANTA ANA CUAUHTEMOC	
			SANTA MARIA TLALIXTAC	
	143	TEOTITLAN	SAN FRANCISCO HUEHUETLAN	
			SAN JUAN DE LOS CUES	
			SAN MARTIN TOXPALAN	
			SANTA MARIA TEOPOXCO	
			SANTIAGO TEXCALCINGO	
	144	HUAUTLA	HUAUTLA DE JIMENEZ	
			HUAUTEPEC	
			MAZATLAN VILLA DE FLORES	
			SAN BARTOLOME AYAUTLA	
			SAN JOSE TENANGO	
			SAN JUAN COATZOSPAM	
			SANTA MARIA LA ASUNCION	
	145	ELOXOCHITLAN	SAN MATEO YOLOXOCHITLAN	
			ELOXOCHITLAN DE FLORES MAGON	
			SAN JERONIMO TECOATL	
			SAN LORENZO CUAUNECUILTITLA	
			SAN LUCAS ZOQUIAPAM	
			SAN PEDRO OCOPETATILLO	
			SANTA ANA ATEIXTLAHUACA	
			SANTA CRUZ ACATEPEC	
			SANTA MARIA CHILCHOTLA	
	146	COIXTLAHUACA	SAN JUAN BAUTISTA COIXTLAHUACA	
			CONCEPCION BUENAVISTA	
			SAN FRANCISCO TEOPAN	
			SAN MATEO TLAPILTEPEC	
			SAN MIGUEL TEQUIXTEPEC	
			SAN MIGUEL TULANCINGO	
			SANTA MARIA IXCATLAN	
			SANTA MARIA NATIVITAS	

州	No.	マイクロリージョン名	ムニシピオ	CEC
			SANTIAGO IHUITLAN PLUMAS	
			SANTIAGO TEPETLAPA	
			TEPELME MEME VILLA DE MORELOS	
			TLACOTEPEC PLUMAS	
	147	JUXTLAHUACA	SANTIAGO JUXTLAHUACA	
			SAN JUAN MIXTEPEC	
			SAN MIGUEL TLACOTEPEC	
			SANTOS REYES TEPEJILLO	
	148	TECOMAXTLAHUACA	SAN SEBASTIAN TECOMAXTLAHUACA	
			COICOYAN DE LAS FLORES	
			SAN MARTIN PERAS	
	149	HUAJUAPAN DE LEON	SAN JERONIMO SILACAYOAPILLA	
			SAN JORGE NUCHITA	
			SAN SIMON ZAHUATLAN	
			SANTA MARIA CAMOTLAN	
			SANTO DOMINGO TONALA	
			ZAPOTITLAN PALMAS	
	150	CHAZUMBA	ASUNCION CUYOTEPEJI	
			SAN JUAN BAUTISTA SUCHITEPEC	
			SAN PEDRO Y SAN PABLO TEQUIXTEPEC	
			SANTA CATARINA ZAPOQUILA	
			SANTIAGO MILTEPEC	
	151	MARISCALA	MARISCALA DE JUAREZ	
			FRESNILLO DE TRUJANO	
			SAN JOSE AYUQUILA	
			SAN MARTIN ZACATEPEC	
			SAN MIGUEL AMATITLAN	
			SANTIAGO AYUQUILILLA	
			SANTOS REYES YUCUNA	
	152	TEZOATLAN	TEZOATLAN DE SEGURA Y LUNA	
			SAN ANDRES DINICUITI	
			SANTIAGO CACALOXTEPEC	
			SANTO DOMINGO YODOHINO	
	153	NOCHIXTLAN	MAGDALENA JALTEPEC	
			MAGDALENA ZAHUATLAN	
			SAN ANDRES NUXIÑO	
			SAN BARTOLO SOYALTEPEC	
			SAN JUAN TAMAZOLA	
			SAN MATEO ETLATONGO	
			SAN MIGUEL CHICAHUA	
			SAN MIGUEL HUAUTLA	
			SAN PEDRO COXCALTEPEC CANTAROS	
			SAN PEDRO TIDAA	
			SANTA INES DE ZARAGOZA	
			SANTA MARIA APAZCO	
			SANTIAGO APOALA	
			SANTIAGO HUAUCLILLA	
			SANTIAGO TILANTONGO	
			SANTO DOMINGO NUXAA	
			SANTO DOMINGO TLATAYAPAN	
			MAGDALENA YODOCONO DE PORFIRIO DIAZ	
	154	SILACAYOAPAN	SILACAYOAPAM	
			CALIHUALA	
			IXPANTEPEC NIEVES	
			SAN AGUSTIN ATENANGO	
			SAN FRANCISCO TLAPANCINGO	
			SAN JUAN BAUTISTA TLACHICHILCO	
			SANTIAGO DEL RIO	
	155	TAMAZOLA	SANTIAGO TAMAZOLA	
			SAN ANDRES TEPETLAPA	
			SAN JUAN CIENEGUILLA	
			SAN JUAN IHUALTEPEC	
			SAN LORENZO VICTORIA	
			SAN MATEO NEJAPAM	
			SAN MIGUEL AHUEHUETITLAN	
			SAN NICOLAS HIDALGO	
			SANTA CRUZ DE BRAVO	
			SANTIAGO YUCUYACHI	
			ZAPOTITLAN LAGUNAS	

州	No.	マイクロリージョン名	ムニシピオ	CEC
	156	TEPOSCOLULA	SAN ANTONIO ACUTLA	
			SAN ANTONINO MONTE VERDE	
			SAN JUAN TEPOSCOLULA	
			SAN PEDRO NOPALA	
			SAN PEDRO TOPILTEPEC	
			SAN SEBASTIAN NICANANDUTA	
			SAN VICENTE NUÑU	
			VILLA DE CHILAPA DE DIAZ	
			SANTA MARIA NDUAYACO	
			SANTIAGO NEJAPILLA	
			TEOTONGO	
			VILLA TEJUPAM DE LA UNION	
			SANTO DOMINGO TONALTEPEC	
			LA TRINIDAD VISTA HERMOSA	
	157	TLAXIACO	MAGDALENA PEÑASCO	
			SAN ANTONIO SINICAHUA	
			SAN CRISTOBAL AMOLTEPEC	
			SAN JUAN ÑUMI	
			SAN MARTIN ITUNYOSO	
			SAN PEDRO MARTIR YUCUXACO	
			SANTA CRUZ NUNDACO	
			SANTA MARIA DEL ROSARIO	
			SANTA MARIA YUCUHITI	
			SANTIAGO NUNDICHE	
			SANTIAGO NUYOO	
			SANTO TOMAS OCOTEPEC	
	158	ACHIUTLA	SAN MIGUEL ACHIUTLA	
			SAN AGUSTIN TLACOTEPEC	
			SAN BARTOLOME YUCUAÑE	
			SAN JUAN DIUXI	
			SAN JUAN TEITA	
			SAN MATEO PEÑASCO	
			SAN MATEO SINDIHUI	
			SAN MIGUEL PIEDRAS	
			SAN PEDRO TEOZACOALCO	
			SANTA CATARINA TAYATA	
			SANTA MARIA TATALTEPEC	
			SANTA MARIA YOSOYUA	
			YUTANDUCHI DE GUERRERO	
			SANTA CRUZ TAYATA	
	159	SAN MIGUEL EL GRANDE	SAN MIGUEL EL GRANDE	
			CHALCATONGO DE HIDALGO	
			SAN ANDRES CABECERA NUEVA	
			SAN ESTEBAN ATATLAHUCA	
			SAN PABLO TIJALTEPEC	
			SAN PEDRO MOLINOS	
			SANTA CATARINA TICUA	
			SANTA CATARINA YOSONOTU	
			SANTA CRUZ TACAHUA	
			SANTA LUCIA MONTEVERDE	
			SANTA MARIA YOLOTEPEC	
			SANTIAGO YOSONDUA	
			SANTO DOMINGO IXCATLAN	
	160	MIAHUATLAN	MIAHUATLAN DE PORFIRIO DIAZ	
			MONJAS	
			SAN ANDRES PAXTLAN	
			SAN CRISTOBAL AMATLAN	
			SAN FRANCISCO LOGUECHE	
			SAN ILDEFONSO AMATLAN	
			SAN JOSE LACHIGUIRI	
			SAN JOSE DEL PEÑASCO	
			SAN LUIS AMATLAN	
			SAN NICOLAS	
			SAN SIMON ALMOLONGAS	
			SANTA ANA	
			SANTA CATARINA CUIXTLA	
			SANTA CRUZ XITLA	
			SANTA LUCIA MIAHUATLAN	
			SANTO TOMAS TAMAZULAPAN	

州	No.	マイクロリージョン名	ムニシピオ	CEC
			SITIO DE XITLAPEHUA	
	161	RIO HONDO	SAN MATEO RIO HONDO	
			SAN FRANCISCO OZOLOTEPEC	
			SAN JUAN MIXTEPEC	
			SAN JUAN OZOLOTEPEC	
			SAN MARCIAL OZOLOTEPEC	
			SAN MIGUEL SUCHIXTEPEC	
			SAN PEDRO MIXTEPEC	
			SAN SEBASTIAN RIO HONDO	
			SANTA MARIA OZOLOTEPEC	
			SANTO DOMINGO OZOLOTEPEC	
	162	COATLAN	SAN PABLO COATLAN	
			SAN BALTAZAR LOXICHA	
			SAN JERONIMO COATLAN	
			SAN MIGUEL COATLAN	
			SAN SEBASTIAN COATLAN	
			SANTA CATARINA LOXICHA	
	163	PUTLA	PUTLA VILLA DE GUERRERO	
			CONSTANCIA DEL ROSARIO	
			MESONES HIDALGO	
	164	ZACATEPEC	SANTA MARIA ZACATEPEC	
			LA REFORMA	
			SAN PEDRO AMUZGOS	
			SANTA MARIA IPALAPA	
			SANTA CRUZ ITUNDUJIA	
	165	SOLA DE VEGA	VILLA SOLA DE VEGA	
			SAN FRANCISCO SOLA	
			SAN ILDEFONSO SOLA	
			SAN LORENZO TEXMELUCAN	
			SAN PEDRO JUCHATENGO	
			SAN VICENTE LACHIXIO	
			SANTA MARIA LACHIXIO	
			SANTA MARIA SOLA	
			SANTIAGO MINAS	
	166	TEXTITLAN	SANTIAGO TEXTITLAN	
			SAN FRANCISCO CAHUACUA	
			SAN JACINTO TLACOTEPEC	
			SANTA CRUZ ZENZONTEPEC	
			SANTA MARIA ZANIZA	
			SANTIAGO AMOLTEPEC	
			SANTO DOMINGO TEOJOMULCO	
			ZAPOTITLAN DEL RIO	
	167	YAUTEPEC	SAN CARLOS YAUTEPEC	
			NEJAPA DE MADERO	
			SAN JUAN LAJARCIA	
			SAN PEDRO MARTIR QUIECHAPA	
			SANTA ANA TAVELA	
			SANTA CATALINA QUIERI	
			SANTA CATARINA QUIOQUITANI	
			SANTA MARIA ECATEPEC	
			SANTA MARIA QUIEGOLANI	
	168	JAMILTEPEC	SANTIAGO JAMILTEPEC	
			SAN AGUSTIN CHAYUCO	
			SAN ANDRES HUAXPALTEPEC	
			SAN LORENZO	
			SANTA CATARINA MECHOACAN	
			SANTA MARIA HUAZOLOTITLAN	
			SANTIAGO IXTAYUTLA	
			SANTIAGO TETEPEC	
	169	PINOTEPA NACIONAL	SANTIAGO PINOTEPA NACIONAL	
			SAN JOSE ESTANCIA GRANDE	
			SAN MIGUEL TLACAMAMA	
			SANTIAGO LLANO GRANDE	
			SANTA MARIA CORTIJO	
			SANTIAGO TAPEXTLA	
			SANTO DOMINGO ARMENTA	
	170	PINOTEPA	PINOTEPA DE DON LUIS	
			SAN JUAN COLORADO	
			SAN PEDRO ATOYAC	

州	No.	マイクロリージョン名	ムニシピオ	CEC
			SAN PEDRO JICAYAN	
	171	CACAHUATEPEC	SAN JUAN CACAHUATEPEC	
			MARTIRES DE TACUBAYA	
			SAN ANTONIO TEPETLAPA	
			SAN JUAN BAUTISTA LO DE SOTO	
			SAN SEBASTIAN IXCAPA	
	172	JUQUILA	SANTA CATARINA JUQUILA	
			SAN JUAN QUIAHIJE	
			SAN MIGUEL PANIXTLAHUACA	
			SANTIAGO YAITEPEC	
	173	VILLA DE TUTUTEPEC	VILLA DE TUTUTEPEC DE MELCHOR OCAMPO	
			TATALTEPEC DE VALDEZ	
	174	NOPALA	SANTOS REYES NOPALA	
			SAN JUAN LACHAO	
			SAN GABRIEL MIXTEPEC	
			SANTA MARIA TEMAXCALTEPEC	
	175	PUERTO ESCONDIDO	SANTA MARIA COLOTEPEC	
	176	POCHUTLA	SAN PEDRO POUCHTLA	
			CANDELARIA LOXICHA	
			PLUMA HIDALGO	
			SAN MATEO PIÑAS	
			SAN PEDRO EL ALTO	
			SANTA MARIA TONAMECA	
			SANTO DOMINGO DE MORELOS	
	177	HUATULCO	SAN MIGUEL DEL PUERTO	
			SANTIAGO XANICA	
	178	LOXICHA	SAN AGUSTIN LOXICHA	
			SAN BARTOLOME LOXICHA	
	179	NOCHIXTLAN SAN FRANCISCO	SAN FRANCISCO CHINDUA	
			SAN FRANCISCO JALTEPETONGO	
			SAN FRANCISCO NUXAÑO	
Puebla	180	CENTRO 1	CHICHIQUILA	
			CHILCHOTLA	
			QUIMIXTLAN	
			ALJOJUCA	
			ATZITZINTLA	
			CUYUACO	
			GUADALUPE VICTORIA	
			SALTILLO LAFRAGUA	
			TEPEYAHUALCO	
			TLACHICHUCA	
			OCOTEPEC	
			SAN JOSE CHIAPA	
			SAN NICOLAS BUENOS AIRES	
			SOLTEPEC	
			FELIPE ANGELES	
	181	CENTRO 3	ACTEOPAN	
			TEPEMAXALCO	
			COHUECAN	
	182	NORORIENTAL 1	HUEHUETLA	
			HUEYTLALPAN	
			HUITZILAN DE SERDAN	
			ATLEQUIZAYAN	
			IXTEPEC	
			XOCHITLAN DE VICENTE SUAREZ	
			ZOQUIAPAN	
			JONOTLA	
			CAXHUACAN	
			NAUZONTLA	
			TUZAMANPAN DE GALEANA	
	183	NORTE 1	JALPAN	
			PANTEPEC	
			TLACUILOTEPEC	
			TLAXCO	
			FRANCISCO Z. MENA	
			PAHUATLAN	
			XICOTEPEC	
			ZIHUATEUTLA	
			ATEMPAN	

州	No.	マイクロリージョン名	ムニシピオ	CEC
			CHILA HONEY	
			NAUPAN	
			VENUSTIANO CARRANZA	
	184	NORTE 2	AHUACATLAN	
			AMIXTLAN	
			CAMOCUAUTLA	
			CHICONCUAUTLA	
			H. GALEANA	
			JOPALA	
			OLINTLA	
			SAN FELIPE TEPATLAN	
			TEPANGO DE RODRIGUEZ	
			TLAOLA	
			TLAPACOYA	
			COATEPEC	
	185	NORTE 3	TEPETZINTLA	
			AQUIXTLA	
			CUAUTEMPAN	
			CHIGNAHUAPAN	
			IXTACAMAXTITLAN	
			TETELA DE OCAMPO	
	186	SIERRA NEGRA	COYOMEAPAN	
			ELOXOCHITLAN	
			SAN SEBASTIAN TLACOTEPEC	
			V. GUERRERO	
			ZOQUITLAN	
			SAN ANTONIO CANADA	
			AJALPAN	
			CALTEPEC	
			NICOLAS BRAVO	
			ZAPOTITLAN SALINAS	
			CAÑADA MORELOS	
	187	CENTRO 2	AHUATLAN	
			CUAUTINCHAN	
			SAN DIEGO LA MESA TOCHIMILCINGO	
			SAN JUAN ATZOMPAN	
			TEOPANTLAN	
			TZICATLACOYAN	
			ATZALA	
			ATZIZIHUACAN	
			CALPAN	
			COATZINGO	
			CHIGMICATITLAN	
			EPATLAN	
			HUAQUECHULA	
			OCOYUCAN	
			SAN JERONIMO TECUANIPAN	
			SANTA CATARINA TLALTEMPAN	
			HUEHUETLAN EL GRANDE	
			SANTA ISABEL CHOLULA	
			TEOTLALCO	
			TIANGUISMANALCO	
			TLAPANALA	
			TOCHIMILCO	
			XOCHILTEPEC	
			TEPEOJUMA	
			TEPEXCO	
	188	MIXTECA 1	COHETZALA	
			CHILA DE LA SAL	
			HUEHUETLAN EL CHICO	
			IZCAMILPA DE GUERRERO	
			JOLALPAN	
			XICOTLAN	
	189	MIXTECA 2	AHUEHUETITLA	
			AXUTLA	
			CHILA	
			GUADALUPE	
			PIAXTLA	
			SAN JERONIMO XAYACATLAN	

州	No.	マイクロリージョン名	ムニシピオ	CEC
			SAN MIGUEL IXITLAN	
			TECOMATLAN	
			TEHUITZINGO	
			TULCINGO DE VALLE	
			ALBINO ZERTUCHE	
			PETLALCINGO	
			SAN PABLO ANICANO	
			SAN PEDRO YELOIXTLAHUACA	
			XAYACATLAN DE BRAVO	
			CHINANTLA	
	190	MIXTECA 3	ATEXCAL	
			COYOTEPEC	
			CUAYUCA DE ANDRADE	
			HUATLATLAUCA	
			JUAN N. MENDEZ	
			TEPEXI DE RODRIGUEZ	
			TOTOLTEPEC DE GUERRERO	
			ZACAPALA	
			CHAPULCO	
			MOLCAXAC	
			PALMAR DE BRAVO	
			QUECHOLAC	
			SAN JOSE MIAHUATLAN	
			TEPANCO DE LOPEZ	
			TLACOTEPEC DE BENITO JUAREZ	
			TOCHTEPEC	
			XOCHITLAN TODOS SANTOS	
			YEHUALTEPEC	
			ZINACATEPEC	
			ALTEPEXI	
			SAN GABRIEL CHILAC	
			SANTA INES AHUATEMPAN	
	191	NORORIENTAL 2	ACATENO	
			AYOTOXCO DE GUERRERO	
			CUETZALAN DEL PROGRESO	
			TENAMPULCO	
			HUEYTAMALCO	
			XIUTETELCO	
			XOCHIAPULCO	
			ZACAPOAXTLA	
			ZAPOTITLAN DE MENDEZ	
			ZONGOZOTLA	
	192	NORORIENTAL 3	CHIGNAUTLA	
			HUEYAPAN	
			TLATLAUQUITEPEC	
			YAONAHUAC	
			ZAUTLA	
Querétaro	193	Serrana	Pinal de Amoles	
			Arroyo Seco	
			Jalpan de Serra	
			Landa de Matamoros	
	194	San Juan del Río	Amealco de Bonfil	
	195	Cadereyta	Cadereyta de Montes	
			Colón	
			Peñamiller	
			San Joaquín	
			Tolimán	
	196	Querétaro	Huimilpan	
Quintana Roo	197	Micro1	Felipe Carrillo Puerto	
			José María Morelos	
	198	Micro2	Lázaro Cárdenas	
San Luis Potosí	199	Huasteca Sur Cafetalera	Tamazunchale	
			Matlapa	
			Xilitla	
	200	Huasteca Sur Citrícola	San Martín Chalchicuautla	
			Tampacán	
			Axtla de Terrazas	
			Coxcatlán	

州	No.	マイクロリージョン名	ムニシピオ	CEC	
	201	Huasteca Centro Piloncillera	Tanlajás San Antonio Tampamolón Corona		
	202	Huasteca Centro	Aquismón Tancanhuitz Huehuetlán		
	203	Huasteca Norte	San Vicente Tancuayalab		
	204	Media Oeste	Villa Juárez San Nicolás Tolentino		
	205	Media Este	Ciudad del Maíz Alaquines		
	206	Media Este Pame Sierra Gorda	Santa Catarina Rayón Tamasopo San Ciro de Acosta Lagunillas		
	207	Altiplano Oeste	Villa de Ramos Santo Domingo		
	208	Altiplano Centro	Venado Moctezuma Villa de Arista		
	209	Altiplano Este	Vanegas Catorce		
	210	Altiplano Este Ixtlero	Villa de Guadalupe Guadalcazar		
	211	Centro	Mexquitic de Carmona Armadillo de los Infante Villa de Arriaga Ahualulco Zaragoza		
	212	Centro Sur	Santa María del Río Tierranueva Villa de Reyes		
	Sinaloa	213	Norte	Choix Sinaloa	
		214	Centro	Mocorito Badiraguato	
		215	San Lorenzo	Cosalá Elota	
		216	Sur	San Ignacio	
	Sonora	217	Sierra de Alamos	Alamos Quiriego Rosario	
		218	Río San Miguel	San Miguel de Horcasitas	
		219	Centla	Centla	
	Tabasco	220	Huimanguillo	Huimanguillo	
221		Jonuta	Jonuta		
222		Tacotalpa	Tacotalpa		
223		Región Prioritaria Cañera	Antiguo Morelos Gómez Farías Llera Nuevo Morelos Ocampo Casas		
Tamaulipas	224	Región Prioritaria IV Distrito	Bustamante Jaumave Miquihuana Palmillas Tula		
	225	Región Prioritaria Serrana	San Carlos San Nicolás Villagrán		
	226	Altzayanca-Terrenate	Altzayanca Terrenate		
	227	Emiliano Zapata	Emiliano Zapata		
	228	Españita	Españita		
Veracruz	229	Sierra del Totonacapan	Coahuilán		

州	No.	マイクロリージョン名	ムニシピオ	CEC
			Coxquihui	
			Coyutla	
			Chumatlán	
			Filomeno Mata	
			Mecatlán	
			Zozocolco de Hidalgo	
			Espinal	
	230	Papantla	Papantla de Olearte	
			Cazones de Herrera	
			Tecolutla	
	231	Alamo Temapache	Alamo Temapache	
			Castillo de Teayo	
			Tihuatlán	
	232	Sierra de Otontepec y Laguna de Tamiahua	Citlaltépetl	
			Chinanpa de Gorostiza	
			Chontla	
			Tamalín	
			Tancoco	
			Tantima	
			Tamiahua	
			Tepetzintla	
			Ozuluama	
			Tampico Alto	
	233	Huasteca Alta	Ilamatlán	
			Texcatepec	
			Zacualpan	
			Zontecomatlán	
			Huayacocotla	
	234	Huasteca Media	Benito Juárez	
			Ixhuatlán de Madero	
			Tlachichilco	
			Chicontepec	
	235	Huasteca Baja	Chiconamel	
			Ixcatepec	
			Tantoyuca	
			Chalma	
			Platón Sánchez	
			Tempoal	
	236	Sierra de Misantla	Chiconquiaco	
			Colipa	
			Juchique de Ferrer	
			Misantla	
			Nautla	
			Tenochtitlán	
			Yecuatla	
			Alto Lucero	
			Coacoatzintla	
			Miahuatlán	
			Tepetlán	
			Tonayán	
	237	Cofre de Perote	Atzalan	
			Las Minas	
			Tatatila	
			Tlacolulan	
			Acajete	
			Altotonga	
			Jalacingo	
			Las Vigas de Ramírez	
			Villa Aldama	
			Tlalnahuayocan	
	238	Jalcomulco los Pescados	Ayahualulco	
			Ixhuacán de los Reyes	
			Cosautlán de de Carvajal	
			Apazapan	
			Jalcomulco	
			Tlaltetela	
	239	Central Semiárida	Carrillo Puerto	
			Camarón de Tejeda	
			Ignacio de la Llave	

州	No.	マイクロリージョン名	ムニシピオ	CEC
			Jamapa	
			Manlio Fabio Altamirano	
			Cotaxtla	
			Soledad de Doblado	
			Tlalixcoyan	
			Paso del Macho	
	240	Huatusco	Tenampa	
			Comapa	
			Tepatlxco	
			Alpatlahuac	
			Calcahualco	
			Huatusco	
			Coscomatepec	
			Chocamán	
			Ixhuatlán del Café	
			Zentla	
			Sochiapa	
			Totutla	
			Tlacotepec de Mejía	
	241	Cuenca del Papaloapan	Acula	
			Amatitlán	
			Chalcatianguis	
			Ixmatlahuacan	
			Tlacojalpan	
			Tuxtilla	
	242	Pico de Orizaba	La Perla	
			Aguila	
			Soledad Atzompa	
			Acultzingo	
			Atzacan	
			Ixhuatlancillo	
			Maltrata	
			Rafael Delgado	
			Tlilapan	
	243	Córdoba Tezonapa	Tezonapa	
			Amatlán de los Reyes	
			Coetzala	
			Cuichapa	
			Naranjal	
			Omealca	
	244	Sierra de Zongolica	Astacinga	
			Atlahuilco	
			Magdalena	
			Mixtla de Altamirano	
			Los Reyes	
			San Andrés Tenejapan	
			Tehuípango	
			Tequila	
			Texhuacan	
			Tlaquilpa	
			Zongolica	
			Xoxocotla	
	245	Los Tuxtlas	Angel R. Cabada	
			Hueyapan de Ocampo	
			Saltabarranca	
			San Andrés Tuxtla	
			Santiago Tuxtla	
			Catemaco	
	246	Playa Vicente	Juan Rodríguez Clara	
			Playa Vicente	
			José Azueta	
	247	Sierra de Sotepapan	Mecayapan	
			Pajapan	
			Sotepapan	
			Tatahuicapan de Juárez	
	248	Valle de Uxpanapa	Hidalgotitlán	
			Jesús Carranza	
			Uxpanapa	
			San Juan Evangelista	

州	No.	マイクロリージョン名	ムニシピオ	CEC
			Sayula de Alemán	
	249	Soconusco	Soconusco	
			Oteapan	
			Zaragoza	
			Texistepec	
	250	Las Choapas	Moloacán	
			Las Choapas	
Yucatán	251	01 Litoral Oriente	BUCTZOTZ	
			CALOTMUL	
			CENOTILLO	
			ESPITA	
			SUCILA	
			TIZIMIN	
	252	02 Oriente	CUNCUNUL	
			CHANKOM	
			CHEMAX	
			CHICHIMILA	
			CHIKINDZONOT	
			DZITAS	
			KAUA	
			TEKOM	
			TEMOZON	
			TINUM	
			TIXCACALCUPUL	
			UAYMA	
			VALLADOLID	
	253	03 Litoral Centro	BACA	
			CANSAHCAB	
			DZEMUL	
			DZILAM GONZALEZ	
			MUXUPIP	
			SINANCHE	
			SUMA DE HIDALGO	
			TEMAX	
			TEYA	
			YOBAIN	
	254	04 Centro	BOKOBA	
			CACALCHEN	
			DZONCAUICH	
			HOCTUN	
			IZAMAL	
			KANTUNIL	
			QUINTANA ROO	
			SUDZAL	
			TAHMEK	
			TEKAL DE VENEGAS	
			TEKANTO	
			TEPAKAN	
			TUNKAS	
			XOCHEL	
	255	05 Centro Sur	CUZAMA	
			HOCABA	
			HOMUN	
			HUHI	
			SANAHCAT	
			SOTUTA	
			YAXCABA	
	256	06 Influencia Metropolitana	ACANCEH	
			CHICXULUB PUEBLO	
			HUNUCMA	
			SEYE	
			TECOH	
			TIMUCUY	
			UCU	
	257	07 Litoral	CHOCHOLA	
			HALACHO	
			KINCHIL	
			KOPOMA	
			MAXCANU	

州	No.	マイクロリージョン名	ムニシピオ	CEC
			OPICHEN	
			SAMAHIL	
			TETIZ	
	258	08 Sur Poniente	ABALA	
			CANTAMAYEC	
			CHAPAB	
			CHUMAYEL	
			DZAN	
			MAMA	
			MANI	
			MAYAPAN	
			MUNA	
			SACALUM	
			SANTA ELENA	
			TEABO	
			TEKIT	
			TICUL	
	259	09 Sur	AKIL	
			CHACSINKIN	
			OXXKUTZCAB	
			PETO	
			TAHDZIU	
			TEKAX	
			TIXMEUAC	
			TZUCACAB	
Zacatecas	260	Microrregión de la Montaña	Jiménez del Teul	
			Sain Alto	
	261	Microrregión de los Cañones	Apulco	
	262	Microrregión Semidesierto	Mazapil	
		Noreste	Melchor Ocampo	
			El Salvador	
			Villa de Cos	
	263	Microrregión Semidesierto	Genaro Codina	
		Sureste	Pinos	
			Villa Hidalgo	

: CECが設置されているムニシピオ
CEC: コミュニティ戦略センター (Centro Estrategico Comunitario)

資料 4. 貧困削減に対する主な援助 (1990 年以降、国際機関、二国間)

セクター	援助機関	プログラム/プロジェクト	開始年	終了年
NGO	DFID	Mexico: Training of Mexican Ngo's for The Conservation of National Biodiversity	1998	1998
NGO	IDB	Professionalization of Non-Governmental Organizations	1999	
環境	DFID	Mexico: Cloud forest Conservation and Sustainable Development in Northern Chiapas	1995	2001
環境	IBRD/IDA	Consolidation of the Protected Areas System Project	2002	
環境	IBRD/IDA	Land Conservation Mechanisms Project	2001	
環境	IBRD/IDA	Biodiversity Conservation Project	2000	
環境	IBRD/IDA	Natural Disaster Management Project	2000	
環境	IBRD/IDA	Oaxaca Sustainable Hillside Management Project	1999	
環境	IBRD/IDA	Renewable Energy for Agriculture Project	1999	
環境	IBRD/IDA	Protected Areas Program Restructuring Project	1997	
環境	IDRC	Traditional Community Organization for Sustainable Natural Resources Development in Oaxaca (Mexico)	1996	1999
環境	USAID	Critical Ecosystems and Biological Resources Conserved		
給水/衛生	IBRD/IDA	Water Supply and Sanitation Sector Project (02)	1994	
給水/衛生	IBRD/IDA	Water Supply and Sanitation Sector Project	1990	
給水/衛生	IDB	Sustainability of Water Supply and Sanitation Services	1999	
給水/衛生	IDB	Mexico Valley Sanitation Program	1996	
教育	IBRD	Basic Education Development Project Phase (02)	2002	2004
教育	IBRD	Technical Education and Training Modernization Project	1994	2003
教育	IBRD/IDA	Knowledge and Innovation Project	1998	2003
教育	IBRD/IDA	Basic Education Development Project	1998	
教育	IBRD/IDA	Primary Education Project (02)	1994	
教育	IBRD/IDA	Initial Education Project	1992	
教育	IBRD/IDA	Labor Market and Productivity Enhancement Project	1992	
教育	IBRD/IDA	Primary Education Project	1991	
教育	IDB	Distance Education Program	1997	
教育	IDB	NAFIN Education Program	1995	
教育	JICA	Engineering and Industrial Development Center for Small and Medium Scale Industries At Queretaro State	1998	2002
社会保障/社会プログラム	FAO	Apoyo del Gobierno de Mexico en la Ejecucion de la Primera Fase del PESA	2001	2005
社会保障/社会プログラム	IBRD/IDA	Contractual Savings Development Program (02)	1998	
社会保障/社会プログラム	IBRD/IDA	Essential Social Services Program Project	1995	
社会保障/社会プログラム	IDB	Education, Health and Nutrition Program	2002	
社会保障/社会プログラム	IDB	Apoyo a Pequenos Proyectos	1998	
社会保障/社会プログラム	IDB	Capacitacion de Jovenes en Situacion de Riesgo Social	1998	
社会保障/社会プログラム	IDB	Program to Assist Children in Rural Areas	1996	
社会保障/社会プログラム	IDB	Program of Essential Social Services (PROSSE)	1995	
社会保障/社会プログラム	IDB	Municipal Development Program	1994	
社会保障/社会プログラム	IDB	Training and Services for Street Youth	1994	
職業訓練	IDB	Training and Employment Support	2002	
職業訓練	IDB	Pilot Skill Standards and Certification Project	1996	
人口/リプロダクティブヘルス	DFID	Gente Joven Jfs 1621	1999	2005
人口/リプロダクティブヘルス	DFID	The Gente Joven Youth Development Centre (Jfs 1621)	1999	2005
人口/リプロダクティブヘルス	DFID	Optimising The Integration of Livestock Into Small-Scale Low External Input Crop Systems	1997	2000
人口/リプロダクティブヘルス	DFID	Changing Livelihoods in Rural Mexico	1996	1998
人口/リプロダクティブヘルス	IDRC	Manganese Exposure in General Population Resident in A Mining District, Mexico	2000	
人口/リプロダクティブヘルス	UNDP	Monitoring and Evaluation of National HIV Prevention, Aids Care and Std Control Programs	2000	2000
人口/リプロダクティブヘルス	UNDP	Reinforcement Des formations Sanitaires Rurales Dans Les Departements De Tahoua Et Maradi	1996	1996
人口/リプロダクティブヘルス	UNFPA	Lessons Learned & Emerging Issues on Population in Mexico	2002	
人口/リプロダクティブヘルス	UNFPA	Lessons Learned & Emerging Issues on Pop in The State of Chiapas	2002	
人口/リプロダクティブヘルス	UNFPA	Lessons Learned & Emerging Issues on Population in The State of Puebla	2002	
人口/リプロダクティブヘルス	UNFPA	Reproductive Health with Gender Perspective for Youth	2000	
人口/リプロダクティブヘルス	UNFPA	Reproductive Health with Gender for Youth	2000	
人口/リプロダクティブヘルス	UNFPA	Strengthening Reproductive Health & Rights in Hidalgo	2000	
人口/リプロダクティブヘルス	UNFPA	Attention to Migrating Women Laborers	1999	
人口/リプロダクティブヘルス	UNFPA	Integral Attention on Reproductive Health to Rural Population Focused to Adolescents	1999	
人口/リプロダクティブヘルス	UNFPA	Population, Family & Reproductive Health in Rural Education	1999	
人口/リプロダクティブヘルス	UNFPA	Strengthening Sexual Reproductive Health Gender	1999	
人口/リプロダクティブヘルス	UNFPA	Volunteer Safe Motherhood Promotion in Los Altos De Chiapas Region	1999	
人口/リプロダクティブヘルス	UNFPA	Group Consultation-at Integral Model on Rh Attention	1998	
人口/リプロダクティブヘルス	UNFPA	Parenthood, Men & Women Task	1998	
人口/リプロダクティブヘルス	UNFPA	Reproductive Health in Rural Areas-Integral Model/Chiapas	1998	
人口/リプロダクティブヘルス	UNFPA	Strengthening Coespo	1998	
人口/リプロダクティブヘルス	UNFPA	Communication & Sensitization in Population	1998	
人口/リプロダクティブヘルス	UNFPA	Capacity Building/Coespo Oaxaca	1997	
人口/リプロダクティブヘルス	UNFPA	Communication/Advocacy	1997	
人口/リプロダクティブヘルス	UNFPA	Education on Population	1997	
人口/リプロダクティブヘルス	UNFPA	Improvement Rh Service Quality in Rural/Indigenous Populatio	1997	
人口/リプロダクティブヘルス	UNFPA	Info/Sensitization/Communication in Rh	1997	
人口/リプロダクティブヘルス	UNFPA	Institutional Strengthening Coespo Puebla & 58 Pop Councils	1997	
人口/リプロダクティブヘルス	UNFPA	Population, Family and Rural Education on Reproductive Health	1997	
人口/リプロダクティブヘルス	UNFPA	Sensibilization/Communication in Pop Emphasizing Rep/Health	1997	
人口/リプロダクティブヘルス	UNFPA	Sensitization in Population	1997	
人口/リプロダクティブヘルス	UNFPA	Sexual & Reproductive Health to Population	1997	
人口/リプロダクティブヘルス	UNFPA	Strengthening Attention Services to Fertile Women	1997	
人口/リプロダクティブヘルス	UNFPA	Strengthening of Reproductive Health	1997	
人口/リプロダクティブヘルス	UNFPA	Technical Assistance to Institutions on Population	1997	
人口/リプロダクティブヘルス	UNFPA	Training Reproductive Health	1997	
人口/リプロダクティブヘルス	UNFPA	Strengthening Coespo Guerrero	1997	
人口/リプロダクティブヘルス	UNFPA	Strengthening State Population Council/Chiapas	1997	
人口/リプロダクティブヘルス	UNFPA	Umbrella Project	1997	
人口/リプロダクティブヘルス	UNFPA	Sexual and Reproductive Health	1997	
人口/リプロダクティブヘルス	UNFPA	Support to The Adolescents Reproductive Health	1995	
人口/リプロダクティブヘルス	UNFPA	Support to The Mexican Demography Society (Some) Population Dissemination Programme	1995	
人口/リプロダクティブヘルス	UNFPA	XX Conference of The La Assoc. on Sociology	1995	
人口/リプロダクティブヘルス	UNFPA	Family Planning Services in Private Industries	1992	
人口/リプロダクティブヘルス	UNFPA	Sex Education Training - Teachers and Reproduction of Didactic Materials	1992	
人口/リプロダクティブヘルス	UNFPA	Adults & Sexuality Among Young People	1991	
人口/リプロダクティブヘルス	UNFPA	Support to The Family Planning Programme of The Ministry of Health	1991	
人口/リプロダクティブヘルス	UNFPA	Educative Programme for Pregnant Adolescents	1990	
人口/リプロダクティブヘルス	UNFPA	Population Education & Communication in The Year 1990	1990	
人口/リプロダクティブヘルス	UNFPA	Participation of Rural Women in The State of Chiapas, Mexico & Navarit	1990	
人口/リプロダクティブヘルス	UNFPA	Training in Demography for Nationals Involved in Population and Development Planning	1990	
人口/リプロダクティブヘルス	USAID	Combating Infectious Diseases (Tuberculosis)	1999	2004
人口/リプロダクティブヘルス	USAID	Enhanced Access, Quality and Sustainability of HIV/AIDS and STD Services and Information for Vulnerable Populations in Targeted Areas	1998	2003
人口/リプロダクティブヘルス	USAID	Enhanced Quality and Sustainability of HIV/AIDS and Sti Services in Targeted Areas		

セクター	援助機関	プログラム/プロジェクト	開始年	終了年
人口/リゾ/クティフ/ヘルス	USAID	Strengthen Institutional Base for Sustainable Microenterprise Growth by Supporting Mexican Initiatives		
人口/リゾ/クティフ/ヘルス	WEPR	Promotion of Productive Activities in Depressed Rural Areas	1993	1998
先住民	IBRD/IDA	Institutional Strengthening of The National Indigenous Insti	2001	
先住民	UNDP	Cooperacion Tecnica Para Organizaciones Sociales, Indigenas Y No Gubernamentales	2000	2000
先住民	UNDP	Desarrollo De La Mujer Indigena En Tancanhuitz	2000	2000
先住民	UNDP	Encuesta De Empleo En Zonas Indigenas	2000	2000
先住民	UNDP	Estado Del Desarrollo Economico Y Social De Los Pueblos Indigenas De Mexico	2000	2000
先住民	UNDP	Proyecto de Cooperacion Tecnica para Organizaciones Sociales, Indigenas y No Gubernamentales (Osing)	2000	2000
先住民	UNDP	Pueblos Indigenas y Acciones Indigenistas En Mexico	2000	2000
先住民	UNDP	Promocion Integral De La Familia Campesina E Indigena	1996	1996
先住民	UNFPA	Improvement Strategies of Rh Programmes to Indigenous Population	2000	
先住民	WFPR	Assistance to Education and Rural Development in Indigenous Communities	1992	1997
中小企業/マイクロナイフ	IDB	Strengthening Institutions in the Low-Income Saving & Loan Sector	2002	
中小企業/マイクロナイフ	IDB	Financial and Institutional Strengthening of States and Municipios	2002	
中小企業/マイクロナイフ	IDB	Housing Finance Program	2000	
中小企業/マイクロナイフ	IDB	Multisector Global Credit Program	2000	
中小企業/マイクロナイフ	IDB	Integration and Small Enterprises Development	1999	
中小企業/マイクロナイフ	IDB	Restructuring and Modernization of the Rural Microfinance	1998	
中小企業/マイクロナイフ	IDB	Strengthening Management of Public Credit	1997	
中小企業/マイクロナイフ	IDB	Productivity Center in Jalisco	1997	
中小企業/マイクロナイフ	IDB	Fund for the Development of Productive Projects in Rural Areas	1994	
中小企業/マイクロナイフ	USAID	Strengthen the Institutional Base for Sustainable Microenterprise Growth by Supporting Mexican Initiatives	2000	2004
農業	DFID	Enabling Dialogue	2000	2001
農業	DFID	Institutional Support to Semarnap	1999	1999
農業	DFID	Semarnap Nr Strategy	1999	2002
農業	FAO	Caseous Lymphadenitis in Sheep and Goats	1996	
農業	FAO	Middle-Sized Cities and Rural Development	1996	
農業	FAO	Pharmacokinetics of Norfloxacin in Dairy Cattle	1996	
農業	FAO	The National Dairy Systems and The Technological Development in North America in The Context of Globalization	1996	
農業	FAO	Basic Pharmacokinetics and Efficiency of The Casiopéines I, II, III and IV Over The Common Neoplasms in Minor Species	1995	
農業	FAO	Development of A System of Integral Control of The Root-Nodule Nematode (Meloidogyne Spp) in The Guava Trees of Calvillo, Aps.	1995	
農業	FAO	Efficiency Factors Which Affect The Reproduction in Ovines. Behavior Associated with The Parturition in Ewes	1995	
農業	FAO	Evaluation of Augmentative Release of Diachasmimorpha Longicaudata (Hymenoptera: Braconidae) for The Suppression of Fruitlet Populations in Mangoes Orchards in The Soconusco Areas, Chiapas	1995	
農業	FAO	Identification of The Adequate Sources of Nitrogen-Phosphate-Potassium Fertilizers for The Growing of Guava Trees (Psidium Guaiava, L.) in Calvillo Aps	1995	
農業	FAO	Medical and Veterinary Mycology	1995	
農業	FAO	Quality Control in The Rearing of Anastrepha Sp.	1995	
農業	FAO	Study of The Hematologic Parameters in Healthy Animals and in Sick Animals with Different Diseases	1995	
農業	FAO	Study of The Physiology and Alterations of Metabolic Alterations in Cows of Mexico	1995	
農業	FAO	System of Diagnosis and Prevention of The Metabolic and Rumen Alterations and Deficiencies of Minerals in Cows of Mexico	1995	
農業	FAO	Effects of Vegetable Extracts on Muscular Activity	1994	
農業	FAO	Improvement of Sheep and Bovine Productivity by Using Surgical and Nonsurgical Techniques	1994	
農業	FAO	Integral Technical Handling of Guava Tree Cropping (Psidium Guava L.)	1994	
農業	FAO	Study of The Levels of Biochemical Components and Basic Acid Equilibrium, in Healthy Animals As Well As in Sick Animals with Different Diseases	1994	
農業	FAO	Vegetal Nutrition	1994	
農業	FAO	Cooperative Research in Sustainable Natural Resources for Agriculture in Mexico and in The Southwestern United States	1993	
農業	FAO	Goats in The South of Sonora. General Situation	1993	
農業	FAO	Parasiting Situation of Goats in The South of Sonora	1993	
農業	FAO	Reproductive Situation of Goats in The South of Sonora	1993	
農業	FAO	Production and Technological Development in Sheep and Goats	1991	
農業	IBRD/IDA	El Triunfo Biosphere Reserve Project	1999	
農業	IBRD/IDA	Food Marketing and Information Systems Strengthening Project	1999	2003
農業	IBRD/IDA	Agricultural Productivity Improvement Project	1998	2003
農業	IBRD/IDA	Community forestry Project	1997	2003
農業	IBRD/IDA	Rural Development in Marginal Areas Project (02)	1999	
農業	IBRD/IDA	Rural Development in Marginal Areas Project	1998	
農業	IBRD/IDA	Aquaculture Development Project	1997	
農業	IBRD/IDA	Rural Finance Technical Assistance and Pilot Project	1996	
農業	IBRD/IDA	On Farm and Minor Irrigation Networks Improvement Project	1994	
農業	IBRD/IDA	Rainfed Areas Development Project	1994	
農業	IBRD/IDA	Agricultural Technology Project	1992	
農業	IBRD/IDA	Biodiversity Conservation Project	1992	
農業	IBRD/IDA	Irrigation and Drainage Sector Project	1991	
農業	IDB	Support for Small Farmers through PROCAMPO	2002	
農業	IDB	Food and Agriculture Sector Restructuring Program	1996	
農業	JICA	Study on Integrated Agriculture, Livestock and Rural Development Project of The Soconusco Region in Chiapas	1998	1999
農業	JICA	Study on Sustainable Development Plan of Forests in The Village of Sierra Juarez in Oaxaca	1996	1998
保健医療	DFID	Drug Advice/Prescription	1998	1998
保健医療	FAO	Agronomic and forage Study of Shrubs, Trees and Hairy Vetch	1997	
保健医療	FAO	Biological Treatment of Roushages (Stubble, Composts)	1997	
保健医療	FIMF	Male-Oriented Hiv/Aids Prevent	2001	2003
保健医療	IBRD/IDA	Basic Health Care Project (03)	2001	2007
保健医療	IBRD/IDA	Health System Reform Sector Adjustment Loan	1998	2002
保健医療	IBRD/IDA	Health System Reform Technical Assistance Project	1998	2002
保健医療	IBRD/IDA	Basic Health Care Project (02)	1995	2002
保健医療	IBRD/IDA	Basic Health Care Project	1990	
保健医療	UNDP	Health and Development: Rpmn Network Component	1997	1997
保健医療	UNFPA	Population and Poverty Health in Basic Education in The Rural Areas	1997	
保健医療	USAID	Sustainable and Effective Institutional Capacity Developed to Diagnose, Control and Monitor Tuberculosis in Target Areas		
保健医療	WHO	Women and Child Health and Family Planning	1996	1996

出典: Development Gateway, World Bank, Inter-american Development Bank, FAOのWebサイトより

資料5 . 参考文献

日本語

- ・アジア経済研究所、朽木昭文、野上祐生、山形辰史編（1997）『テキストブック開発経済学』有斐閣ブックス
- ・石井菜穂子（2001）『開発戦略の変遷と援助の有効性について』（財務省財務総合政策研究所「ファイナンス・レビュー」January-2001）
- ・石黒 馨（2001）『開発の国際政治経済学 構造主義マクロ経済学とメキシコ経済』勁草書房
- ・受田宏之（1999）『メキシコシティのオトミー 先住民の貧困研究フィールド・ノート』（ラテンアメリカ・レポート Vol.16, No.2）
- ・遅野井茂雄、志柿光浩、田島久歳、田中高編（2001）『ラテンアメリカ世界を生きる』新評論
- ・勝間靖（1999）『グローバリゼーションの社会的弱者への影響 メキシコの現状と政府の果たすべき役割』（ラテンアメリカ・レポート Vol.16, No.1）
- ・上谷 博、石黒 馨編（1998）『ラテンアメリカが語る近代—地域知の想像—』世界思想社
- ・小池洋一、西島章次編（1993）『ラテンアメリカの経済』新評論
- ・国際協力事業団 企画部（1999）『JICA 貧困削減ガイドライン策定のための基礎調査報告書』国際協力事業団
- ・国際協力事業団 国際協力総合研修所（2001）『貧困削減に関する基礎研究』
- ・ジョセフ・E・スティグリッツ著、鈴木主悦訳（2002）『世界を不幸にしたグローバリズムの正体』徳間書店
- ・世界銀行（2002）『世界開発報告 2000/2001 貧困との闘い』シュプリンガー・フェアラーク東京
- ・高木保興（2002）『開発経済学の新展開』有斐閣
- ・ダニエル・ヤーギン、ジョゼフ・スタニスロー著、山岡洋一訳（1998）『市場対国家（下巻）』日本経済新聞社
- ・チャールズ・I・ジョーンズ著、香西泰監訳（1999）『経済成長理論入門 新古典派から内生的成長理論へ』日本経済新聞社
- ・西川長夫、原毅彦（2000）『ラテンアメリカからの問いかけ ラス・カサス、植民地支配からグローバリゼーションまで』人文書院
- ・畑 恵子（2001）『メキシコ低所得層における女性労働の変容と社会政策』（「ラテンアメリカ福祉国家論序説」IDE-JETRO 研究双書 No.515）アジア経済研究所
- ・福井千鶴（2000）『ラテンアメリカ諸国における 90 年代の貧困改善の動向』（「地域政策研究」高崎経済大学地域政策学会 第3巻第1号 2000年7月）
- ・福井千鶴（2000）『ラテンアメリカ社会の人間開発と貧困の改善に関する一考察』（「地域政策研究」高崎

経済大学地域政策学会 第2巻第3号 2000年1月)

- ・毛利良一(2001)『グローバリゼーションとIMF・世界銀行』大月書店
- ・ロバート・D・パットナム著、河田潤一訳(2001)『哲学する民主主義 伝統と改革の市民的構造』
- ・柳原透(2001)『途上国の貧困削減へのアプローチと日本の貢献』(国際協力研究 Vol.17, No.2 通巻34号 2001年10月)
- ・米村明夫(1999)『メキシコの教育発展と経済的福祉・格差』(ラテンアメリカ・レポート Vol.16, No.2)

英語

- ・Luis F. López-Calva, Miguel Székely Pardo (2002) 『Assessing the Feasibility of the Targets of the Millenium: Mexico and Costa Rica』 Preliminary, Inter-American Development Bank
- ・Susan Wendy Parker and Carla Pederzini (2000) 『Differences in Education in Mexico』 World Bank
- ・World Bank, Narayan, Deepa with Raj Patel, Kai Schafft, Anne Rademacher and Sarah Koch-Schulte (2000)『*Voices of the Poor: Can Anyone Hear Us?*』 Oxford University Press.

スペイン語

- ・Adriana López Ramírez (2001)『El perfil sociodemográfico de los hogares en México 1976-1997』Consejo Nacional de Población, (CONAPO)
- ・Banco de México 『Informe Annual 2001』
- ・Consejo Nacional de Población, (CONAPO), 『Indices de marginación, 1995』
- ・Consejo Nacional de Población, (CONAPO), 『Indices de marginación, 2000』
- ・Consejo Nacional de Población, (CONAPO) (2001) 『La Población de México en el Nuevo Siglo』
- ・Consejo Nacional de Población, (CONAPO) (2000) 『Situación actual de la mujer en México Diagnóstico sociodemográfico』
- ・Enrique Hernández Laos (2000) 『Prospectiva demográfica y económica de México y sus efectos sobre la pobreza』 Consejo Nacional de Población, (CONAPO)
- ・Instituto Nacional de Estadística, Geografía e Informática (INEGI), 『Indicadores Sociodemográficos de México 1930-2000』
- ・Instituto Nacional de Estadística, Geografía e Informática (INEGI), 『XII Censo General de Población y Vivienda 2000』
- ・Instituto Nacional de Indigenista (INI) 『Programa Nacional para el Desarrollo de los Pueblos Indígena 2001-2006』
- ・Irma Arrigada (2002) 『Familias latinoamericanas. Diagnóstico y políticas públicas en los inicios del Nuevo siglo』 CEPAL
- ・John Scott (1999) 『Análisis del Programa de Educación, Salud y Alimentación (PROGRESA): México, Experiencias

- Exitosas de Combate a la Pobreza rural: Lecciones para una reorientación de las Políticas」 Organización de las Naciones Unidas para la Agricultura y la Alimentación (FAO)
- Naciones Unidas, Comisión Económica para América Latina y el Caribe (CEPAL) (2001) 『Instituciones y Pobreza Rurales en México y Centroamérica』
 - Naciones Unidas, Comisión Económica para América Latina y el Caribe (CEPAL) (2002) 『Globalización y Desarrollo』
 - Pedro Tejo (2000) 『La pobreza rural una preocupación permanente en el pensamiento de la CEPAL』 CEPAL
 - Presidencia de República 『Programa Nacional de Desarrollo 2001-2006』
 - Rossana Mostajo (2000) 『Gasto Social y Distribución del Ingreso: Caracterización e Impacto Redistributivo en Países Seleccionados de América Latina y el Caribe』 CEPAL
 - Secretaría de Desarrollo Social (SEDESOL) 『Programa Nacional de Desarrollo Social 2001-2006』
 - Secretaría de Desarrollo Social (SEDESOL) 『México 2020; Un enfoque Territorial del Desarrollo, Vertiente Urbana』
 - Secretaría de Salud (SSA) 『Programa Nacional de Desarrollo de Salud 2001-2006』
 - Secretaría de Educación Pública (SEP) 『Programa Nacional de Desarrollo de Educación 2001-2006』
 - Secretaría de Agricultura, Ganadería, Desarrollo Rural, Pesca y Alimentos (SAGARPA) 『Programa Sectorial de Agricultura, Ganadería, Desarrollo Rural, Pesca y Alimentos 2001-2006』
 - Secretaría de Hacienda y Crédito Público (SHCP) 『Programa Nacional de Financiamiento del Desarrollo 2002-2006』

Web サイト

メキシコ政府機関

- Portal del Gobierno Federal / Official Portal for the Federal Government (www.precisa.gob.mx/)
- Presidencia de la República México (www.presidencia.gob.mx/)
- Secretaría de Agricultura, Ganadería, Desarrollo Rural, Pesca y Alimentación (www.sagar.gob.mx/)
- Secretaría de Comunicaciones y Transportes (www.sct.gob.mx/)
- Secretaría de la Contraloría y Desarrollo Administrativo (www.secodam.gob.mx/)
- Secretaría de la Defensa Nacional (www.sedena.gob.mx/)
- Secretaría de Desarrollo Social (www.sedesol.gob.mx/)
- Secretaría de Economía (www.se.gob.mx/)
- Secretaría de Educación Pública (www.sep.gob.mx/)
- Secretaría de Energía (www.energia.gob.mx/)
- Secretaría de Gobernación (www.gobernacion.gob.mx/)

- Secretaría de Hacienda y Crédito Público (www.shcp.gob.mx/)
- Secretaría de Marina Armada de México (www.semar.gob.mx/)
- Secretaría del Medio Ambiente y Recursos Naturales (www.semarnap.gob.mx/)
- Secretaría de la Reforma Agraria (www.sra.gob.mx/)
- Secretaría de Relaciones Exteriores (www.sre.gob.mx/)
- Secretaría de Trabajo y Previsión Social (www.stps.gob.mx/)
- Secretaría de Salud (www.ssa.gob.mx/)
- Secretaría de Seguridad Pública y Servicios a la Justicia (www.seguridadpublica.gob.mx/phps/)
- Procuraduría General de la República (www.pgr.gob.mx/)
- Banco de México (BANXICO) (www.banxico.gob.mx/)
- Consejo Nacional de Población (CONAPO) (www.conapo.gob.mx/)
- Instituto Nacional de Estadística, Geografía e Informática (INEGI) (www.inegi.gob.mx/)
- Instituto Mexicano del Seguro Social (IMSS) (www.imss.gob.mx/)
- Instituto Nacional Indigenista (INI) (www.ini.gob.mx/presenta.html)

国際援助機関

世界銀行 (www.worldbank.org/)

米州開発銀行 (www.iadb.org/)

国連ラテンアメリカ・カリブ経済委員会 (www.eclac.cl/)

国連食料農業機関 (www.fao.org/)

二国間援助機関

USAID (www.info.usaid.gov/)

スペイン国際協力庁 (www.aeci.es/)

NGO

- ADRA México (www.tagnet.org/adramexico/)
- Centro Mexicano para la Filantropía, CEMEFI (www.cemefi.org/)
- Fundación Mexicana para el Desarrollo Rural, FMDR (www.fmdr.org.mx/)
- Fundación Mexicana Para la Planeación Familiar, MEXFAM (www.mexfam.org.mx/)

